

株式會社登記變更申請

- 一、商號 何々株式會社
- 一、本店(又ハ支店) 何市何區何町何番地
- 一、登記ノ目的 本店(又ハ支店)變更ノ登記
- 一、登記ノ事由 株主總會ノ決議ニ依リ何年何月何日本店(又ハ支店)ヲ何市何區河町何番地ニ移轉シタルニ因リ其舊所在地タル當所ニ於テ其登記ヲ求ム

一、登録税 金何圓

一、添附書類

株主總會ノ決議書

一通

委任狀

何通

右登記相成度此段及申請候也

何市何區河町何番地

年月日

申請人

何々株式會社

右代理人

何

某

何區裁判所御中

【書式】二〇、會社カ本店又ハ支店ヲ同一登記所ノ管轄内ニ移

轉シタル場合ニ於ケル登記變更申請書

(五二ノ二項)

株式會社登記變更申請

一、商號 何々株式會社

一、本店(又ハ支店) 何市何區河町何番地

一、登記ノ目的 本店(又ハ支店)變更ノ登記

一、登記ノ事由 株主總會ノ決議ニ依リ何年何月何日本店(又ハ支店)ヲ

何市何町何番地ニ移轉シタルニ因リ其所在地タル當所ニ於テ其登記

ヲ求ム

一、登録税 金何圓

一、添附ノ書類 株主總會ノ決議書

右登記相成度此段及申請候也

何市何區河町何丁目何番地

年月日

申請人

何々株式會社

第二章 株式會社・發起設立・變更消滅ノ登記

一七一

取締役

何 某 ●

同

何 某 ●

同

何 某 ●

何區裁判所御中

【書式】 二二、會社カ拂込株金額ヲ變更シタル場合ニ於ケル登

記變更申請書（五三、一四一、非訟一八八）

株式會社登記變更申請

一、商號 何々株式會社

一、本店（又ハ支店） 何市何區何町何番地

一、登記ノ目的 拂込ミ株金額變更ノ登記

一、登記ノ事由 定疑ニ基キ（又ハ株主總會ノ決議ニ因リ）何年何月何

日各株ニ付キ金何圓宛拂込ヲ結了シ各株ニ付拂込タル株金額金何圓

ト變更シタルニ因リ本店（又ハ支店）ノ所在地タル當所ニ於テ其登記

ヲ求ム

一、課稅標準價格 金何圓

一、登錄稅 金何圓

一、添附書類 株主總會ノ決議（總會ノ議決ニ因リ拂込ヲ爲シタル場合

ニ限ル） 一通及ヒ委任狀何通

右登記相成度此段及申請候也

何市何區何町何丁目何番地

年月日

申請人

何々株式會社

右代理人

何 某 ●

何區裁判所御中

【書式】 二二、會社ノ取締役又ハ監査役カ其氏名又ハ住所ヲ變

更セル場合ノ登記申請書（五三、一四一、非訟

一八八ノ三項、商登一四、二五、五〇）

株式會社登記變更申請

一、商號 何々株式會社

一、本店（又ハ支店） 何市何區何町何番地

第二章 株式會社・發起設立・變更消滅ノ登記

- 一、登記ノ目的 取締役(又ハ監査役)ノ氏名(又ハ住所)變更ノ登記
- 一、登記ノ事由 取締役(又ハ監査役)何某ハ何年何月何某ト改名(又ハ何某ハ其住所ヲ何市何區何町何番地ニ移轉)シタルニ因リ本店(又ハ支店)ノ所在地タル當所ニ於テ其登記ヲ求ム
- 一、登録税 金何圓

右登記相成度此段及申請候也

何市何町何丁何番地
 年月日 申請人 何々株式会社
 取締役 何某

何區裁判所御中

【書式】二二三、會社ノ取締役又ハ監査役ノ變更セル場合ニ於ケル登記申請書(五三、一四一、非訟一八八、一八九)

株式會社登記變更申請

- 一、商號 何々株式会社

- 一、本店(又ハ支店) 何市何區何町何番地
 - 一、登記ノ目的 取締役又ハ監査役變更ノ登記
 - 一、登記ノ事由 取締役(又ハ監査役)左ノ通り變更シタルニ因リ本店(又ハ支店)ノ所在地タル當所ニ於テ其登記ヲ求ム
- 取締役(又ハ監査役)何某何某何某ハ任期ノ滿了ニ因リ何年何月何日退任シ左ニ掲クル三名ハ株主總會ニ於テ取締役(又ハ監査役)ニ選任セラレ何年何月何日就任

何市何町何番地 何某
 何市何町河番地 何某
 何市何町何番地 何某

取締役(又ハ監査役)左記三名ハ任期滿了ノ處株主總會ニ於テ再選セラレ何年何月何日重任

何市何町何番地

何

何市何町何番地

某

何

何市何町何番地

某

何

取締役（又ハ監査役）何某ハ任期滿了ニ因リ何年何月何日退任シ取締役

（又ハ監査役）何某ハ任期滿了ノ處株主總會ニ於テ再選セラレ何年何月何

日重任シ左記何某及ヒ何某ハ株主總會ニ於テ取締役（又ハ監査役）ニ選任

セラレ何年何月何日就任

何市何町何番地

某

何

何市何町何番地

某

何

取締役（又ハ監査役）何某ハ何年何月何日辭任（又ハ死亡）シ左記何某ハ株

主總會ニ於テ取締役又ハ監査役ニ選任セラレ何年何月何日就任

何市何町何番地

某

何

某

一、登録税 金何圓

一、添附書類 株主總會ノ決議書一通及ヒ委任狀 何通

右登記相成度此段及申請候也

何市何區何町何番地

年月日

申請人

何々

株式會社

何市何町何番地

右代理人 何

某

何々區裁判所御中

（注意）右列記ノ事項中該當ノモノヲ擇ヒ又ハ之レニ準シ記スヘシ

其四 登記ノ效力

〔八五〕 株式會社ノ設立ハ其本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニアラサ
レハ之レヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス（四五）即チ會社ノ
設立登記ノ效力ハ左ノ如シ

（一） 第三者ニ對抗シ得ルコト（四五）

第二章 株式會社・登記設立・登記ノ效力

- (二) 開業ノ準備ニ著手シ得ルコト(四六)
- (三) 株券ノ發行株式ノ讓渡及ヒ其豫約ヲ爲スコトヲ得ルコト(一四七、一四九)
- (四) 商號權ノ發生スルコト(一九、二〇)
- (五) 詐欺又ハ強迫ヲ理由トシテ株式申込ノ取消ヲ許ササルニ至ルコト(一四二、民九六)

第四節 募集設立

〔八六〕 株式會社ノ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケス一部ヲ引受ケ其殘部ヲ發起人以外ニ引受ケシムル場合ハ是レヲ募集設立ト稱ス此場合ニ於ケル會社ノ設立ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立スルモノトス (二二五、一三九)

第一 株式ノ募集

〔八七〕 株式ノ募集ハ必スシモ廣ク一般ノ公衆ヨリ之レヲ爲スコトヲ要セス又必スシモ公然之レヲ募集スルコトヲ要セス又苟クモ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セス且ツ株式會社ノ本質ニ反セサル以上ハ如何ナル募集條件ヲ附スルモ亦妨ケス(民九〇)

其一 株式申込證

〔八八〕 發起人カ株主ヲ募集スルニハ先ツ株式申込證ヲ作成シ之レニ因リテ株式ノ申込ヲ爲サシメサルヘカラス株式申込證ニ據ラサル株式ノ申込ハ無効ナリ(一二六) 是レ株主タラントスル者ヲシテ會社ノ根本

〔判例〕四九

定款作成ノ年月日ノ記載ヲ缺キタル株式申込證ノ效力

(大審院六、五、二九)

株式申込證ニ眞正ナル定款作成ノ年月日ノ記載ヲ缺クトキハ其株式申込ハ無効ナリ斯ル申込證ヲ用ヒタル株式申込ハ無効ニ歸スモノナリ

〔判例〕五〇

瑕疵アル株式申込證(東京控訴院四二、六、一六)

株式申込證ハ商法第一二六條第二項ニ規定セル事項ヲ適當ニ記載セサル瑕疵アリトスルモ苟クモ其中込證ニ引受クヘキ株式ノ數ヲ記載(判四九、五〇)

的組織ヲ悉知セシメ且ツ會社ノ資本ヲ強固ナラシムル所以トス

〔八九〕 株式申込證ニ記載スヘキ法定事項ハ左ノ如シ(一二六ノ二項)

- (一) 定款作成ノ年月日
- (二) 定款ニ記載スヘキ絕對並ヒニ相對事項但シ相對事項ハ定款ニ定メアル場合ニ限ル絕對事項中補足事項モ亦同シ
- (三) 各發起人カ引受ケタル株式ノ數及ヒ住所
- (四) 第一回拂込ノ金額
- (五) 一定ノ定期マテニ會社カ成立セサルトキハ其株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ヘキコト

株式申込證カ右ノ法定要件ヲ缺クトキハ其申込ハ法律上無効タルモノトス但シ其他ノ任意事項ノ記載ハ之レヲ禁セス

【書式】二四、株式申込證

三錢 株式申込證

但シ一株ニ付キ金何圓何錢也

此證據金

但シ一株ニ付キ金何圓何錢也

特引受人ニ於テ萬一拂込ヲ怠リ引受人タルノ權利喪失ノ場合ニハ證據金ノ返還ヲ受ケス會社ノ所有ニ歸スヘキコトヲ承諾シ且ツ申込株式數カ募集株式數ニ過シタル場合ハ此申込株式數ヨリ少數ノ株式ヲ割當相成候共異議無之事

右ハ貴會社定款並ニ左記ノ事項承認ノ上前書ノ株式引受申候依テ證據金相添ヘ此段申込候也

住 所

年 月 日

申 込 人 何

何々株式會社發起人御中

一、定款作成ノ年月日 何年何月何日

一、目 的 何々ニ關スル業務

一、商 號 何々株式會社

一、資 本 ノ 總 額 金何萬圓

一、壹 株 ノ 金 額 金何圓

一、第一回ノ拂込金額 壹株ニ付キ金何圓

一、取締役カ有スヘキ株式數 何株以上

第二章 株式會社・募集設立・株式ノ募集

〔判五一〕

シ之レニ署名シテ株式ノ申込ヲ爲シタル者ハ後日自ラ創立總會ニ出席シテ其設立決議ノ數ニ加ハルカ或ハ會社設立後株主タル權利ヲ行使スルカ若クハ其職務ヲ履行シタルコトアルトキハ最早會社ニ對シ合式ノ株式申込證ニ依リテ申込みタル者ト等シク株主タルノ權利義務ヲ有スルモノトス

【判例】五一

株式申込證ノ要件(大審院 五、一〇、七)

商法第一二六條第二項第三號ニ依リハ株式申込證ハ發起人之レヲ作リ之レニ發起人カ引受ケタル株式ノ數ヲ記載スルコトヲ要スルモ其發起人及ヒ引受數ハ定款ニ署名又

ハ記名捺印シタル發起人及ヒ其引

受株數ヲ謂フモノニシテ此要件ヲ

具備スル株式申込證ナル以上ハ他

ニ法律上發起人ト稱スヘキモノニ

アラサル者ヲ發起人トシ及ヒ其引

受數ノ記載アルモ無効ノ株式申込

證ニアラス從ツテ之レニ依リテ爲

シタル株式ノ申込モ亦無數ニアラ

【判例】五二

虛無人ノ署名(大審院四

四、一一、九)

株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證ニ署名スルコトヲ要スルハ商法第一二六條ノ規定スル所ニシテ其署名ハ自己ノ名ヲ署スルノ義ナルヲ以テ虛無人ノ名ヲ署シタ

(判五二)

何々株式會社

創立委員長 何

某

何某殿

【備考】八、株式會社目論見書實例

多摩川水力電氣株式會社株式貳萬株公募

本水力ハ東京市ノ水道用水タル多摩川ノ河水ヲ使用セントスルモノナルヲ以テ府市民諸君ト慶福ヲ共ニセントスル趣旨ニ於テ特ニ發起人ノ引受株貳萬株ヲ割キ之ヲ公募ニ付セントス願クハ別紙申込書ノ要領ニ基キ募集ニ應セラレンコトヲ希フ

募集要項

- 一、資本金總額 金壹千萬圓(總株數貳拾萬株)
- 一、壹株ノ金額 金五拾圓
- 一、募集株數 貳萬株(總株數貳拾萬株中、拾八萬株)
- 一、申込單位 拾株(發起人賛成人ニ於テ引受済)
- 一、申込證據金 壹株ニ付金貳圓五拾錢
- 一、第一回拂込株金 壹株ニ付金拾貳圓五拾錢(申込證據金併算)

(判五五)

【判例】五五

取消權ナキ株式ノ取消(東京地方裁判所二、一一、一一)

株式ノ引受ハ株式會社存立ノ基本ニ關スル事柄ニシテ會社代表者カ株主ノ株式申込ノ取消權ナキニ拘ハラズ其取消ヲ承認シ以テ株式引受ノ效果ヲ消滅セシムルカ如キハ當ニ會社自身ノ存立ヲ危クスルノミナラス延ヒテ會社債權者ニ對シ不測ノ損害ヲ及ホス恐アリ法律上有效ニ爲シ得ヘキモノト解シ得サルヲ以テ縱令當事者ニ如何ナル契約アルモ之レニ因リテ會社ノ株主タル權利義務ヲ離脱シタルモノト爲スヘカラス

一、第一回拂込期日 大正十二年五月十五日

一、申込期間 大正十二年四月五日ヨリ十日迄

一、募入決定方法 應募株數超過ノ場合ハ發起人ニ於テ適宜決定ス

一、利息配當 營業開始ニ至ルマテ年五歩ノ利息配當ヲナス

目論見書

一、多摩川

玉川上水ハ古ヨリ江戸文明ノ誇トスルモノ我多摩川水力電氣株式會社ハ其ノ源泉タル多摩川流域ニ發電所ヲ設ケ電力ヲ東京ニ供給セントスルモノナリ

抑々多摩川ハ遠ク其源泉ヲ甲州東山梨郡神金村ニ發シ、親川、小菅川、日原川、秋川、淺川等ノ支流ヲ合シテ東京灣ニ注ク其上水ノ集水面積無慮參拾壹平方里(四萬八千餘町步)ニシテ其大部分(四萬四千町步)ハ針葉樹林ニシテ總面積ノ九割餘ハ樹木ヲ以テ掩ハル、サレハ耕地、宅地、道路川敷等ハ總面積ノ一割弱ニ過キス蓋シ水川村以東ハ古來ヨリ青梅丸太ノ生産地ニシテ殖林即チ住民ノ生命トスル所從テ林相極メテ整然タリ其上流ニ至テヤ幕府ノ當時既ニ御止メ出ノ制アリ近年更ラニ東京市自ラ水源涵養ノ目的ヲ以

第二章 株式會社・募集設立・株式ノ募集

(判五六)

【判例】五六

株金拂込ノ方法(大阪控訴院七、二、三)

株式會社ノ株金第一回拂込ニ付キ會社ヨリ株金拂込ノ取扱ノ委託ヲ受ケタル銀行ト交渉ノ上同銀行ニ對シ爲替手形ノ割引ヲ求メ之レニ依リテ借入レタル金額ヲ以テ拂込ニ當ル金員ノ拂込ヲ爲シ同時ニ會社カ之レヲ同銀行ノ預金ニ振替ヘルコトヲ同銀行ト約シタルトキハ其拂込ハ眞實ニ爲シタルモノニシテ拂込ヲ假裝シタルモノニアラス

(判五七)

【判例】五七

株金拂込ノ強制(東京控訴院四四、三、二一)

株式引受人カ第一回ノ拂込ヲ爲ササルトキハ其拂込ヲ爲ササル株式

(判五六、五七)

テ營林事業ヲ起シ毎年ノ經費數萬圓ヲ支出スル事トナリ居レリ此計畫ハ明治四十三年以來三十ヶ年ニシテ結了スル筈ナレハ本水源ハ今後益々改善セラレテ流量ヲ増加スヘク現ニ既ニ今日ニ於テモ青ヲ凝ラシ霧ヲ掃フノ壯觀實ニ模範的ノ林相ナリ

一、地 質

多摩川流域ノ地質ハ其全部殆ント秩父古生層ニシテ之ヲ組織スル主岩ハ輝石、珪石、凝灰質岩、砂岩、粘板岩等ニシテ石灰岩所々ニ露出シ崩壊シ易カラサル性質ナリ溪流ノ水質清冽ナル謂アルト云フヘシ

一、水力ノ理想境

夫レ水力發生ノ要件ハ先ツ水頭ノ高キ位置ヲ求メ得ルニアリ、我多摩川ノ流域ハ秩父境ノ唐松尾嶺ノ標高海拔實ニ六千九百六十尺而シテ東京市水道ノ取入口タル羽村ハ僅ニ四百五十尺ナリサレハ吾カ各發電所ハ別ニ表示スルカ如キ高落差ヲ有ス且ツ水力ハ四季ヲ通シテ枯渴セサル水量ヲ要求ス吾カ多摩川ハ林相良キヲ以テ降雨アルモ樹根ニ吸集シ好ク調節セラレ滾々タル泉滴トナリ津々タル溪流ヲナス而シテ四澤ノ流レ相合シテ碧潭トナリ奔瀨トナリ清冽玉ノ如クニシテ長流シ夏季ノ旱魃冬季ノ凍結猶ホ且ツ甚シ

キ涸渴ヲ來サス流量ノ變化少キコト別表第三號ノ如シ水力起業地トシテ實ニ絶好ノ理想境ナリ

一、多摩川水力ノ由來

吾等發起人カ多摩川ノ水力ヲ利用セントシテ出願シタル第一着手ハ明治三十六年二月ニシテ爾後競願續出シ大正七年中其筋ノ懸懸ニヨリテ合同ノ上更メテ出願シ大正十一年七月二十九日ニ至リ初メテ許可ヲ得タリ

一、距離 近シ

東京ト本社發電所トノ距離ハ頗ル近ク三田發電所ト大東京市ノ西端烏山トノ距離ハ僅ニ十一里ニシテ其餘ノ發電所皆三田發電所ニ連結シテ併列運轉ヲ爲シ得ヘシ

一、發 電 力

本社ノ既ニ許可ヲ得タル三發電所ハ青梅鐵道ノ終點ヲ距ルコト約一里ナル三田發電所ヲ基點トシ夫ヨリ更ニ一里半ニシテ古里發電所更ニ一里弱ニシテ氷川發電所ノ三ヶ所ナリ其發電力ハ別表第一號ノ如シ、又出願中ノ發電力及水量關係ニヨリ擴張スヘキ餘力ハ別表第二號ノ如シ

一、工費ノ低廉

第二章 株式會社・募集設立・株式ノ募集

ニ付株主ヲ募集スルコトヲ爲サス直チニ其株式引受人ニ對シ拂込債務ノ強制履行ヲ請求スルコトヲ得ヘシ此場合ニハ株式引受人ハ其權利ヲ失フモノニアラス

【判例】五八

手形割引ニ依ル株金拂込ノ有效(東京地方裁判所五、七、二九)

株式引受人カ株金拂込取扱銀行ニ對シ約束手形ヲ發行シ其割引ヲ受ケタルトキハ株式引受人ハ之レニ因リ取得シタル金員ヲ以テ右手形割引ヲ爲スヘク銀行ハ現實ニ右手形割引金ヲ引式引受人ニ引渡シ更ニ拂込査金トシテ其交付ヲ受クルノ手續ヲ省略シタルモ右手手續ヲ履行シタルト同一ノ法律上ノ效果ヲ發生ス蓋シ取扱銀行ハ銀行ノ性質上當時右引渡スヘキ金員ヲ所存シタリト認ムルヲ相當トスレハナリ

【判例】五九

株金拂込義務ト時効東京控訴院(六、一、一一)

株金拂込ノ義務ハ株式ノ引受ニ依リテ生シ株式ノ引受ハ商行爲ニアラサルヲ以テ株金拂込ノ義務ニ付テハ商法第二八五條ノ適用ナク其義務ハ民法第一六七條第一項ニ依リ十年ノ時効ニ依リテ消滅スヘキモノトス

【判例】六〇

株主ノ拂込義務ト會社ノ債務トノ相殺(大審院四五、

本社ノ發電工事費ハ既許可(約一萬一千五百四十馬力)ノ分金四百五拾六萬餘圓ニシテ一馬力約金參百九拾貳圓ナリ出願中ノモノ及ヒ水量増加ニヨリ擴張シ得ヘキ餘力(合計一萬二千三百馬力)ノ發電工事費ハ金參百八拾四萬圓ニシテ一馬力當リ約金參百拾貳圓弱ナリ外ニ送電線路費及避降變電所費約金壹百拾萬圓ニシテ總馬力數ヲ以テ總工費ニ割當ル時ハ東京着第一馬力ノ單價實ニ金四百六拾壹圓弱ニ過キス近年稀ユ見ル所ノ低廉ナルモノナリ

一、營業ノ優越

本社發生電力ハ許可命令書第二十條ニヨリ其二分ノ一ハ東京市ニ優先買上ノコトヲ命セラレ猶其餘力ハ京王、玉川、王子等ノ各電氣鐵道會社ト賣買ノ豫約アリ而シテ第一回拂込ヲ以テ工事着手後一ケ年半ニシテ第一發電所竣工營業ヲ開始シ直ニ相當ノ配當ヲ爲シ得ヘキ利便アリ
既ニ起業費低廉ナルヲ得財實利益ノ多カルヘキハ論ヲ俟タス假ニ既許可ノ分ノミヲ以テ全送電線費ヲ負擔スルモ一キロノ單價貳錢五厘トシテ毎日十五時間ヲ販賣シ得ハ其配當率一割二分強ニ上ルヘク全部完成ノ上ハ優ニ一割四分ヲ超ユヘシ

(判六〇、六一)

三、五)

株式引受人ハ其引受ケノ趣旨ニ從ヒ嚴格ニ株金拂込ノ義務ヲ履行スヘク會社ハ株金拂込ノ請求ヲ阻止スルノ契約ヲ爲スコトヲ得ス故ニ拂込義務ト會社ノ株主ニ對スル他ノ債務トカ雙方辨濟期ニ在ルトキハ商法第一二八條第二項第二一九條ノ規定ヲ害セサル限りハ金錢授受ノ煩ヲ避クル爲メ之ヲ相殺スルコトヲ得レトモ豫メ將來引受ニ因リテ成立スヘキ株金拂込ノ債務全部ニ付キ相殺契約ヲ結フコトヲ得サルモノトス

【判例】六一

發起人ニ對スル株金返還請求ノ規定(神戸地方裁判所

第二 株式ノ引受

〔九〇〕 株主タラントスル者カ株式ノ申込ヲ爲サントスルニハ必ス發起人ノ作成シタル株式申込證二通ニ其引受クヘキ株式ノ數及ヒ住所ヲ記載シ之レニ署名スルコトヲ要ス(一二六)但シ額面以上ノ發行ヲ爲ス場合ニ於テハ其引受價格ヲ記載セサルヘカラス蓋シ此二通ヲ要スル所ニ以ハ一ハ會社ノ保存ノ用ニ供シ一ハ設立登記ノ際ニ裁判所ヘ添附提出セシムル用ニ供スルカ爲メナリ(非訟一八七)而シテ券面額ヲ下リタル價格ヲ以テ引受ケヲ爲スヘシト謂フカ如キハ株式ノ本質ニ反スルヲ以テ其無効タルハ勿論ナリ(一二八、一四三)然レトモ株式ノ申込ニ對シ條件附ラスルハ法令ニ反セサル以上之レヲ爲シ得ルモノトス加之發起人ト雖モ發起人タル地位ヲ離レテ株式申込證ニ依リテ更ニ株式ノ申込ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス

其一 株式ノ申込ト割當

〔九一〕 發起人ハ株式ノ申込ニ對シ任意ニ株式ノ割當ヲ爲シ其引受數

一〇、六、一〇)

會社カ實質的ニモ形式的ニモ成立セス從ツテ清算手續ノ行ハレサル場合ニ於テノミ株主ハ商法第一四二條ノミニ依リ自ラ第一回拂込金ノ返還ヲ發起人ニ對シ請求シ得ルモノナリ換言スレハ同條ハ會社カ全然成立セス從ツテ清算手續カ行ハレサル場合ニ於ケル發起人ノ責任ヲ規定シタルモノニシテ苟クモ形式的ニ一旦成立シテ清算手續ニ於テ發起人ノ責任ヲ問ヒ得ル場合ニ於テハ同號ノ適用ナキモノトス

【判例】六二

失權ノ無通知ト株主權ノ存在(長崎地方裁判所(法)六〇七、一二)

(判六二)

ヲ確定セシムルコトヲ要ス株式ノ申込人ハ茲ニ始メテ株式ノ引受人トナリ其引受クヘキ株式ノ數ニ應シテ拂込ヲ爲スヘキ義務ヲ負フモノトス(一二七) 即チ株式ノ申込ハ申込人對發起人間ノ一種ノ契約ナリトス(九二) 此割當ノ通知ハ株式申込人ノ住所又ハ其者カ特ニ發起人ニ通知セル住所ニ宛ツヘキモノトス(一二六ノ二、一二七ノ二)

【書式】 二六、發起人引受株式割當通知書

拜啓貴殿御引受ノ株式ニ對シ發起委員會ニ於テ何株ヲ割當候ニ付キ別紙封中ノ株式申込證ニ記名御捺申ノ上壹株ニ付キ證據金何圓何錢宛來ル(月)何日迄ニ左記取扱所へ御拂込相成度御通知申上候 敬具
年月日

何々株式會社

發起人總代 何 某

發起人 何 某 殿

取扱所

何々銀行 當創立事務所

(判六三)

商法ノ規定ニ依レハ株式引受人カ第一回ノ拂込ヲ爲ササルトキ其權利ヲ失フヘキ旨ノ通知ヲ受クルニアラサレハ株式引受人ハ依然トシテ株主權ヲ保有スヘク而シテ第一三〇條第二項ノ手續ニ依リ失權セシムヘキヤ否ヤハ發起人ノ自由ニ屬スルモノトス

【判例】六三

株式引受人ノ債務履行(大阪控院四三、一一、一五)

株式引受ハ一種ノ契約ニシテ其引受ニ依リテ株式ヲ得タル株主カ株金ノ拂込ヲ爲スコト及ヒ株金滯納ニ因ル失權ノ結果株式競買不足額ノ辨濟ヲ爲スコトハ共ニ株主カ會

【書式】 二七、賛成人引受株式割當通知書

拜啓曩ニ御申込ニ相成候貴殿御引受株式何株別紙封中ノ株式申込證ニ記名御捺印ノ上一株ニ付キ證據金何圓何錢宛來ル(月)何日迄ニ左記取扱所へ御拂込相成度御通知申上候 敬具

追テ右期間内ニ證據金御拂込無之時ハ株式引受御拋棄相成候モノト認メ處置可致爲念申添ヘ候

年月日

何々株式會社

發起人總代 何 某

何 某 殿

取扱所

何々銀行 當創立事務所

【書式】 二八、株式確定ニ關スル通知書

通知書 (其一)

一、何々株式會社株式

何 株

右ハ貴殿カ曩ニ當會社募集ノ際ニ何株ノ株式申込有之候處割増金ノ順位

第二章 株式會社・募集設立・株式ノ引受

社ニ對スル契約上ノ債務ノ履行ニ外ナラス

ニ依リ貴殿ニ對シ株式割當確定仕候間御通知申上候尙ホ募入漏ノ何株ニ對スル證據金及ヒ割増金ハ左記ノ通り爲替ヲ以テ御返金仕候ニ付キ御收納被下度候

敬具

一、金何圓何錢也

何株分

證據金

一、金何圓何錢也

何株分

割増金

計

追而第一回株金拂込ノ節ハ左記取扱所へ本書御持參相成度候

何々株式會社

年月日

發起人總代

何

某

何某殿

株式拂込取扱所

何々銀行

何市何區何町何丁目

何々會社

何市何區何町何丁目

通知書 (其二)

一、何々株式會社株式

何某

右ハ貴殿カ曩ニ當會社株式募集ノ際ニ株式何株引受申込ニ相成候處株式

割當確定仕リ候間此段通知申上候也

敬具

追テ第一回拂込ノ節ハ取扱所へ本書御持參相成度候

何々株式會社

年月日

發起人總代

何

某

何某殿

通知書 (其三)

拜啓陳者當會社株式募集ノ際ニ株式申込相成候處割増金ノ順位ニ依リ募入漏レニ相成候間左記金額爲替ヲ以テ御送金申上候間御納入被下度候

一金何圓何錢也

何株分

證據金

一金何圓何錢也

何株分

割増金

計

右御通知申上候也

敬具

年月日

何々株式會社

發起人總代

何

某

其二 株式ノ申込ト證據金

第二章 株式會社・募集設立・株式申込ト證據金

〔九三〕 發起人ハ株式ノ募集ニ當リ株式ノ申込人ヨリ其株式ノ引受ヲ確實ナラシムルカ爲メ證據金トシテ一定ノ金錢ヲ徵收スルヲ以テ一般ノ慣習トス此場合ニ於テ發起人カ株式ノ申込人ニ其割當ヲ爲ササリシトキハ其申込人ニ對シ證據金ノ返還ヲ爲スヘキモノトス而シテ其割當ヲ爲シタル場合ニ於テハ之レヲ第一回ノ拂込ニ振替ヘルヲ以テ一般ノ慣習トス

〔書式〕 二九、株式申込證據金領收證

(第一回拂込ハ此證據金ヲ拂込ミタル扱所へ御拂込ヲ乞フ)

參錢
收入 何々株式證據金領收證

一金何圓何錢也

株式 何株分 但シ壹株ニ付キ金何圓何錢也

右何々株式會社株式申込證據金トシテ正ニ領收致候也

追テ此證據金ハ第一回株式拂込金ニ併算可致候其際拂込金

ト共ニ御差出可被下候也

年月日

何 某 殿

株金拂込取扱所

何々銀行

何々株式 證據金領收報告書

株式引受人 何

某

一金何圓何錢也

株式 何株分 壹株ニ付キ金何圓何錢也

年月日 株金拂込取扱所

何々銀行

發起人御中

何年何月何日	
金額	
株數	
株主	摘要
何	某

【書式】三〇、株式申込證據金並ニ割増金領收證

(第一回拂込ハ此證據金ヲ拂込ミタル扱所(御拂込相成度候)

參錢 株式證據金領收證
收入 割増金

一金
内證據金 何圓 割増金 何圓
株式 何株分 但シ證據金壹株ニ付キ金何圓
右何々株式會社株式申込證據金並ニ割増金トシテ正ニ領收致候也
追テ此證據金ハ第一回株式拂込金ニ併算可致候間其際拂込金ト共ニ御差出可被下候也
年月日 株金拂込取扱所
何 某 殿 何 々 銀行

株式申込證據及ヒ割増金領收報告書
株式引受人 何 某
一金何圓也
内證據金 何圓 割増金 何圓

株式 何株分 但シ壹株ニ付キ證據金何圓
年月日 割増金何圓

發起人御中
株金拂込取扱所
何 々 銀行

何年何月何日		
額	金	円
内	譯	
證據金	割増金	株
主 株	株數	摘要
	何	株

其二 株式申込ノ取消

〔九四〕 株式ノ申込人ハ株式申込證ニ記載セラレタル一定ノ時期マテニ會社カ成立セサルトキハ株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ルモノトス
(一二六) 取消シタル行爲ハ初メヨリ無効ナリシモノト看做サル(一四二ノ三、民一二一) 蓋シ株式ノ申込ハ法律行爲ナルヲ以テ法定ノ原則ニ因

ル場合ハ又之レカ取消ヲ爲シ得ルハ勿論トス即チ未成年者（民四）禁治
産者（民九）準禁治産者（民法一二）及ヒ妻（民法一四）ノ如ク無能力者タ
ル場合竝ヒニ詐欺又ハ強迫ニ因ル場合（民法九六）ノ如シ

〔九五〕 然レトモ商法ハ會社設立ノ登記ヲ其本店ノ所在地ニ於テ爲シ
タル後ハ詐欺又ハ強迫ニ因ル理由ヲ以テ之レカ取消ヲ爲スコトヲ禁セ
リ（一四二）但シ無能力者ニ因ル取消ニ付キテハ別ニ制限ナシ

【書式】 三一、株式申込取消及ヒ拂込金返還請求書

拙者儀何年何月何日貴殿等ノ發起ニ係ル何々株式會社ノ株式何株也ヲ引
受ケ且ツ第一回株金拂込ノ催告ニ因リ何年何月何日金何圓也ノ拂込ヲ爲
シタル處該株式申込證ニ記載アル株式ノ申込ヲ取消シ得ヘキ時期何年何
月何日ヲ經過セルニ拘ハラヌ未タニ會社ノ設立ヲ見サルニ付キ商法第百
二十六條ノ規定ニ依リ前記株式ノ申込ヲ取消ス依ツテ右拂込金何圓也ヲ
速ニ御返還相成度此段及請求候也

年 月 日

何府何市何區何町何番地

株式引受人

何

某 ㊦

何々株式會社

發起人 何 某 殿

【書式】 三二、無能力者ノ爲ス株式申込取消ノ通知書

拙者儀何年何月何日貴殿等ノ發起ニ係ル何々株式會社ノ株式何株也ヲ引
受クヘク申込候處其當時ハ勿論今日ニ於テモ禁治産（又ハ未成年、準禁治
産、妻）ニシテ且ツ右申込ニ付キ法定代理人（又ハ保佐人若クハ夫）ノ同意
（又ハ許可）ヲ得ス依テ民法第九條（又ハ四條、十二條、十四條）ヲ以テ取
消シ得ヘキニ付キ同第二百二十條第百二十三條ニ依リ右申込ヲ取消致候此
段及御通知候也

年 月 日

何市何區何町何番地

何

某 ㊦

何々株式會社

發起人 何 某 殿

【書式】 三三、法定代理人ノ爲ス株式申込取消ノ通知書

何某儀何年何月何日貴殿等ノ發起ニ係ル何々株式會社ノ株式何株也ヲ引
受クヘク申込タル趣キニ候得共同人ハ未成年者ニ付キ民法第四條ニ依リ

其法定代理人タル拙者ニ於テ同意ナキ行爲ナルヲ以テ同第二百二十條第百二十三條ニ依リ同人カ爲シタル右ノ申込ヲ取消致候此段及御通知候也

何市何區何町何番地

年 月 日

何某法定代理人

何

某

何々株式會社

發起人 何 某 殿

【書式】 三四、株式申込取消及ヒ拂込金返還請求ノ訴

訴 狀

何府何市何區何町何番地職業

原 告

何

某

何府何市何區何町何番地職業

何々株式會社發起人

被 告

何

某

（以下發起人列記）

株式申込取消及ヒ拂込金返還請求ノ訴

請求ノ目的

被告等カ大正何年何月何日原告ノ爲シタル何々株式會社ノ株式引受ノ申込取消ヲ承認シ右株式ノ第一回ノ拂込金何圓ノ返還ヲ求ムルニ在リ

一定ノ申立

被告等ハ原告カ何年何月何日ニ於テ爲シタル何々株式會社ノ株式引受ノ申込取消ヲ承認シ右株式ノ第一回拂込金何圓也ヲ速カニ返還シ且ツ右返還マテ年六分ノ割合ヲ以テ延滞利息ヲ支拂フヘシトノ判決相成度候也

請求ノ原因

右被告等何名ハ何年何月中何々株式會社ノ發起人ト爲リ其創立ヲ發起シ株主ヲ募集スルニ當リ原告ニ對シ之レカ株式ノ引受ヲ勸誘セルヲ以テ原告ハ何年何月何日其株式何株ヲ引受クヘキコトノ申込ヲ爲シタリ而シテ何年何月何日ニ至リ右被告等ヨリ右會社ノ株式總數ノ引受ケアリタル旨ヲ以テ第一回拂込ノ催告ヲ受ケタルヲ以テ原告ハ何年何月何日其引受ケタル何株ニ對スル第一回拂込金何圓也ノ拂込ヲ爲シタリ然ルニ右會社ハ其株式申込證ニ記載アル株式ノ申込ヲ取消シ得ヘキ時期何月何日ヲ經過セルニ拘ハラヌ未ダニ會社ノ成立ニ至ラス既ニ斯クノ如クンハ到低右會

社ハ成立ノ見込ナキヲ以テ原告ハ何年何月何日曩ニ爲シタル株式引受ノ申込ヲ取消シ猶ホ其既ニ拂込タル前記拂込金何圓也ヲ返還スヘキコトヲ請求シタルモ被告等ハ之レニ應セサルニ因リ茲ニ本訴ヲ提起シタル次第ニ有之候

證據方法及ヒ附屬書類ノ表示

- 一、第一回拂込催告書寫 一通
- 二、拂込金領收證寫 一通
- 三、株式申込證寫 一通

年月日

右

原告 何

某 〇

何地方裁判所長判事 何 某 殿

第三 第一回ノ拂込

〔九六〕 發起人ハ株式ノ申込人カ株式申込證ニ因リテ引受クヘキ株式數ノ申込ヲ受ケ其割當ヲ了リ株式總數ニ對スル引受人ノ確定シタルト

キハ遲滯ナク各株ニ付キ第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス (一二九、加之發起人ハ額面以上ノ價格ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額面ヲ超ユル金額ハ第一回ノ拂込ト同時ニ之レヲ拂込マシムルコトヲ要ス(一二九ノ二項))

〔九七〕 第一回ノ拂込ノ額ハ株金ノ四分ノ一ヲ下ルコトヲ得サルモノトス(一二八ノ二項)

【書式】 三五、株式拂込請求通知書

拜啓當會社第一回株金拂込ハ來ル何月何日迄ノ期間内ニ壹株ニ付キ金何圓何錢宛(證據金何圓何錢併算)ヲ拂込候事ニ決定仕候間左記取扱所へ便宜御拂込相成度此段御通知申上候

敬 具

年 月 日

何々株式會社

發起人總代 何

某

取 扱 所

何々銀行 當 事 務 所

第二章 株式會社・募集設立・第一回拂込

【書式】三六、第一回拂込金領收證

參錢 何々株式會社
收入 株式第一回拂込金領收證

一金 何 圓 也

但シ株式何株分一株ニ付キ何圓何錢

右ハ何々株式會社第一回拂込金トシテ正ニ領收候也

追テ會社設立ノ上ハ株券ト本證ト引換ニ御交付可申候

年 月 日

株金拂込取扱所

何 某 殿

何 々 銀 行

何々株式會社株
式第一回拂込金領收報告書

株式引受人

何

某

一金 何 圓 也
但シ株式何株分

株金拂 取扱所

何 々 銀 行

年 月 日
發起人御中

第 號
何 年 何 月 何 日
金 額
株 數
株 何 株
株 主
摘 要
何 某

其一 拂込ノ催告ト失權ノ通知

〔九八〕 發起人ハ株式ノ引受人カ第一回ノ拂込ヲ爲ササルトキハ一定ノ期間内ニ其拂込ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之レヲ爲ササルトキハ權利ヲ失フヘキ旨ヲ其株式引受人ニ通知スルコトヲ得ヘク或ハ強制執行ノ手續ヲ爲シ得ヘキモノトス但シ右ノ失權通告期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ス（一三〇）

〔九九〕 發起人カ右ノ通知ヲ爲シタルモ株式引受人カ拂込ヲ爲ササルトキハ株主タル權利ヲ失フモノトス此場合ニ於テ發起人ハ其者カ引受ケタル株式ニ付キ更ニ株主ヲ募集スルコトヲ得ヘキモノトス（一三〇ノ

【判例】六四

引受又ハ拂込未済ノ株式ト
創立總會ノ有效（東京地方
裁判所二、三、二一）

發起人ハ各株ニ付キ第一回ノ拂込アリタル後創立總會ヲ召集スヘキコトヲ定メタルハ畢竟資本團體タル會社資本ヲ確實鞏固ナラシムルノ趣旨ニ出テタルコト勿論ナレ共之レヲ嚴格ニ解釋シテ苟クモ一株ニテモ其支拂未済ノモノアラハ總テ會社設立ヲ無効ナリトセンカ却テ株主若クハ會社ト取引セシ第三者ニ意外ノ損害ヲ加フルコトアルニ至ルヘキヲ以テ寧ロ各株ノ全部ニ付キ第一回ノ拂込ミナカリシ如

二項) 此場合ニ於テハ其株式引受人ニ對シ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケサルモノトス(一三〇ノ三項、判例五七)

〔一〇〇〕 以上ノ場合ニ於テ爲ス通知ハ株式申込人ノ住所又ハ特ニ發起人ニ通知セル住所ニ宛ツヘキモノトス(一七二ノ二)

【書式】 三七、株式拂込催告及ヒ失權ニ關スル通知書

拜啓當會社第一回拂込ノ儀ニ付キ何月何日迄ノ期間内ニ一株ニ付キ金何圓何錢宛(證據金何圓何錢併算)拂込相成度旨何月何日附ヲ以テ御通知申上置候處同期間内ニ御拂込無之候間來ル何月何日迄ニ當會社ヘ拂込相成度若シ拂込無之候節ハ株主タル權利ヲ失ヒ候條御承知相成度商法第百三十條ノ規定ニ依リ此段御通知申上候

年月日

敬具

何々株式會社

發起人總代

何 某 〇

何 某 殿

第四 創立總會

〔一〇一〕 發起人ハ各株ニ付キ第一回ノ拂込アリタルトキハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スルコトヲ要ス(一三一) 創立總會ハ募集設立ノ場合ニ於ケル會社設立ノ最終ノ手續ニシテ設立ニ關スル一切ノ事項ヲ審査シ會社ノ設立ヲ確定セシムル爲メ其株式ノ引受人ヲ以テ組織スルモノトス故ニ未タ會社ノ機關ト云フヘカラス但シ此招集其他ノ手續ハ株主總會ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス(一五六、一六一、一六二、一六三) 而シテ其開會ノ期間ハ或ハ數日ニ渉ルコトアルモ創立總會ハ一ニシテ二ニアラス

其一 創立總會ノ招集

〔一〇二〕 創立總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ二週間前ニ各株式ノ引受人ニ對シテ其通知ヲ發スヘキモノトス而シテ其通知ハ書面タルヘク總會ノ目的及ヒ總會ニ於テ決議スヘキ事項ヲ記載スルコトヲ要ス(一三一、一五六ノ一ノ二項) 而シテ此招集ノ手續カ法令又ハ定款ニ反スルトキハ株式引受人ハ總會ニ於テ異議ヲ述ヘタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ總會ニ出席スルコトヲ拒マレタルトキニ限り又總會ニ出席セサル場

キ會社設立上ニ於ケル瑕疵ハ引受ナキ株式又ハ第一回ノ拂込未済ナル株式アルトキ若クハ申込ノ取消サレタル株式ヲ生シタルトキハ第一三六條第一五七條ノ規定ニヨリテ之レヲ補足シ得ルモノトスルヲ穩當トス從ツテ株式全部ニ對シ第一回ノ拂込アリタリトシ創立總會ヲ招集シ總會ニ於テ選定セラレタル取締役及ヒ監査役カ法定ノ事項ヲ調査シ之レヲ總會ニ報告シ以テ總會ヲ終結シタル以上ハ縱令一部ノ株式ニ付キ引受又ハ拂込未済ノ株式アリトスルモ斯ル株式ハ發起人ノ連帶責任ニ歸スルニ止マリ會社ノ設立ヲシテ無効ナラシムルモノニアラス

【判例】六五

設立費用ノ意義(大阪控訴院七、四、一八)

商法ニ所謂會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用トハ定款株式申込書ノ印刷費廣告費通信費株主募集費設立事務ニ使用シタル者ニ對スル報酬手當等ノ如キ會社ノ發起ヨリ其創立ニ至ル迄ノ間ニ於テ設立ニ要スル費用ヲ謂フモノトス

【判例】六六

創立總會不承認ノ設立費(朝鮮高等法院五、五、二六)

株式會社設立費用トシテ發起人カ(判六五、六六)

合ニ於テハ自己ニ對スル總會招集ノ手續カ法令又ハ定款ニ反スルコトヲ理由トスルトキニ限り訴ヲ以テ右總會ニ於ケル決議無効ノ主張ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(一六三)但シ決議ノ日ヨリ一ヶ月内ニ之レヲ提起スルコトヲ要スルモノトス(一六三ノ二)

〔一〇二〕 此訴ハ本店所在地ノ地方裁判所ニ爲スヘキモノトス(九九ノ三)原告ハ此場合ニ會社ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要シ裁判所ノ定メタル期間内ニ保證ヲ立テサルトキハ會社ノ申立ニ因リ判決ヲ以テ訴ヲ取下ケタリト宣言セラル、モノトス(一六三ノ三、民訴九〇)

【備考】 九、訴訟上ノ保證ノ意義

訴訟上ノ保證トハ當事者ノ一方カ其訴訟行爲ニ因リテ相手方ニ被ラシムルコトアルヘキ損害又ハ費用ノ擔保ヲ謂フ保證ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタル場合又ハ法律カ保證ノ種類ヲ定ムルコトヲ裁判所ノ自由ナル意見ニ任ス場合ヲ除ク外ハ裁判所ノ意見ニ於テ相手方ニ生スル損害又ハ費用ヲ賠償スルニ十分ナリトスル現金又ハ有價證券ヲ供託シテ之レヲ爲スヘキモノトス

ス而シテ株主ノ擔保ハ右ノ自由意見ヲ許ササルモノトス(民訴八七)

其二 創立總會ノ通知事項及ヒ期間計算法

〔一〇四〕 創立總會ノ招集ニ關スル規定ハ第一五六條第一項第二項ヲ準用セラルルモノナルヲ以テ其通知ニハ株式ノ引受人ヲシテ會議ノ目的タル事項ヲ豫知シ議決權ノ行使ニ付キ準備スルニ足ルヘキ程度ノ記載ヲ爲シ各引受人ノ株式申込證ニ記載セル住所又ハ其者カ發起人ニ通知シタル住所ニ宛テ二週間前ニ發送スルコトヲ要スルモノトス(二二六、一五六、一七二ノ二)

〔一〇五〕 其期間ノ計算法ハ其初日ハ午前零時ヨリ始マル場合ノ外ハ之レヲ算入セス最後ノ週ニ於テ其起算日ニ相當スル前日ヲ以テ滿了ス但シ其末日カ大祭日、日曜日其他ノ休日ニ當タルトキハ其日ニ取引ヲ爲ササル習慣アル場合ニ限り其翌日ヲ以テ滿了スト定ムルモノトス

(民一四〇、一四一、一四二、一四三)

【書式】 三八、創立總會ノ通知書

拜啓當會社第一回株金拂込ノ義全部終了致候ニ付來ル何月何日午前(後)

第二章 株式會社・創立總會・總會ノ通知事項

二〇九

(參一一、判六七)

他人ヨリ借入レタル金銭ニ付キ其創立總會ニ於テ之レカ承認ヲ爲ササルトキハ發起人ノ負擔ニ歸シ會社ハ其責ニ任スルコトナシ

【參考】 二二

商法第一三四條ノ調査報告

(法曹會決議八、一二、一三)

商法第一三四條ニ於ケル取締役及ヒ監査役ノ調査及ヒ報酬ハ取締役及ヒ監査役ノ全員ノ調査及ヒ報告ヲ必要トスル趣旨ニ解スルヲ妥當トス

【判例】 六七

創立總會ニ於ケル定款ノ變更及ヒ減資(大阪控訴院四

一、六、二六)

減資ハ商法第一三八條ニ所謂定款ノ變更ニ該當シ而シテ定款變更ハ創立總會ニ於テ隨時決議シ得ヘキハ同條ノ明規スル所ナレハ右總會ニ於ケル減資ノ決議ハ毫モ不當ナリト云フヲ得ス而シテ減資ノ方法ニ付テハ特ニ制限スル所ナキヲ以テ其目的ヲ達スルカ爲メ株式消却ノ方法トシテ之レカ買入ヲ爲スモ又敢テ違法ナリト云フヘカラス

【判例】 六八

設立廢止ト拂込金ノ返還

(大阪地方裁判所四〇、一〇、六)

創立總會ニ於テ設立廢止ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ發起人ハ其

(判六七、六八)

何時某所ニ於テ當會社創立總會開會仕候間御出席被成下度左記決議事項相添へ此段御通知申上候也 敬具

追テ御差支御出席無之候節ハ株主中ニ於テ代理ノ義取計可申候間別紙委任狀當所宛御送附相成度候

年月日

株式會社

何某

發起人總代

何

某

㊦

何某殿

決議事項

- 一、創立ニ關スル事項報告ノ件
- 一、定款承認ノ件
- 一、定款改正ノ件
- 一、創立費用承認ノ件
- 一、取締役及ヒ監査役選任ノ件
- 一、取締役及ヒ監査役報酬支給ノ件
- 一、何々

【書式】 三九、創立總會代理出席ノ委任狀

財産中ヨリ先ツ株式引受人ニ對シテ其拂込金ノ返還ヲ爲スヘク清算ノ結果諸費用ヲ支辨シテ尙ホ殘餘財産アル場合ニ於テ始メテ各自ニ分割スルヲ得ルモノトス

【判例】六九

募集手續及ヒ決議方法ノ違法ト其效力(東京控訴院四
五、六、一四)

發起人カ創立總會ヲ招集スルニ當リ株式引受人ノ一部ニ對シ之レカ通知ヲ發セス若クハ創立總會ニ於テ株式引受人ノ半數以上ノ出席者ナキニ拘ハラズ決議セリトスルモ之レ總會招集ノ手續又ハ決議ノ方法カ法令ニ違反スルニ過キサカ故ニ株式引受人等ハ決議ノ日ヨリ

二錢
收入

委任狀

拙者何某ヲ以テ代理人ト定メ左ノ權限ヲ委任ス

- 一、何年何月何日開會ノ何々株式會社創立總會ニ出席シ議決權ヲ行使スル事

但シ右總會繼續又ハ延期ノ場合モ亦同シ

右委任狀如件

年月日

株主 何

某

㊦

【書式】 四〇、創立總會決議無效宣告請求ノ訴

訴狀

何府(縣)何郡(市)何町(村)族稱職業

何某株式會社株式引受人

收入
印紙

原告

何

某

何府縣何郡市何町村

被告

何々株式會社

右法定代理人取締役何

某

株主創會決議無效宣告請求ノ訴

第二章 株式會社・創立總會・總會ノ通社知事項

二一一

一ヶ月内ニ決議無效ノ訴ヲ提起シ裁判所ノ無效宣言ヲ俟テ後其無效ヲ主張スルハ格別之レヲ以テ直チニ創立總會ノ招集ヲナシ若クハ總會ノ決議ハ絕對無效ナリト云フヲ得ス

【判例】七〇

決議無效ノ訴ト擔保請求ノ性質(東京控訴院七、三、三五)

商法第一六三條ノ三ノ擔保ノ請求ハ本案ノ辯論ヲ爲スコトヲ拒ム一ノ抗辯方法ナリト雖モ民事訴訟法ニ所謂妨訴抗辯ニアラスト解スヘク而モ之レカ請求ヲ爲スヘキ時期ニ付キ制限ヲ設ケタル何等ノ法規ナキヲ以テ第一審ニ於ケル被告ノ

(判七〇)

請求ノ目的

何年何月何日何所ニ於テ爲シタル何々株式會社創立(定時又ハ臨時)總會ノ決議ノ無効宣告ヲ求ムルニ在リ

一定ノ申立

何年何月何日何所ニ於テ爲シタル被告何某株式會社創立總會ノ決議ハ無効ナリトノ宣告相成度候

請求ノ原因

原告等ハ被告何々株式會社ノ株式引受人ナル處被告會社發起人ハ何年何月何日何所ニ於テ何々創立總會ヲ招集スル旨ノ通知ヲ發シ且ツ右指定ノ日ニ於テ何々ノ事項ヲ何々ノ手續ニ依リ決議シ之レヲ正當ノ決議ト爲セリ然レトモ右創立總會招集ノ手續ハ何々ノ事由ニ因リ商法(又ハ定款)第何條ニ反シ決議ノ方法ハ何々ノ事由ニ因リ商法(又ハ定款)第何條ニ反シタルヲ以テ原告ハ其會議ニ於テ異議ヲ述ヘタルモ原告ノ言ニ從ハス仍テ商法第三十一條及ヒ第六十三條ニ依リ其決議無効ノ宣告ヲ請求スル爲メ決議ノ日ヨリ一ヶ月内ナル今日ニ於テ茲ニ本訴ヲ提起シタル次第ニ有之候

證據方法及ヒ附屬書類

- 一、創立總會招集通知書 一通
- 一、創立總會決議錄謄本 一通
- 一、何々株式會社定款寫 一通
- 一、登記簿抄本 一通

年月日 右原告 何 某 〇

何地方裁判所長判事 何 某 殿

其三 創立總會ノ決議方法

〔一〇六〕 創立總會ノ決議ハ株式引受人ノ半數以上ニシテ且ツ資本總額ノ半額以上ヲ引受ケタル者カ出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ爲スヘキモノトス(一六一)但シ株式引受人ハ定款ニ特別ナル定メナキ限りハ必スシモ自カラ出席スルコトヲ要セス其代理權ヲ證スル書面ヲ有スル代理人ヲシテ議決權ヲ行ハシメルコトヲ得ルモノニシテ株式引受人ノ相續人モ亦出席シ得ヘキモノトス

〔一〇七〕 株式引受人ノ議決權ハ一株ニ付キ一個ノ議決權アルヲ原則

〔判七二〕

辯論前之レカ請求ヲ爲スコトヲ要セス訴訟ノ如何ナル審級ニ在ルヲ問ハヌ之レカ請求ヲ爲シ得ルモノト解セサルヘカラス而シテ相當ノ擔保トハ單ニ訴訟費用ノミナラス會社ニ生シ又ハ生セントスル總テノ損害ヲ保證スルモノトス

〔判例〕七

創立總會ノ決議權限(大審院四、一一、二二)

創立總會ハ商法第一三二條乃至一三五條及ヒ第一三八條ニ規定セル事項ノ外株式會社設立ノ目的ニ達スルニ必要ナル總テノ事項ヲ決議シ得ルモノトス株式會社設立ノ目的カ他人ノ有シタル其屋號ノ老舖ヲ利用シ油ノ製造販賣ヲ爲スニ在

ルトキハ其老舖ヲ買取スルノ會社ノ目的ヲ遂行スルニ缺クヘカラサル事項ニ屬シ創立總會カ右決議ヲ爲スハ有效ナリ

トスルヲ以テ出席者ノ有スル總株式數ノ過半數ヲ有スル株式引受人ノ同意ヲ得サレハ其決議ハ成立セサルモノトス但シ定款ヲ以テ十一株以上ノ株主引受人ノ議決權ヲ制限セル場合(一六二)及ヒ其議決ニ付キ特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其議決權ヲ行フコトヲ得サルモノトス(一六二)(一〇八) 此決議ノ方法法令又ハ定款ニ反スルトキハ株式引受人ハ總會招集ノ手續ノ違反セル場合ト同一ナル方法及ヒ期間ニ於テ決議無効ノ主張ヲ爲スコトヲ得ヘシ但シ出席シテ其決議ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ出席ヲ拒マレタルトキニ限ルモノトス(一六三、一六三ノ二項)

其四 創立總會ノ決議事項

(一〇九) 創立總會ニ於テ決議スヘキ事項ハ商法ニ規定スル事項ハ勿論其他創立ニ關スル一切ノ必要事項ヲ包含スト雖モ創立總會ニ於テ之レヲ爲スヘク豫メ通知セル事項タルコトヲ要ス其重要事項左ノ如シ

○ (一) 創立事項ノ報告

發起人ハ創立ニ關スル事項ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

(一三二) 是レ株式引受人ヲシテ設立ニ關スル事情ヲ知悉セシムルカ爲メナリ不實ノ申立又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ過料ニ處セラレヘキモノトス(二六二ノ二)

○ (二) 取締役及ヒ監査役ノ選任並ニ其報酬額

會社ヲ代表シ其業務ヲ執行スル取締役及ヒ之レヲ監督スル監査役ヲ選任スルコトヲ要ス(一三三) 且ツ其與フヘキ報酬額ヲ定款ニ定メサリシトキハ總會ノ決議ヲ以テ之レヲ定ムルコトヲ得ルモノトス(一七九)

○ (三) 取締役及ヒ監査役ノ調査

選任セラレタル取締役及ヒ監査役ハ發起人ノ爲シタル會社ノ設立ニ關スル事項ヲ調査シ之レヲ報告スルコトヲ要ス(一三四、三) 即チ(1)株式總數ノ引受アリタリヤ否ヤ(2)各株ニ付キ第一二九條ノ拂込アリタルヤ否ヤ(3)第一二二條第三號乃至第五號ニ掲ケラレタル事項ノ正當ナルヤ否ヤヲ調査報告スルモノトス右任務ヲ怠リタル場合ハ會社又ハ第三者ニ對シテ發起人ト共ニ連帶ヲ以テ

亦同ノ事也

損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス(一四二ノ四)加之違反ノ場合ハ第二六一條ノ一項一號、第二六二條ノ二ノ四號ノ制裁ヲ受クルモノトス

○(四)検査役ノ選任及ヒ其調査

取締役又ハ監査役ニシテ發起人中ヨリ選任セラレタル者アルトキハ特ニ株式引受人中ヨリ検査役ヲ選任シ取締役及ヒ監査役ニ代リ會社ノ設立ニ關スル事項ニ付キ調査報告ヲ爲サシムルコトヲ要ス(一三四)

○(五)不當事項ノ變更

創立總會ニ於テ第一二二條第三號乃至第五號ニ掲ケラレタル事項ヲ不當ト認メタルトキハ之レヲ變更スルコトヲ得ルモノトス(一三五)但シ金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル者アル場合ニ於テハ之レニ對シテ與フル株式ノ數ヲ減シタルトキ其者ハ金錢ヲ以テ拂込ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

○(六)設立ノ廢止

會社設立ノ廢止ヲ決議スルコトヲ得ルモノトス(一三八)但シ廢止決議ノ事由ハ敢テ之レヲ問ハス

○(七)定款ノ變更及ヒ補足

定款ノ變更ヲ爲シ得ルモノトス(一三八)蓋シ會社ヲ設立セントスル多數者ノ意見ニ因リ定款ヲ變更シ得ヘキハ當然ナルモ法令ニ反セサル限度タルコトヲ要ス而シテ第一二〇條第五號乃至第七號ニ掲ケラレタル事項ヲ定款ニ記載セサリシトキハ之レヲ補足スヘキモノトス(一二〇、一二一)

○(八)資本ノ増減

資本ノ増加及ヒ減少ハ法定ノ事項ニ反セサル限り爲シ得ヘキモノトス(一二〇、一二一ノ二項、一三八、一三五)

○(九)會社ノ成立

創立總會ニ於テ會社ノ設立ヲ廢止セスシテ終結シタルトキハ會社ハ之レニ因リテ成立セルモノトス(一三九)故ニ必スシモ設立スル旨ヲ決議スルヲ要セス即チ株式ノ引受人ハ此時ヨリ始メテ

株主ナル名稱ヲ得ルモノトス而シテ創立總會ノ決議録ハ設立登記ノ申請ニ當リ之レヲ添附スルコトヲ要シ且ツ之レヲ本店及ヒ支店ニ備ヘ置キ株主ノ閱覽ニ供スルコトヲ要ス（一七一、二六二ノ二、非訟一六二ノ二項、一五九）

【書式】 四一、何々株式會社創立事項報告書

報告書

何々株式會社ノ創立總會ニ當リ其創立ニ關スル事項ヲ報告スルコト左ノ如シ

- 一、當會社ノ目的ハ定款第何條ニ規定スル如クニシテ此事業タル何々ノ事由ニ因リ時代ニ最モ適當ナル計畫ニシテ需要ノ無限ナルハ何々ノ事由ニ因リ確的タルモノアリ而シテ將來ハ何々ノ事由ニ因リ更ニ益益有利有望ナル決シテ疑ヒナキ所ナリ是レ發起人カ本會社ノ創立ヲ目論見タル所以ナリ
- 二、會社ノ稱號ヲ何々ト命名シタルハ事業ノ性質ヲ明瞭ニ表示スルヲ以テ營業上種々ノ利益アリト信シ特ニ選定セルモノナリ
- 三、資本ハ何々ノ事由云々ノ計算ニ因リ金何圓ヲ要スヘキヲ以テ定款第

何條ニ金何圓ト定メ先ツ第一回拂込金ヲ以テ第一期計畫ノ資金ニ充テ何々ノ時期ニ於テ第二回ノ拂込ヲ爲スヘク當分ハ第二回以後ノ拂込ヲ爲サル方針ナリ

四、資本ノ總額金何圓ヲ何株ニ分チ發起人等ハ其何株ヲ引受ケ殘額何ニ付キ株主ヲ募集シタリ然ルニ何々ノ事由ニ因リ云々ノ結果ヲ見タリ仍テ何々ノ方法ヲ以テ之レカ割當ヲ爲シ何年何月何日ヲ以テ割當確定ノ通知ヲ爲シ何年何月何日ヲ以テ商法第一一四條第一項ニ所謂株式總額ノ引受ヲ了シタリ

五、是ニ於テ何年何月何日發起人定款第何條ニ因リ各株式引受人ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲スヘキ通知ヲ發シ何年何月何日ニ於テ全部ノ拂込ヲ了シタリ即チ商法第一三四條ノ所謂拂込ヲ了リタルモノナリ

六、猶ホ茲ニ報告シ且ツ其承認ヲ求メ度キハ即チ商法第一二二條ノ發起人カ受クヘキ特別ノ利益金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス件及ヒ之ニ與フル株式ノ數並ヒニ會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用及ヒ發起人カ引受クヘキ報酬等ニ關スル事項是レナリ左ニ之レヲ該說スヘシ

七、何々

八、何々（其他會社ノ存立時期及ヒ解散事由、本店及ヒ支店ノ所在地、取締役ノ有スヘキ株式ノ數等苟クモ會社ノ内容ヲ明確ナラシムル事項ヲ記載スヘシ）

右商法第一三二條ニ依リ何々株式會社ノ創立ニ關スル事項及報告候也

何々株式會社發起人

年月日

何

某

【書式】 四二、何々株式會社創立事務調査報告書

報告書

大正何年何月何日何某株式會社創立總會ニ於テ拙者等ハ検査役ニ選任セラレタルヲ以テ商法第一三四條ノ規定ニ依リ發起人カ爲シタル創立事項ノ報告書ニ基キ株式拂込金取扱所金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル財産會社ノ創立ニ關スル費用ノ帳簿等ニ付キ詳細ノ調査ヲ遂ケタリ其結果左ノ如シ

一、何何ノ總數ハ定款第何條ニ掲クル如ク何々ニシテ其引受左ノ如シ

株式總數何株

發起人引受株式數何株

株式引受人引受株式數何株

即チ大正何年何月何日ニ於テ引式總數ノ引受アリタルモノト認ム

二、右引受株ニ付テ第一回拂込金額左ノ如シ

第一回拂込ハ額面ノ四分ノ一ニシテ株式總數何株一株ニ付キ金額何錢

合計金額何圓也

右ハ大正何年何月何日ヲ以テ總テ拂込ミタルモノト認ム

三、發起人カ受クヘキ特別ノ利益ナシ（又ハ發起人カ受クヘキ特別ノ利益ハ正當ト認ム）

益ハ正當ト認ム）

四、金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ト爲シタルモノナシ

五、會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用金額何圓也ハ正當ト認ム

右商法第一三四條ニ依リ及報告候也

年月日

何々株式會社

検査役

何

某

同

何

某

第二章 株式會社・創立總會・總會ノ決議事項

【書式】 四三、何々株式會社創立總會議事錄

大正何年何月何日何所ニ於テ何々株式會社創立總會ヲ開ク
出席株主左ノ如シ

出席株主總數(委任狀共)何株此人員總數何名内本人出席株數何株此人
員數何名代理出席株數何株此人員數何名別紙ノ如シ

本會社發起人何某ハ本會社創立總會ノ開會ヲ告ケ議長ノ選舉ヲ求メタリ
何某ハ長主ノ推薦ニ依リ議長席ニ着キ發起人何某ニ別紙創立ニ關スル事項
報告書ノ通り創立ニ關スル一般ノ經過ヲ報告セシメタルニ出席株主ハ全部
之レヲ承認司決シタリ議疑ハ是レヨリ取締役及ヒ監査役ヲ選舉センコトヲ
求メタルニ出席株主中ヨリ議長ノ指名ニ一任センコトヲ發議シ一同異議ナ
キヲ以テ議長ハ左ノ諸氏ヲ指名シ滿場異議ナク之レニ賛成可決シタリ

取締役	何	某
同	何	某
同	何	某
同	何	某
同	何	某
監査役	何	某

議長ハ商法第一三四條ノ規定ニ依リ検査役ノ選舉ヲ求メタルニ株主中ヨリ
議長ニ一任ストノ動議アリタルヲ於テ議長ハ左ノ二氏ヲ指名シ滿場異議ナ
ク之レヲ可決シタリ

検査役	何	某
同	何	某

右二氏ハ直ニ就任シ調査ノ結果別紙調査報告書ヲ提出シ左ノ報告ヲ爲シタ
リ

- 一、株式總數何株ノ引受アリタリ
- 一、一株ニ付キ何圓何錢ノ拂込ヲ了シタリ
- 一、會社ノ負擔ニ歸ス可キ設立費金何圓ノ支出ハ正當ナリ
- 一、發起人ノ受ク可キ報告及ヒ發起人ノ受ク可キ特別ノ利益並ニ金錢以
外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲スモノナシ

出席株主滿場一致之レヲ承認ス議長ハ創立總會ノ終了ヲ告ケ解散セリ
右議決事項ヲ錄シ定款第何條ニ依リ決議ヲ明確ナラシムル爲メ左ニ署名捺
印ス

年 月 日	議 長	何	某
	出席株主	何	某
	同	何	某

第五 設立ノ登記

〔一一〇〕 株式會社ハ創立總會ノ終結ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店所在地ニ於テ會社設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス但シ他ノ法令ノ規定ニヨリ會社設立ニ付キ官廳ノ許可ヲ要スル場合ハ其許可書ノ到達シタルトキヨリ起算スルモノトス(四八ノ二) 此登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ爲スモノニシテ登記事項及ヒ方法ハ發起設立ノ場合ト異ラスタタ登記申請ノ添附書類ニ付キ左ノ相違アルノミ (非訟二七七)

(一) 株式申込證(一二六)

(二) 取締役及ヒ監査役又ハ検査報告及ヒ其附屬書類 一三四、一二四)

(三) 創立總會ノ決議錄(一三一、書四三)

【書式】 四四、募集設立ノ場合ニ於ケル設立登記申請書

(書式一三參照)

株式會社設立登記申請

- 一、商號 何々株式會社
- 一、本店 何市何區何町何番地
- 一、登記ノ目的 株式會社設立ノ登記
- 一、登記ノ事由 發起人ニ於テ株式ノ總數ヲ引受ケス株主ヲ募集シ何年何月何日創立總會終結シ(株式會社ヲ設立シ又ハ設立ニ付キ官廳ノ許可ヲ要スル場合ハ何年何月何日何々ノ許可書件達シ)タルニ因リ本店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ノ登記ヲ求ム

商號 何々株式會社

本店 何縣何市何町何番地

支店 何縣何市何町何番地

目的 何々

資本ノ金額 金何圓

一株ノ金額 金何圓

各株ニ付キ拂込ミタル株金額 金何圓

第二章 株式會社・募集設立・設立ノ登記

公告ヲ爲ス方法所轄區裁判所ニ於テ公告スル新聞紙(又ハ何々)ニ掲載ス

設立ノ年月日 何年何月何日

設立許可書到達ノ年月日(會社ノ設立ニ付キ官廳ノ許可ヲ要スル場合ニ限ル)

存立ノ時期 何年何月何日ヨリ何年何月何日迄滿何ケ年(之レヲ定メタル場合ニ限ル)

解散ノ事由(之レヲ定メタル場合ニ限ル)

開業前ノ利息配當率(之レヲ定メタル場合ニ限ル)

取締役ノ氏名及ヒ住所(省略)

監査役ノ氏名及ヒ住所(省略)

會社ヲ代表スル取締役(之レヲ定メタル場合ニ限ル)又ハ取締役カ共同シ若クハ取締役カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定ノ趣旨ヲ記載ス

一、課稅標準ノ價格(第一回拂込金額)

登録稅(標準價株ノ千分ノ五)金何圓

添附書類

一、定款

二、株式申込書 何通

三、取締役及ヒ監査役(又ハ検査役)ノ調査報告書及ヒ其添附風書類

四、創立總會ノ決議錄

五、開業前ニ利息配當ヲ爲スヘキトキハ定款ノ規定ヲ許可シタル裁判所ノ謄本

六、何々ノ許可書(又ハ其認證シタル謄本)

七、委任狀 何通

右登記相成度此段申請候也

何市何區何町何丁目何番地

年 月 日

申 請 人 何々株式會社

何市何區何町何番地

取締役及代理人 何 某

第二章 株式會社・募集設立・設立ノ登記

二二七

何區裁判所御中

【書式】 四五、支店設立登記申請書（書式一四、一五、一六）

第五節 株式會社設立ノ無效

〔一一一〕 株式會社ノ設立行爲ノ無效タルヘキ事由アルトキハ法律上會社ナルモノナシ既ニ會社ナシ況ンヤ其法律關係ヲヤ然レトモ會社カ一度ヒ有效ニ成立シタルモノトシテ其設立登記ヲ完了シ事業ニ著手シタル場合ハ事實上幾多ノ法律關係ヲ生ス故ニ設立ノ無效ニ因リテ一般ノ法律關係ヲ根底ヨリ無効ト爲スハ徒ラニ理ニ偏シテ第三者ノ利益ヲ傷害スル虞レアルヲ以テ特ニ會社ト第三者トノ間ニ成立セル行爲ニ對シテハ其效力ニ何等ノ影響ヲ及ボササル旨ヲ規定シ會社解散手續ノ方法ニ準シ清算手續ニ依リ之レヲ整理スルモノトス（八六、九九ノ六、一〇〇、一〇五、二三二ノ二項、二三六一二項）

第一 無效手續

〔一二二〕 會社カ事業ニ著手セサル前ニ於テ其設立ノ無效ヲ發見セルトキハ會社ノ設立ナカリシ者トシテ一般ノ理論ニ從ヒ一切ノ關係ヲ處

第二章 株式會社・設立無效

二二九

【判例】七二

株式引受又ハ拂込ノ未済ノ

欠缺程度ト會社ノ不成立

（大審院五、一〇、二五）

商法第一三六條ハ引受ナキ株式又ハ第一回ノ拂込未済ノ株式アル場合ニハ發起人ノ連帶責任ヲ認メ之レニ依リ設立條件ヲ補充セシメテ會社ノ成立ヲ許シタルモノナリト雖モ若シ株式ノ引受又ハ拂込ノ未済カ會社成立ノ運命ニ影響スヘキ場合即チ株式全部ニ付テ引受ナク又ハ拂込ナキ場合ハ勿論始ント之レト同視スヘキ程度ノ引受又ハ拂込アリタルニ過キサル場合ノ如キハ之レカ爲メ資本團體タル株式會

（判七二）

理スルモ不可ナシ然レトモ一旦事業ニ著手シタル後ニ於テハ社員タル株主ハ訴ヲ以テノミ其無効ヲ主張シ得ルニ止マルモノトス(九九ノ二、九九ノ三乃至六、二三二)其取締役及ヒ監査役ハ勿論其訴權アルモノトス

【一一三】 此訴ハ其本店所在地ノ地方裁判所ノ管轄ニ屬シ會社ヲ被告トシテ爲ス者ニシテ且ツ數個ノ訴カ同時ニ繫屬スルトキハ其辯論及ヒ裁判ハ併合シテ之レヲ爲スコトヲ要シ取締役ハ遲滞ナク訴ノ提起及ヒ口頭辯論ノ期日ヲ公告スルコトヲ要ス(九九ノ三、一〇五、一六三、二三二ノ二項、二三六ノ二項)而シテ原告カ敗訴シタル場合ニ於テ惡意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ會社ニ對シ其原告ハ連帶シテ損害賠償ノ責任スヘキモノトス(九九ノ四ノ二項)

【一一四】 設立ヲ無効トスル判決ハ當事者以外ノ株主ニ對シテモ其效力ヲ有シ其判決カ確定セルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ノ登記所ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス(九九ノ四、五、非訴一三五ノ四ノ二項)此場合ニ於テ會社ハ解散セルモノト見做サレ清算手續ヲ採ルコトヲ要ス(九九ノ六)從ツテ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任スル

【判七五】

社ノ本質ヲ害スヘキヲ以テ假令創立總會ヲ終結スルモ右法條ニ依リ會社ノ成立ヲ認ムヘキニアラス

【判例】七三

設立無効ノ主張要件(大阪控訴院五、九、九)

株式會社カ事業ニ着手シタル後ニ至リテハ設立ノ無効ハ株主、取締役又ハ監査役ヨリ訴ヲ以テノミ主張シ得ヘキモノニシテ設立無効ノ確定セラレサル以上ハ株主ニ於テ斯ル訴ノ提起ヲ理由トシテ其設立ノ無効ナルコトヲ抗辯シ得サルモノトス

【判例】七四

第一四二條ノ三ノ意義(神戸

モノトス此手續ハ非訴訟事件手續法第一三六條乃至第一三八條ノ二ノ規定ニ從フモノトス故ニ其設立ハ無効トナルモ會社ト第三者トノ間ニ成立シタル行爲ノ效力ニ關シテハ何等ノ影響ヲ及ホササルモノトス(九九ノ六ノ二項)

其一 設立無効ノ事由

【一一五】 株式會社ノ設立カ如何ナル場合ニ於テ無効ナリヤ即チ法令及ヒ定款ニ違反スル場合タルハ勿論トス其重要ナル事由ハ左ノ如シ

- (一) 發起人カ七人ニ達セサルトキ(一一九)
- (二) 定款ノ作成ナキトキ且ツ作成アルモ法定ノ絶對的必要事項ヲ缺キ又ハ無効ナルトキ(一二〇)
- (三) 會社ノ目的カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルトキ(四八、民九〇)
- (四) 募集設立ノ場合ニ於テ株式總數ノ引受ナキトキ(一二三、一三四)
- (五) 募集設立ノ場合ニ於テ株式申込證ノ作成ナキトキ且ツ作成ア

地方裁判所一〇、六、一)

商法第一四二條ノ三ハ會社カ全然成立セス從ツテ清算手續カ行ハレサル場合ニ於ケル發起人ノ責任ヲ規定シタルモノニシテ苟クモ會社カ形式的ニ一旦成立シテ清算手續於ニテ發起人ノ責任ヲ問ヒ得ル場合ニ於テハ同號ノ適用ナキモノトス而シテ清算中會社カ破産ノ宣告ヲ受ケ破産手續ノ開始ニ依リ破産管財人カ清算ト同一ノ手續ヲ爲シ殘餘財産ハ之レヲ株主ニ分配シ破産手續カ終了シタル時ハ清算手續ノ終了ト同一ノ效果アルモノナルヲ以テ株主ハ最早發起人ニ對シ拂ヲ請込集金ノ返還ヲ請求スルコト

【判七四】

ルモ法定ノ記載事項ヲ缺キタルトキ(一二六)又發起人カ第一回ノ拂込ノ拂込手續ヲ完全ニ爲ササリシトキ(一二九)

(六) 創立事項ノ報告取締役及ヒ監査役ノ選任並ヒニ設立手續ノ調査等ヲ爲ササリシトキ(一三四)

〔書式〕 四六、株式會社設立無効ノ訴(書式四〇参照)

(判七五)

ヲ得サルヤ當然ナリ

〔判例〕七五

破産手續開始ト設立無効判

決ノ效力(大審院一一、一

一、一四)

設立無効ノ會社カ清算手續ヲ遂行
スル間ハ尙ホ清算會社トシテ其人
格ヲ存續シ海算人ハ會社ノ現存財
産ヲ以テ其債務ヲ完了スルニ不足
ナルコト分明ナルニ至リタルトキ
ハ直チニ破産宣告ノ申立ヲ爲スコ
トヲ要スヘク右手續ノ開始セラル
ハニ於テハ從來ノ清算手續ニ優先
シテ行ハルヘキモノト謂ハサルヘ
カラス

第六節 株式

〔一一六〕 株式トハ會社資本ノ一部タルコトヲ意味シ又ハ會社ニ對シテ有スル株主ノ權利義務ノ主體タル地位ヲ意味ス(一四三、判例六七、七七)蓋シ株式トハ合名、合資會社ノ持分ニ對シテ使用セラル、語ナルモ其意義ニ至リテハ頗ル相違アリ

第一款 會社ノ資本

〔一一七〕 株式會社ノ資本ハ之レヲ一定ノ株式ニ均分スルコトヲ要ス(一四三、一二〇ノ三號、四號、一四五、一四九)即チ株式金額ノ合計ハ會社資本ノ總額ナラサルヘカラス資本ナケレハ株式ナク株式ナケレハ資本ナキハ株式會社ノ特質ニシテ資本團體タル所以ニ外ナラス故ニ株式トハ會社資本ノ一部ニシテ且ツ會社資本ヲ均分シタル單位ノ金額ナリトス

第一 株式ノ金額

第二章 株式會社・株式・資本・株式ノ金額

二二三

第二節 株式

第四百三條 株式會社ノ資本ハ

之ヲ株式ニ分ツコトヲ要ス(一

二〇ノ三ノ四號、一四五、一四九)

第四百四條 株主ノ責任ハ其引

受ケ(一二三、一二九ノ一項、一

三〇)又ハ讓受ケ(一五二乃至一

五四)タル株式ノ金額ヲ限度ト

ス株式ハ株金ノ拂込ニ付キ相殺

ヲ以テ會社ニ對抗スル事ヲ得ス

第四百五條 株式ノ金額ハ均一

ナルコトヲ要ス(一四三、一六

二)

株式ノ金額ハ五十圓ヲ下ルコト

ヲ得ス但一時ニ株金ノ金額ヲ拂

込ムヘキ場合ニ限り之ヲ二十圓

マテニ下スコトヲ得(一二〇ノ

四號、商施五五)

第四百六條 株式カ數人ノ共有

(民二六二)ニ屬スルトキハ共有

(一四三、一四六)

〔一一八〕 株式ノ金額ハ均一ナルコトヲ要ス(一四五、一六二)是レ株式カ會社資本ヲ均分シタル單位ナルカ爲メナリ故ニ一株ノ金額ハ五十圓ナルカ又ハ百圓ナルカ必ス其一種類タルコトヲ要ス從ツテ新株式ヲ發行スル場合ニ於テモ其金額ハ必ス舊株式ト同一ナラサルヘカラス但シ現物出資ノ場合ニ於テハ株式ノ金額ハ均一ナルコト勿論ナリト雖モ其拂込ミハ不均一ナルコトヲ許サル南滿洲鐵道株式會社ノ如キハ其實例ナリ(一二三ノ四、二二二ノ二)

其一 一株ノ金額

〔一一九〕 一株ノ金額ハ五十圓ヲ下ルコトヲ得サルモノトス(一四五ノ二項)但シ一時ニ株金ノ全額ヲ拂込ムヘキ場合ニ限り之レヲ二十圓マテ下スコトヲ得ヘキモノトス(一二〇ノ四號、商施五五)蓋シ之レ株式ノ金額ニ付キ最大限度ヲ定メス最小限度ヲ定メタルハ株式會社カ其本質上經濟的危險ヲ多數者ニ分配スル傾向アルヲ以テ無智ニシテ且ツ微力ナル下級民ヲシテ容易ニ株式ニ應募シ得サラシメンカ爲メノ法意ニ外ナラス而シテ一時ニ株金ノ全額ヲ拂込ムヘキ場合ニ限り特ニ二十圓マ

テ下スコトヲ認メタルハ現實ノ拂込額ニ於テ五十圓ノ四分ノ一タル第一回ノ拂込金額ニ比シテ遙カニ高額ナルヲ以テ決シテ法意ニ反セサレハナリ(參考一二、一三參照)

第二款 株主

〔一二〇〕 株主トハ株式ヲ引受ケ若クハ之レヲ讓受ケタル者ヲ稱ス(一二三、一二五、一三九、一四四)蓋シ株式ヲ離レテ株主ナルモノナシ
〔一二二〕 株主ハ記名株式ニ於テハ其引受若クハ讓受人ノ氏名ヲ株主名簿及ヒ株券ニ記載スルニアラサレハ之レヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス且ツ無記名株式ニ於テ其權利ヲ行フトキハ其株券ヲ會社ニ供託スルコトヲ要スルモノトス(一五〇、一五五ノ二)

第一 株主ノ權利

〔一二二〕 株主カ其株主タル資格ニ於テ有スル權利ヲ株主ノ權利ト稱

(一四六、一四八)

者ハ株主ノ權利(一六〇、一六二、一六三、一七八、一八七、一九八)ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス
共有者ハ會社ニ對シ連帶(民四三二乃至四五五)シテ株金ノ拂込ヲ爲ス義務(一二三、一二九、一五二)ヲ負フ

第四百十七條 株券(一四八、商施五六)

ハ第一四一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス(二六二ノ二ノ七號)
前項ノ規定ニ反シテ發行シタル株券ハ無効トス但株券ヲ發行シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス(二一九)

第四百十八條 株券ニハ左ノ事項及ヒ番號ヲ記載シ取給役之ニ署

名(明治三十三年法一七號)スルコトヲ要ス

- 一 會社ノ商號
 - 二 第四百十二條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル年月日
 - 三 資本ノ總額
 - 四 一株ノ金額
- 一時ニ株金ノ全額ヲ拂込マシメサル場合ニ於テハ拂込アル毎ニ其全額ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス(一五〇、一五五、二一八、二六二ノ二ノ八號、印紙稅法四、商施五七)

第四百十九條 株式ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ承諾ナクシテ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得(一五〇、一五五、民八六ノ三項、一七八)但第一四一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ(一四八、一四九)

ス即チ株主カ會社ノ經營ニ關與スル權利及ヒ利益配當ノ請求ニ關スル權利殘餘財産ノ分配ニ與ル權利ノ如キハ其重要ナル事項トス而シテ株主ノ權利ハ株式ヲ單位トシ一般ニ平等ナルヲ原則トスルト雖モ特定ノ株主ノミ之レヲ有スル權利アリ又特定ノ株主ノ權利中特定ノ株主ニ限り有スル所謂特別利益ヲ有スル者及ヒ特定ノ階級ニ屬スル所謂優先株ニ於ケル株主ノ權利ノ如キモノアリ即チ株主ノ權利ハ左ノ如シ但シ株式カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ其共有者ハ株主ノ權利ヲ行フ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス(一四六)

其一 議決權

〔一二三〕 議決權トハ株主カ株主總會ニ出席シテ議決ヲ爲スコトヲ得ヘキ權利ヲ謂フ(一二六、一六一、一六二)是レ株主カ會社ノ經營上ニ參與スル最モ重要ナル作用ナリトス

其二 小數株主權

〔一二四〕 小數株主權トハ資本ノ十分ノ一以上ノ株式ヲ有スル株主カ其一人タルト數人タルトヲ問ハス(一總會招集ノ請求(一六〇)(2)總會ノ

招集(一六〇)(3)訴訟提起ノ請求(一七八、一八五、一八七)検査役選任ノ請求(一九八)(5)清算人解任ノ請求(二二八)等ヲ爲スコトヲ得ヘキ權利ヲ謂フ

其三 利益配當請求權

〔一二五〕 利益配當請求權トハ會社カ現ニ利益アリタルトキ之レカ配當ヲ株主總會ニ於テ決議セル場合ニ株主カ其配當ヲ請求スルコトヲ得ヘキ權利ヲ謂フ(一九〇)

其四 利息配當請求權

〔一二六〕 利息配當請求權トハ株主カ建設利息ノ配當ニ付キ定款ニ記載セル場合ニ於テ株主總會ノ決議ヲ經テ請求スルコトヲ得ヘキ權利ヲ謂フ(一九六)

其五 殘餘財産ノ分配權

〔一二七〕 殘餘財産ノ分配權トハ株主カ會社解散ノ場合ニ於テ殘餘財産ノ分配ヲ受クルコトヲ得ヘキ權利ヲ謂フ(二二九)但シ合併ノ會社解散ノ場合ハ此限リニアラス

(一五〇、一五一)

登記ヲ爲スマテハ之ヲ讓渡シ又ハ其讓渡ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ス(二五九)

第五百十條 記名株式ノ移轉(一四九)ハ取得者ノ氏名、住所ヲ株主名簿ニ記載シ(一七二)且其氏名ヲ株券ニ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(一五三、一五四、二五九、民三六四ノ二項)

第五十一條 會社ハ自己ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス(二六一ノ一項二號)

株式ハ資本減少ノ規定(二〇八、二〇九、二一〇)ニ從フニ非サレハ之ヲ消却(一九五、一九七)スルコトヲ得ス但定款ノ定ムル所ニ從ヒ株主ニ配當スヘキ利益ヲ以テスルハ此限ニ在ラス(二六

二ノ四號)

第五十二條 (一四四、一四六ノ二項、一五三、一七二ノ二、商施五八)株金ノ拂込ハ二週間前ニ之ヲ各株主ニ催告スルコトヲ要ス株主カ期日ニ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ更ニ一定ノ期間内ニ其拂込ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ其株主ニ通知スルコトヲ得但其期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ス
前項ノ規定ニ依リ會社カ株主ニ對シ其權利ヲ失フヘキ旨ヲ通知スルトキハ會社ハ其通知スヘキ事項ヲ公告(二〇ノ七號)スルコトヲ要ス(二二〇ノ四)
第五十三條 (一五二、一五三ノ二、一五四)會社カ前條ニ定メタル手續ヲ踐ミタルモ株主カ拂込(一五二、一五三)

其六 株券ニ關スル權利

〔一二八〕 株券ニ關スル權利ハ左ノ如シ

(一) 交付請求權 株主ハ會社カ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタルトキハ株券ノ交付請求ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス(一四七)

(二) 方式變更請求書 株主ハ株金全額ノ拂込アリタルトキハ其株券ヲ無記名式又ハ記名式ニ變更請求ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス(一四九、一五五)

(三) 登録及ヒ書替請求權 株主ハ株式ノ讓渡アリタルトキハ其讓受人ノ氏名住所ヲ株主名簿ニ登録シ且ツ其氏名ヲ株券ニ記載スヘク請求スルコトヲ得ヘキモノトス(一五〇)

其七 決議無効ノ訴訟

〔一二九〕 決議無効ノ訴權トハ株主カ株主總會招集ノ手續又ハ其決議方法法令又ハ定款ニ反スルトキ訴ヲ以テ其決議無効ヲ主張スルコトヲ得ヘキ權利ヲ稱ス(一六三)

其八 被選任權

〔一三〇〕 被選任權トハ株主カ取締役及ヒ監査役又ハ検査役ニ選任セラレ得ヘキ資格即チ權利ヲ謂フ(一六四、一八〇、一三四、一五八)

其九 閱覽權

〔一三一〕 閱覽權トハ株主カ定款及ヒ總會ノ決議錄並ニ株主名簿社債原簿等ノ閱覽ヲ求メ得ヘキ權利ヲ謂フ(一七一、一九一)

其十 優先株主權

〔一三二〕 優先株主權トハ優先株主カ定款ノ規定ニ依リ利益ノ配當又ハ殘餘財産ノ分配ニ關シ通常株主ヨリ有利ナル條件ヲ有スルコトヲ得ヘキ權利ヲ謂フ(二一一、二一二)

【書式】 四七、株主ノ轉居届

轉居 狀

今般左記へ轉居候ニ付キ此段及御届候也

年 月 日

住 所

株 主 何

某

何々株式会社御中

第二章 株式會社・株式・株主ノ權利

(一五三)

ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フ前項ノ場合ニ於テハ會社ハ株式ノ各讓受人ニ對シ二週間ヲ下ラサル期間内ニ拂込ヲ爲スヘキ旨ノ催告ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ最モ先ニ滯納金額ノ拂込ヲ爲シタル讓受人株式ヲ取得ス

讓渡人カ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ株式ヲ競賣スルコトヲ要ス此場合ニ於テ競賣ニ依リテ得タル金額カ滯納金額ニ滿タサルトキハ從前ノ株主ヲシテ其不足額ヲ辨濟セシムルコトヲ得若シ從前ノ株主カ二週間内ニ之ヲ辨濟セサルトキハ會社ハ讓渡人ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコトヲ得前三項ノ規定ハ會社カ損害賠償及ヒ定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス(民

四一五乃至四二二)

第四百五十三條ノ二 前條第一項ノ

規定ニヨリ株主カ其權利ヲ失ヒタルトキハ會社ハ遲滞ナク其株主ノ氏名、住所及ヒ株券ノ番號ヲ公告スルコトヲ要ス(一二〇ノ七號、二二〇ノ四)

第四百五十四條 第四百五十三條ニ定

メタル讓渡人ノ責任(一五二、一五三)ハ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

第四百五十五條 株金全額(一四五)

ノ拂込アリタルトキハ株主ハ其株券ヲ無記名式(一五五ノ二、一五六ノ三項、一六一ノ二項、一七二ノ五號、二二四、民八六ノ三項一七八)ト爲スコトヲ請求スルコトヲ得(二六二ノ五號、商施六〇、日本銀行條例五、正金銀(一五五))

【書式】 四八、株主ノ改印届

改 印 狀

新印鑑 ㊦

一、拙者從來使用ノ印鑑紛失(磨滅)ニ付キ改印候間別紙印鑑貳葉相添へ此段及御届候也

何市何町何番地

年 月 日

株 主

何

某 ㊦

何々株式會社御中

【書式】 四九、株主ノ代理人届

代 理 人 届 (其一)

何市何町何番地

代 理 人

何

某

右ハ拙者ノ代理人ト定メ所有ノ株式ニ對スル株金額拂込及ヒ配當金受取方其他株主ニ關スル一切ノ件ヲ爲致候間代理人印鑑相添へ連署ヲ以テ此段及御届候也

何縣何郡何村何番番

【判七六】

行條例五、六、遠洋航路補助法
一、株主ハ何時ニテモ其無記名式ノ株券ヲ記名式ト爲スコトヲ請求スルコトヲ得

第一百五十五條ノ一 無記名式ノ株券ヲ有スル者(一五五)カ株主ノ權利ヲ行ハントスルトキハ其權利ノ行使ニ必要ナル員數ノ株券ヲ會社ニ供託スルコトヲ要ス
(一六一ノ二項、二〇九ノ一項但書)

【判例】七六

株式ノ意義 (大審院四、
一二、一九)

株式ハ單純ノ債權ニアラスシテ株主カ會社ニ對スル權利ト義務トヲ包括スルモノナルヲ以テ株式ノ讓受人ハ當ニ此包括シタル讓渡人ノ權利ト義務トヲ併セテ承繼スヘキモノス

年 月 日

株 主

何

某 ㊦

何々株式會社御中

代 理 人 變 更 届 (其二)

新代理人

何

某

從來何某ヲ以テ拙者代理人ト定メ所有ノ株式ニ對スル株金ノ拂込及ヒ配當金受取方其他株主ニ關スル一切ノ件ヲ委任致置候處今般前記ノ者ニ變更シ同一ノ權限ヲ委任候ニ付キ新代理人印鑑貳葉相添へ此段以連署及御届候也

何市何區何町何番地

年 月 日

株 主

何

某 ㊦

何縣何郡何町何村何番地

右代理人

何

某 ㊦

何々株式會社御中

【書式】 五〇、株主ノ後見人届

後見人就職届

何

某

【判例】七七

株主ノ權利ト株式トノ關係
(大審院三六、三、二二)

株主ノ權利トハ株式即チ義務ヲ包括スル一種ノ權利ヲ指稱スルニ外ナラサレハ株主ニシテ其權利ヲ失フ以所ハ株式ニ付キ何等ノ關係ナキニ至リ其結果株主タル資格ヲ喪失スルモノトス

【參考】一三

減資ト二十圓株(曹會決議
三七、一二、一七)

株式會社減資ノ場合ニ於テ其一株式ノ金額ハ通シテ之レヲ既ニ拂込ミアル金二十圓ニ下スコトヲ得ス

【參考】一四

二十圓以上五十圓未満ノ株式一時ニ株金ノ金額ヲ拂込ム場合ニ限リ二十圓以上ノ株式ハ法文上當然認メラルヘキモノタルハ疑ナシ

右ハ何某株式會社ノ株主ニ有之候處今般禁治産(準禁治産)ノ宣告ヲ受ケ拙者其後見人ニ就職致候ニ付キ別紙戶籍謄本及ヒ印鑑貳葉相添ヘ此段及御届候也

何市何町何番地

年月日

右後見人

何

某

印

何々株式會社御中

【書式】五一、株主ノ親權者(後見人)ノ變更届

親權者(後見人)變更届

何

某

右ハ從來株主何某ノ親權者(後見人)ニ有之候處今般死亡(辭任何々)シタルニ因リ拙者其後任トシテ就職致候ニ付キ別紙戶籍謄本及ヒ印鑑貳葉相添ヘ此段及御届候也

年月日

何縣何郡何町何番地

後任親權者(後見人) 何

某

印

何々株式會社御中

(判七八、七九)

ト信ス

【判例】七八

拂込義務ノ免除不能(東京控訴院二、七、八)

會社ノ株主ニ對スル此債權ハ財産權ナリト雖モ會社ノ資本ヲ構成シ其信用ヲ維持スルニ付キ必要欲クヘカラサル債權ナルノミナラス株金拂込強制等ニ嚴格ナル規定ヲ設ケタル法意ヨリ見レハ會社ハ株主ニ對シ拂込ヲ求ムル債權ヲ拋棄シ又ハ拂込ノ義務ヲ免除スルコトヲ得サルモノトス

【判例】七九

株金拂込ト更改契約(東京地方裁判所(法)三七〇、二〇)

株金拂込ノ債務ナルモノハ特別ノ性質ヲ有シ現實ニ金錢ノ拂込ヲ爲スニ因リテノミ消滅スルヲ本則ト

第二 株主ノ義務

【一三三】 株主カ其株主タル資格ニ於テ有スル義務ヲ株主ノ義務ト稱ス即チ株主カ會社ニ對シテ其引受ケ又ハ讓受ケタル株式ノ金額ヲ拂込ムヘキ義務是トス(一四四)但シ株式ノ額面以上ノ發行ヲ爲シタルトキハ其超過額ヲ負擔スル例外アリ(一二二ノ三號)此義務タルヤ株式ノ金額ヲ限度トシテ拂込、ヲ爲ス有有限の義務ニシテ會社ニ對スル義務タルニ止マリ會社ノ債權者ニ對スル義務ニアラス從ツテ會社カ株主ニ對シテ有スル株金拂込ノ債權ヲ他ニ讓渡スルコトヲ得サルハ勿論又ハ會社カ此權利ヲ拋棄シ此義務ヲ免除スルカ如キコトヲ得サルモノトス(民四六六、判例七八、七九)

【一三四】 拂込ノ義務ハ株式ノ引受又ハ讓渡ニ依リテ當然ニ生スヘク且ツ株式ソノモノニ拂込義務ヲ包含スルモノナルヲ以テ拂込ノ催告ヲ受ケテ未タ其拂込ヲ爲ササル株主カ其株式ヲ讓渡シタルトキハ其拂込ノ責任ハ當然讓受人ニ移轉スルモノトス然レトモ讓渡シタル舊株主ハ

シ之レカ更改ヲ約スルモ其債務ハ消滅スヘキモノニアラス

【判例】八〇

株金ノ拂込ハ現金ナルヲ要ス(大審院二七、一一、七)

株金ノ拂込ハ必ス現金ヲ以テスルコトヲ要シ約束手形ノ如キ債權ヲ以テスルコトハ商法ノ認許セサル所トス

【判例】八一

會社ノ相殺主張(東京控訴院七、二、六)

商法第一四四條ニ依レハ株主ヨリ株金ノ拂込ニ付キ相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得サルモ會社ヨリ株主ニ對シ相殺ヲ主張スルコトハ法律ノ禁セサル所トス

【判例】八二

株金拂込ト相殺ノ特約(東京地方裁判所四五、六、一)

(判八〇、八一)

株式ノ讓渡ニ因リテ其株金拂込ノ責任ヲ全然免レタルモノニアラス
(一五三ノ二項、一五四)

其一 拂込ノ目的タル金銭

〔一二五〕 株主ノ義務タル出資即チ株式ノ拂込ハ金銭ヲ以テ爲スコトヲ原則トス即チ拂込ハ通貨ヲ以テ現實ニ之レヲ爲スコトヲ要シ手形其他ノ代物ヲ以テ之レヲ爲スコトヲ得サルモノトス蓋シ株式會社ノ資本團體タル性質上資本ノ充實ヲ期スルニハ金銭ヲ以テ基本ト爲スニ如カス故ニ株式會社ノ資本ハ金銭ヲ以テ之レヲ表示シ株式ノ金額モ金銭ヲ以テ之レヲ表示シ株式ノ責任モ亦金額ヲ以テ其限度ト爲ス所以ナリ
(一二〇、一四四、判例八〇) 但シ第一一二二條第四號第二一二二條ノ二規定ノ場合ニ限り例外トシテ金銭以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ認めラルル加之現物出資者ハ金銭ヲ以テ拂込ム一般ノ株主カ第一回ニ四分ノ一ヲ拂込ミタル場合ニ於テモ亦全額拂込濟ト爲シ得ルモノトス
(一二六) 株式ノ拂込ハ會社ノ資産ヲ増加スル所以ニアラスタ、會社ノ有スル株主ニ對スル債權ヲ現實ニ且ツ直接ニ利用シ得ヘキ目的即チ

金銭ニ變更スルニ過キサルモノトス

第三款 株金ノ拂込

〔一二七〕 株主ハ會社ニ對シ其引受ケ又ハ讓受ケタル株式ノ金額ノ限度ニ於テ株金ノ拂込ヲ爲スヘキ義務ヲ有ス(一四四) 但シ其株式カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ其共有者ハ連帶シテ之レヲ爲ス義務ヲ有スルモノトス(一四六)

〔一二八〕 株金ノ拂込ミニ付キ株主ハ會社ニ對シテ有スル債權ヲ以テ之レニ對抗シ其相殺ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(一四四) 但シ會社ヨリ株主ニ對シテ相殺ヲ以テ對抗スルコトハ妨ケス(判例八一、八二)

〔一二九〕 商法第一一二二條第四號ノ株主タル現物出資者ハ引受株式數ニ付キ創立總會ニ於テ之レヲ不當ト認め株式數ヲ削減シタルトキハ其與ヘラレヘキ削減株式ニ對シ現物ノ代リニ金銭ヲ以テ拂込ムモ亦其出資ヲ取消スモ不可ナラス而シテ發起設立ノ場合ニ裁判所ノ處分ニ因リタルトキハ其引受ハ全然消滅スヘキモノトス(一二二、一三五)

(判八二、八三)

一)

會社ト株主トノ間ニ株金拂込ニ付キ相殺ヲ爲シ得ヘキ特約アリタリトスルモ斯ノ如キ契約ハ商法第一四四條第二項ノ規定ニ反スル事項ヲ内容ト爲スモノニシテ之レヲ是認スルニ於テハ同法カ右規定ヲ特設シタル精神ヲ没却シ終ニ會社財産ノ基礎ヲ危クシ會社債權者ノ擔保ヲ薄弱ナラシムルノ結果ニ陥ルヲ以テ無効ナリトス

【判例】八三

拂込義務ト清算時期、大審院三七、五、二)

會社カ其解散前ニ於テ既ニ株主ニ對シ株金ノ拂込ヲ適法ニ催告シタル以上ハ株主ハ會社ニ對シテ其義務ヲ履行スヘキ地位ニ在ルモノトス故ニ其後會社カ解散ニ因リ清算ノ時期ニ移ルモ之レカ爲メ株主ノ地位ニ變動ヲ來スヘキモノニアラス

【判例】八四

短期間ノ催告(大審院四〇、六、二七)

會社カ商法一五二條第一項若クハ定款ニ定ムル期間ヨリ短キ期間ヲ以テ拂込ノ催告ヲ爲シタル場合ニハ從令株主ニ於テ期間ノ利益ヲ拋棄スルモ之レカ爲メニ失權ノ通知ヲシテ同第一五三條第一項所定ノ效力ヲ生セシムルコトヲ得ス

【判例】八五

(判八四、八五)

第一 拂込ノ時期

〔一四〇〕 株式ノ拂込ノ時期及ヒ程度ニ付キテハ會社設立ノ當時ニ於テ發起設立ノ場合ハ會社ノ成立後遲滯ナク株金ノ四分ノ一ヲ下ラサル第一回ノ拂込ヲ爲スコトヲ要シ(一二三) 募集設立ノ場合ハ株式總數ノ引受アリタル後遲滯ナク之レヲ爲スコトヲ要シ(一二九) 而シテ前二者ニ於テ其例外トシテ一時ニ全額ヲ拂込ムトキニ限り特ニ金二十圓マテノ株式ヲ許シタル以外ニ法律ノ規定事項ナシ(一四五) 故ニ定款又ハ株主總會ノ決議ヲ以テ之レヲ定ムルコトヲ得ヘキモノトス但シ定款ニ於テ定メサルトキハ第二回以後ノ拂込ニ付キテハ取締役ノ任意ニ之レヲ定メ得ヘキモノトス

〔一四一〕 定款又ハ株主總會ニ於テ其時期ヲ定メタル場合ト雖モ會社ノ清算又ハ破産ノ場合ニ於テ會社ニ現存スル財産ヲ以テ其債務ヲ完済スルニ足ラサルトキハ會社カ其拂込ヲ要求スルモ其株主ハ其期限ノ利益ヲ主張シ之レヲ拒絶スルコトヲ得サルモノトス(九二、一〇五、二三四)

其一 有價出資ノ時期

〔一四二〕 有價物出資ノ場合ニ於ケル出資ノ時期及ヒ程度ハ定款ニ規定ナキトキハ民法ノ規定ニ因ルヘキモノニシテ株主カ會社ヨリ其履行ノ請求ヲ受ケタルトキニ於テ始メテ其責任ヲ生スルモノトス(民四一二ノ三項)

第二 拂込ノ催告

〔一四三〕 株金ノ拂込額及ヒ其期日ノ決定シタルトキハ其二週間前ニ於テ之レヲ各株主ニ催告スルコトヲ要ス(一五二ノ一項) 催告ノ形式ハ書面タルヲ通例トス

〔一四四〕 此二週間ノ期間ハ隔地者ニ對スル意思表示ノ規定ニ從ヒ其ノ通知ノ相手方ニ到達シタル時ヨリ之ヲ數フヘキモ其到達ノ時日ハ通常其到達スヘカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス(一七二ノ二、民九七、判例八五、八六) 故ニ二週間ヨリ長キ催告期間ヲ定ムルハ妨ケナキモ之レヨリ短キ期間ニ爲シタル催告ハ無効トス但シ全株主ノ同意ヲ得レハ

(判八五)

株金拂込催告ノ期間 (仙臺)

地方裁判所九、五、二九)

商法第一五二條ハ拂込ニ付キ株主ヲシテ其準備ノ爲メ催告後少クモ二週間ノ日數ヲ得セシムル法意ナルヲ以テ會社カ此催告ヲ爲スニ當リ同條所定ノ日數ヲ有セサルニ於テハ其無効ナルコトハ論ヲ俟タス而シテ同條第一項ニ於テハ催告スルコトヲ要スト規定シ又第二項ニ於テハ通知スルコトヲ得ト規定シアルヲ以テ之レヲ第一五三條第二項ノ催告ヲ發スルコトヲ要ストノ規定ニ對比スレハ發信主義ヲ採用セサルルコト寔ニ明カナリ從ツテ

其期間ニ付テハ民法第九七條第一項及ヒ第一四〇條ニ依リ其催告カ株主ニ到達シタル翌日ヨリ起算シ二週間ノ期間ヲ在スルニアラサレハ無効ノ催告ナルヲ以テ之レカ爲メニ株主カ株金ノ拂込ヲ爲サザバリシトスルモ株主權ヲ喪失スヘキモノニアラス

〔判例〕八六

隔地者ニ對スル意思表示

(大審院一〇、一一、四)

隔地者ニ對スル意思表示ハ其通知ノ相手方ニ到達シタル時ヨリ其效力ヲ生スヘキモノナルコトハ民法第九七條第一項ノ規定スル所ナ

(判八六)

之レヲ短縮スルモ亦敢テ妨ケス且ツ株主ニシテ無効タルヘキ短期間ノ
 催告ニ於テ拂込ヲ爲シタルトキ其拂込ハ無効ニアラス蓋シ催告ノ無効
 タル場合ハ其催告ニ基キテ行ハル、株主ノ失權若クハ拂込ノ強制手續
 ヲ爲スコトヲ得サルニ止マルモノトス(一五二ノ一項、判例八三) 催告ヲ
 受ケタル各株主ハ其期日マテニ拂込ヲ爲サ、ルヘカラス
 「一四五」 此催告竝ヒニ失權ニ關スル通知ハ株主名簿ニ記載シタル株
 主ノ住所又ハ其者カ會社ニ通知シタル住所ニ宛ツヘキモノトス(一七二
 ノ二)

【書式】 五二、株金拂込ノ催告書

株金拂込催告書

何々株式會社第何號第何回株金拂込金額 金何圓

但シ株數何株 一株ニ付キ金何圓

右拂込金額定疑第何條ニ依リ(又ハ何々ノ總會ノ決議ニ因リ)何年何月何
 日迄ニ當會社又ハ左記銀行ニ御拂込相成度定疑第何條(又ハ商法第百五十
 二條)ニ依リ此段及催告候也

何府何市何區何町何番地

何々株式會社

取締役 何 某 〇

株主 何 某 殿

拂込取扱銀行

一、何々銀行 一、何々銀行 一、何々銀行

【書式】 五三、株金拂込ノ公告

第何回株金拂込公告

當會社第何回株金拂込ノ件左ノ通り決定候ニ付キ便宜左記取扱所へ御拂込
 相成度此段株主諸君ニ公告候也

- 一、拂込金額 壹株ニ付キ金何圓宛
- 一、拂込期日 何年何月何日
- 一、取扱所 何々銀行(又ハ何々)

何縣何市何區何町何番地

年月日

何々株式會社

第二章 株式會社・株式・株金拂込・拂込ノ催告

二四九

リ此規定ハ商法第一條ニ依リ同法
 ニ特別ノ規定ナキモノニ付テハ商
 事ニ關シテ當然適用セラルルカ故
 ニ商法第一五三條第二項第一五六
 條第一項ノ如ク或期間内ニ催告又
 ハ通知ヲ發スルコトヲ要スト規定
 シ特ニ發信主義ヲ採用シタル法意
 ナリト看ラレ得ル場合ヲ除ク外ハ
 民法ノ規定ヲ適用セサルヘカラス
 「民法第九七條」 隔地者ニ對ス
 ル意思表示ハ其通知ノ相手方ニ
 到達シタル時ヨリ其效力ヲ生ス
 「商法第一條」 商事ニ關シ本法
 ニ規定ナキモノニ付テハ商慣習
 法ヲ適用シ商慣習法ナキトキハ
 民法ヲ適用ス

【判例】八七

讓渡人ニ對スル催告ノ主義

(大審院九、六、三〇)

第一五三條第二項ニ規定スル讓渡
 人ニ對スル拂込ノ催告ハ二週間ヲ
 下ラサル期間内ニ拂込ヲ爲スヘキ
 旨ノ通知ヲ發スルヲ以テ足ルモノ
 ニシテ該催告ニ付テハ發信主義ニ
 依ルヘキモノナルコトハ當院判例
 ノ認ムル所ナルヲ以テ催告ヲ發シ
 タル翌日ヨリ起算シ十四日目ニ該
 當スル期日マテニ拂込ヲ爲スヘキ
 旨ノ催告ヲ爲スヲ以テ適法トス

【判例】八八

株金拂込請求權ノ讓渡(大

判八七)

【書式】 五四、株金拂込ノ注意書

拜啓陳者當社第何回株金拂込期日ハ曩ニ御通知申上置候通り來ル何月何日ニ有之候間遲滞ナク御拂込相度萬一同期日經過致候時ハ自然延滞利息等ノ御失費ヲ要シ候事ト可相成ニ付キ此段爲念得貴意候 敬具

年月日

何府何市何町何番地

何々株式會社

株主 何 某 殿

第三 拂込ノ強制

其一 強制手段

〔一四六〕 會社ハ株主カ催告ヲ受ケタル期日ニ於テ株金ノ拂込ヲ爲ササルトキハ拂込ヲ強要スルコトヲ得ルモノトス此強制手段トシテ民事訴訟法ニ因ル強制執行其他ノ手續ニ基キ之レカ履行ヲ請求スルコトヲ得ルハ勿論商法特定ノ強制手段即チ失權手續ニ因リ之レヲ處分スルコトヲ得ルモノトス(一五二、一五三、判例八七、八八、八九、九〇、九一、九二)

〔一四七〕 此二個ノ強制手段ハ併用スルコトヲ得ヘキモノニシテ會社カ強制執行ヲ爲スモ亦失權手續ノ行使ヲ妨ケサルモノトス從ツテ強制執行ニ因リテ得タル金額カ尙ホ滞納金額ニ達セサルトキハ其不足額ニ付キ更ニ失權手續ヲ採ルコトヲ得ヘキモノトス且ツ又失權手續ニ着手シ半途ニ於テ之レヲ中止シ更ニ強制執行ヲ爲スカ如キモ亦不可ナリトセス

〔一四八〕 此強制手段ハ會社ニ於テ必スシモ拂込ヲ爲サ、ル總株主ニ對シテ一樣ニ爲スコトヲ要セス特定ノ株主ニ限り之レヲ爲スモ亦妨ケサルモノトス且ツ此拂込ノ強制手段ハ有價物出資ノ場合ニ於テモ之レヲ行使スルコトヲ得ヘキモノトス(一五五、一九七)

其二 失權ノ通知

〔一四九〕 會社ハ株主カ催告期日ニ拂込ヲ爲サ、ルトキハ更ニ二週間ヲ下ラサル一定ノ期間内ニ其拂込ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之レヲ爲サ、ルトキハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス(一五

(判八八、八九)

審院六、五、二)

會社カ株金ヲ拂込マシムル權利ヲ有スルハ株主ヲ以テ組織セラレタル社團ナルニ因リ兩者ノ間ニ特別ノ關係アルニ基因ス此權利ハ會社成立ノ上ノ拂込催告ノ前後ニ拘ハラス獨リ會社ノミ之レヲ有スルコトヲ得ルモノニシテ其性質ハ讓渡ヲ許ササモノトス

【判例】八九

株金拂込請求權ト轉付命令

(大阪控訴院五、五、二九)

會社ハ所謂資本團體タリ依ツテ信用ノ基礎ヲ構成スル唯一且ツ必然ノ債權タル株金拂込請求權ヲ讓渡

スルカ如キハ即チ資本團體タル株式會社ノ本質ヲ破壞スルモノニシテ斯ル權利ハ性質上讓渡シ得ヘカラサルモノトス而シテ債權ヲ差押ヘ之レニ轉付スルハ即チ法律上ノ移轉ニ外ナラサルヲ以テ性質上讓渡ヲ許サザル拂込請求權ハ轉付命令ニ依ルモ亦移轉スルコトナキモノトス

【判例】九〇

拂込不足額請求權ノ性質

(東京地方裁判所一〇、一二

一六)

株金拂込不足額請求權ハ株金拂込請求權ト同様性質ヲ有シ純然タル損害賠償權ニアラス株式拂込請求

(判九〇)

二ノ二項)此場合ニ於テ會社ハ其通知シタル事項ヲ公告スルコトヲ要ス
(一五二ノ三項、一二〇ノ七號、判例九二、九三)是レヲ怠リタルトキハ取締
役ハ過料ニ處セラルヘキモノトス(二六二ノ二ノ六號)此通知ヲ爲シタル
ニ拘ハラス其拂込ヲ爲サ、ル株主ハ其權利ヲ失フ(一五三ノ一項)

〔一五〇〕 會社ハ株主カ其權利ヲ失ヒタルトキハ遲滯ナク其株主ノ氏
名住所及ヒ株券ノ番號ヲ公告スルコトヲ要ス(一五三ノ二項、一二〇ノ七
號)

〔一五一〕 株主カ其權利ヲ失ヒタルトキハ其株式ハ會社ニ歸屬スルモ
ノトス(判例一一〇、一一一)然レトモ失權者ノ滯納金拂込ノ責任ハ之レ
カ爲メニ消滅セサルハ勿論加之會社ハ損害賠償及ヒ定款ヲ以テ定メタ
ル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(一五三ノ四、民四一五乃至四
二二、判例一〇一)

【書式】 五五、株金拂込及ヒ失權ニ關スル通知書

曩ニ當會社株式第何回拂株金何年何月何日マテニ御拂込相成度旨催告候處
右期日ヲ經過スルモ御拂込無之仍テ本日ヨリ何年何月何日マテノ期間内ニ

(判九一)

權カ會社ノ資本充實ノ爲メ讓渡性
ヲ有セサルト同様ニ株金拂込不足
額請求權モ亦讓渡性ナキモノトス
從ツテ會社ノ債權者ヨリ差押ヲ受
ケ又ハ轉付命令ニ依リテ轉付セラ
ルモノニアラス

【判例】九一

拂込義務ノ強要方法(大審
院五、四、一)

會社ハ株主カ株金拂込ヲ遲滯シタ
ル場合ニ於テ株主ニ對シ民法ノ規
定ニ依リ拂込義務ノ履行ヲ強要ス
ルカ又ハ商法第一五二條ニ因リ失
權ノ豫告ヲ伴フ拂込ノ催告ヲ爲シ
株主タル權利ヲ喪失セシムルカハ
其任意ニ選擇シ得ヘク且ツ以上二

必ス御拂込相成度若シ右期間内ニ御拂込ナキニ於テハ株主タル一切ノ權利
ヲ失ハルヘキニ付キ定款第何條(又ハ商法第一百五十二條)ニ依リ此段及御
通知候也

年月日 何府何市何區何町何番地
何々株式會社

取締役 何 某

株主 何 某 殿

【書式】 五六、株金拂込ニ關スル公告

株式拂込公告

當會社株式第何回拂込金壹株ニ付キ何圓何錢拂込未済ノ方ハ來ル大正何年
何月何日限リ右拂込金及ヒ百圓ニ付キ壹日四錢ノ延滯日歩ヲ添ヘ當會社ニ
御拂込相成度萬一右期日迄ニ拂込無之時ハ商法第一百五十二條ニ依リ株主タ
ルノ權利喪失可相成候此段公告候也

大正 年 月 日

何府何市何區何町何番地

何々株式會社

種ノ權利ハ之レカ行使ノ時期ニ付
キ何等ノ制限ナキヲ以テ株金ノ拂
込カ順次數回ニ涉ル場合ニ於テ其
初度ノ拂込ノ遲滯ト共ニ直チニ之
レヲ行使スルモ將タマ數回ノ拂
込義務ニ遲滯シタル後ニ於テ始メ
テ之レヲ行使スルモ其任意ニ屬ス

【判例】九二

強制執行ト失權手續(大審
院四二、六、一一)

會社カ商法第一五二條ノ規定ニ依
リ株主ニ對シ株金拂込ノ催告ヲ爲
シタルモ株主カ之レニ應セサル場
合ニ於テ強制執行ノ手段ニ據リ其
株主ヲシテ株金ノ拂込ヲ爲サシム
ルト將タ之レヲ失權セシムルトハ

(判九二)

【書式】 五七、株式失權ニ關スル公告

失權公告甲

甲第何々號何府何市何町何番地何某、丙第何號自至第何號何縣何郡何町番地何某

右株式ハ商法第百五十三條ニ依リ失權トナリタリ仍テ此段公告ス

年月日

何々株式會社

其三 讓渡人ニ對スル催告

〔一五二〕 會社ハ失權セル株式ノ各讓渡人ニ對シ二週間ヲ下ラサル期間内ニ其滯納金額ノ拂込ヲ爲スヘキ旨ノ催告ヲ發スルコトヲ要ス此期間ハ右催告ヲ發シタル翌日ヨリ起算スヘキモノトス此場合ニ於テ最モ先ニ拂込ミタル讓渡人ハ其株式ヲ取得ス(一五三)數人ノ讓渡人カ同時ニ拂込ミタルトキハ滯納金額ニ對シ平等ノ割合ヲ以テ拂込ヲ負擔セシメ其共有ト爲スノ外ナシ但シ讓渡ノ責任ハ其株式ノ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年ヲ經過シタルトキハ消滅スルモノトス(一五四、判例一〇三、一〇四)

(判九三、九四)

一ニ會社ノ自由ニ屬スルモノトス

【判例】九三

第一回株金ノ未拂込ト第二回拂込ト請求(東京控訴院

一一、一、二八)

第二回株金拂込ノ請求ニ際シ第一回株金拂込ノ未了ノモノ存スルトキハ之レニ對シテ發起人ノ責任ヲ問ヒ之レカ拂込ヲ爲サシムルヤ否ヤハ請求機關カ其責任ヲ於テ決スヘキ自由裁量問題ニシテ第一回拂込ノ事實ノ結了アルニアラサレハ第二回拂込ノ請求ヲ爲シ能ハサル理毫モ存スルコトナシ

【判例】九四

未成年者ニ對スル失權手續

〔一五三〕 右催告ヲ受ケヌ又ハ遅レテ之レヲ受ケタル爲メ株式ヲ取得スル機會ヲ失シ以テ損害ヲ蒙リタル讓渡人ハ其取締役ニ對シ第一七七條第二項ニ依リ損害賠償ノ請求ヲ爲シ得ヘキモノトス

【書式】 五八、讓渡人ニ對スル株主滯納金拂込催告書

株金滯約金額拂込催告書

何々株式會社株式第何回株金拂込金額金何圓

但シ株式何株 一株ニ付キ金何圓

何年何月何日貴下ヨリ株主何某ニ引渡相成候當會社株式ニ付キ前記第何回拂込株金拂込可相成旨右何某ニ催告ヲ爲シタルモ期日マテニ拂込ヲ爲サス依ツテ當會社定款第何條(又ハ商法第百五十二條)ニ依リ更ニ何年何月何日ヨリ何日ノ期間内ニ拂込可相成若シ右期間内ニ拂込ヲ爲ササルニ於テハ其權利ヲ失フヘキ旨通知シタルモ遂ニ右期間内ニ拂込ヲ爲サス依ツテ現株主何某ハ株主タル權利ヲ失ヒ候ニ付キ定款第何條又ハ商法第百五十三條ニ依リ引渡人タル貴下ニ於テ本日ヨリ二週間内(何年何月何日迄)ニ前記滯納金額拂込金額當會社又ハ左記銀行ニ御拂込相成度此段及催告候也

第二章 株式會社・株式・株金ノ拂込・拂込ノ強制

二五五

ノ效力(大審院四〇、九、二七)

商法第一五二條ノ催告及ヒ通知ヲ受ケタル株主カ當時未成年者ナリシトキハ會社ハ民法第九八條ニ依リ其意思表示ヲ以テ之レニ對抗スルコトヲ得ス從ツテ其株主ハ拂込ヲ爲ササルモ之レカ爲メニ當然失權ヲ來スヘキモノニアラス

〔民法第九八條〕 意思表示ノ相手方カ之レヲ受ケタル時ニ未成年者又ハ禁治產者ナリシトキハ其意思表示ヲ以テ之レニ對抗スルコトヲ得ス但シ其法定代理人カ之レヲ知リタル後ハ此限りニアラス

【判例】九五

(判九五)

年月日

何縣何市何町何番地

何々株式會社

取締役 何 某

株式讓渡人 何 某 殿

(注意) 此催告ハ讓渡人數人アルトキハ各讓渡人ニ同時ニ發スヘキ者ナリ

其四 株式ノ競賣

〔一五四〕 會社ハ讓渡人カ滯納金額ノ拂込ヲ爲サ、ルトキ及ヒ滯納金ヲ拂込ミテ而モ其株式ヲ取得セサルトキハ其株式ヲ競賣スルコトヲ要ス(一五三) 此場合ニ於テ會社ハ滯納金額ニ對スル強制執行ヲ爲スコトヲ得ス競賣ノ方法ニ據ルヘキモノニシテ第一五三條二項ノ拂込強制ヲ許サス讓渡人ノ義務ハ同條三項ノ不足額辨濟ノ義務ニ過キス而シテ競落人ハ其株式ヲ取得スルモノトス但シ從前ノ株主モ亦競落人タルコトヲ妨ケサルモノトス

〔一五五〕 此取得スヘキ株式ハ滯納金額拂込済ノモノタルヤ勿論トス其株式カ當初ヨリ同一ノ人ニ屬シ讓渡人ナキトキハ直チニ競賣ヲ爲ス

ヘキモノトス此競賣方法ハ競賣法第三條以下ノ規定ニ據ルヘキモノトス(判例一〇六、一〇七、民訴五八二)

【書式】 五九、失權株式競賣ノ委任書

失權株式競賣委任書

何市何區何町番地

委託者 何々株式會社

右代表者取締役

何 某

當會社株主中左記ノ者其所有ノ株式(壹株額而何圖第一回金何圓拂込)ニ對スル第何回拂込壹株ニ付キ金何圓何錢宛ヲ指定ノ期日タル大正何年何月何日迄ニ拂込マサルニ依リ更ニ第二回目ノ催告ヲ爲シタルモ尙ホ拂込マサルヲ以テ大正何年何月何日失權致候ニ付テハ競賣手續相成度此段及委託候也

失權株數	株券種類	失權株番號	第一回拂込金額	失權株主住所	失權株主氏名
何 株	何株券	自甲第何號至甲第何號	金何圓	何市何區何町何番地	何 某

(判九五)

未成年者ニ對スル通知

其一(東京地方裁判所六、

一〇、二九)

會社ノ株主名簿ニ株主カ未成年者ナル旨ノ記載ナク且ツ會社カ其未成年者ナルコトヲ知ラサル場合ニ於テハ商法第一七二條ノ二ノ趣旨ニ鑑ミ未成年者ニ爲シタル催告モ亦有效ナリト解スヘキモノトス

其二(大審院九、六、五)

會社カ其通知又ハ催告ヲ株主名簿ニ記簿シタル株主又株式讓渡人ニ對シ其住所ニ宛テ之レヲ爲シタル以上ハ其者カ意思能力ナキ未成年者タル場合ニ於テモ適法ノ代表者ニ依リテ受領セラルヘキモノナレ

ハ有效トス

【判例】九六

拂込通知訂正ノ效力(大審

院八、一一、四)

會社カ株主ニ對シ商法第一五二條第二項所定ノ期間ニ滿タサル株金拂込及ヒ失權通知ヲ發シタル後該金拂込ニ關スル最終日ヲ訂正スル旨ノ通知ヲ發シタル場合ニ於テ後ノ通知書ニハ株金拂込ノ最終日ヲ訂正シタル旨ノ記載アルニ止マリ別ニ拂込及ヒ失權ノ通知文句ヲ掲ケサルトキト雖モ前ノ文句代用ノ下ニ新ナル期間ヲ以テ更ニ拂込及ヒ失權ノ通知ヲ爲シタルモノト認ムルヲ相當トス

(判九六)

何株 何株券 自乙第何號 同 上 何々 何 某
以上

年月日

右代理人

何 某 ㊦

何々區裁判所執達吏 何 某 殿

【書式】 六〇、民事訴訟法第五八二條規定ノ權利付與ノ

申請書

記名有價證券書換及ヒ必要ナル陳述ヲ爲ス權利付與ノ申請

何區裁判所執達吏

申請人 何 某

何府何縣何市何區何町何番地

債權者 何 某

何府何縣何市何區何町何番地

債務者 何 某

(判九七)

【判例】九七

第一五二條第三項ノ公告

(大審院七、一一、二)

株主カ商法第一五二條第一、二項ニ從ヒ適法ナル拂込ノ催告及ヒ失權豫告ノ通知ヲ受ケナカラ拂金ノ拂込ヲ爲ササルトキハ第一五三條第一項ニ依リテ右通知ニ定メタル期間ノ滿了ト同時ニ當然株主タル權利ヲ喪失スヘキモノニシテ會社ニ於テ第一五三條第三項ノ公告ヲ爲スト否トハ右失權ノ效果ノ發生ニ何等ノ影響ヲ及ホササルモノトス右公告ハ株式ノ上ニ權利ヲ有スル第三者ヲシテ豫メ株主ノ失權スル事アルヘキヲ知ラシメ其ノ失權

有價證券 何某記名何某會社證券(又ハ株券)何枚自第何號至第何號

何府(縣)何市何區何町何番地

競落人 何 某

本職ハ右債權者何某ノ委任ニ因リ何年何月何日債務者何某所有ノ前記々名何々證券ノ差押ヲ爲シ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ何年何月何日之レヲ競賣シ前記競落人何某ニ之レヲ競落セリ依テ本職ニ對シ右競落人何某ノ爲メニ前記證券ノ氏名書換ヲ爲サシメ且ツ之レカ爲メニ必要ナル陳述ヲ右債務者ニ代ハリ爲スノ權限ヲ與ヘラレ度民事訴訟法第五百八十二條ニ依リ此段申請候也

年月日

右

執達吏 何 某 ㊦

何區裁判所判事 何 某 殿

(注意) 申請書一通ニシテ印紙二十五錢貼用ス但シ訴訟物價格二十圓以下ノトキハ二十錢

【書式】 六一、競賣ニ付キ株式名義書換請求書

第二章 株式會社・株式・株金ノ拂込・拂込ノ強制

ニ因リテ被ムルコトアルヘキ不利益ヲ避クルノ機會ヲ得セシメンカ爲メ會社ニ要求シタル手續ニ外ナラス

【判例】九八

失權通知公告ト其氏名住所

(東京地方裁判所四、一〇、

二一)

失權公告ニ付キテハ株主ノ氏名住所及ヒ株券ノ番號ヲ公告スルコトヲ要スル旨ノ規定アルモ失權通知ノ公告ニ付テハ會社カ株主ニ對シ其權利ヲ失フ可キ旨ヲ通知スルトキハ其通知スヘキ事項ヲ公告スルヲ要ストノ規定アルニ止ルヲ以テ株主ノ氏名住所ハ之レヲ公告スル

(判九八)

一、何々株式會社株式何株 但シ一法ニ付キ拂込額金何圓

内譯

何株券 何枚 自何號至何號

何株券 何枚 自何號至何號

右株式何某所有ノ處今般債權者ヨリ同人ニ對スル強制執行ニ基キ大正何年何月何日本職ニ於テ競賣ニ付シ何某ヘ競落シタルニ付キ名義書換相成度民事訴訟法第五百八十二條ノ命令書謄本竝ニ買得者印鑑ニ葉相添ヘ連署ヲ以テ此段請求候也

年月日

何裁判所執達吏

何

某

印

何市何區何町何丁目何番地

買得者

何

某

印

何々會式會社御中

其五 競賣不足額ノ請求

〔一五六〕 會社ハ株式ノ競賣ニ依リテ得タル金額カ滯納金額ニ滿タサルトキハ從前ノ株主即チ失權者ヲシテ其不足額ヲ辨濟セシムルコトヲ

得ヘシ若シ其者カ二週間内ニ之レヲ辨濟セサルトキハ株式讓渡人ニ對シテ其辨濟ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトス(一五三 三)

〔一五七〕 加之其損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケサルモノトス(一五三ノ四項)會社ハ是等ノ請求ヲ從前株主即チ失權株主又ハ其讓渡人ノ

何レニ對シテモ爲スコトヲ得ヘキモノトス但シ會社ハ其失權セル株式ニ付キ第一五三條第二項ノ催告ヲ發セサリシ讓渡人ニ對シテハ是等ノ

請求ヲ爲シ得サルモノト信ス(判例一一〇)

〔一五八〕 是等ノ請求ヲ受ケ其辨濟ヲ爲シタル者ハ其直接ノ讓受人ニ對シテ

對シテ求償權ヲ行使スルコトヲ得ルハ勿論トス

〔書式〕 六二、株金滯納不足額辨濟請求書

辨濟請求書 (其一)

業ニ貴下カ當會社ノ株主トシテ所有セラレ候株式第何回拂込金未納ニ付キ讓渡人何某ニ對シ拂込ヲ催告候處是レ又拂込ヲ爲ササルニ依リ定款第何條(又ハ商法第百五十三條)ニ依リ右株式ヲ競賣ニ付シタルニ右何株ニ對シテ金何圓ノ賣得金アリタルニ止マリ業ノ滯納金額ニ對シ猶ホ金何圓ノ不足ヲ

第二章 株式會社・株式・株金ノ拂込・拂込ノ強制 二六一

〔判例〕九九、一〇〇

株式讓渡人ノ義務ノ範圍

(大審院八、一二、二)

株式讓受人ハ株主名簿ニ讓渡ヲ記載シタル時ヨリ原始的ニ株金拂込ノ義務ヲ負擔スルモノニシテ此義務ノ負擔ハ株主名簿ニ記載スル現在ノ株主ノミニシテ株式讓渡人ハ商法第一五三條第二項第三項ニ定メタル擔保的義務ヲ負擔スルニ過キス加之同條末項ノ損害賠償及ヒ違約者ノ支拂ヲ爲スカ如キハ株式讓渡人ノ義務ノ範圍ニ屬セサルモノトス

〔判例〕一〇〇 株式讓渡ト利益配當請求權

(大審院五、三、九)

株主ハ營業年度ノ終了後株主總會前ト雖モ總會ノ決議ヲ條件トスル利益配當請求權ノミヲ讓渡シ又ハ該請求權ノミヲ留保シテ株式ヲ讓渡スルコトヲ得サルニアラサルモ株式讓渡ノ際ニ當事者間ニ何等ノ特約ナキトキハ右利益配當請求權モ俱ニ讓受人ニ移轉スルモノト解スルヲ正當トス

〔判例〕一〇一 株式讓受人責任ノ性質(大審院四〇、一二、四)

商法第一五三條第三項ノ規定ニ依リ株式讓渡人カ會社ニ對シ株金ノ不足額ヲ辨濟スヘキ義務ハ數人相

生シ候從ツテ右ハ商法第百五十三條ニ依リ從前ノ株主タル貴下ニ於テ辨濟可相成モノニ有之依テ本日ヨリ二週間内(何年何月何日迄)ニ辨濟セラレ度此段及請求候也

何縣何市何町何番地

何々株式會社

年月日

取締役 何

某

從前株主 何 某 殿

辨濟請求書 (其二)

曩ニ當會社ノ株主トシテ何某カ有シタル株式第何回拂込金未納ニ付キ讓渡人タル貴下ニ對シ拂込ノ催告ヲ爲シタル處御拂込無之ニ付キ商法第百五十三條ニ依リ右何某ノ株式ヲ競賣ニ付シタルニ其賣得金ハ何圓ニシテ何某ノ滯納金額ニ對シ猶ホ金何圓ノ不足ヲ生シタルニ因リ從前ノ株主タル右何某ニ對シ其辨濟ヲ請求シタルモ是レ又支拂無之ニ付キ讓渡人タル貴下ニ對シ其辨濟ヲ請求候條相成度此段及請求候也

何府何市何區何町何番地

何々株式會社

(判一〇二)

次テ株式ノ讓渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ各讓渡人平等ノ割合ヲ以テ之レヲ負擔スルモノニアラスシテ各自其不足額全部ニ付キ辨濟ノ責ニ任スヘキモノトス

【判例】一〇二

競賣不足額ノ償還權(大審

院四五、二、一五)

商法第一五三條第三項ニ後ヒ會社カ株式ヲ競賣シタル場合ニ於ケル不足額ヲ從前ノ株主カ辨濟セサルトキニ各讓渡人カ會社ニ對シ其不足額ヲ辨償スヘキ責任ハ同時ニ發生スルモノニシテ其間ニ前後ナシ故ニ其一人カ不足額ヲ辨濟シタルトキハ其辨濟ハ自己ノ會社ニ對ス

株式讓渡人 何 某 殿

取締役 何

某

第四款 株式ノ讓渡

〔一五九〕 株式ハ株主カ自由ニ之レヲ讓渡シ得ルコトヲ以テ原則トス然レトモ會社本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スマテハ之レヲ讓渡スルコトハ勿論其讓渡ノ豫約ヲ爲スコトモ亦得サルモノトス(一四七)〔一六〇〕 定款ニ於テ讓渡ノ禁止又ハ會社ノ承諾ヲ要スル旨ヲ定メタルトキニ限リ其例外ヲ認メラル(一四九)但シ相續ニ因リ株式ヲ取得スル場合ハ其例外タルト登記前タルト問ハス讓渡シ得ルモノトス〔一六四〕 會社ノ成立前ニ株式ノ賣買ヲ許ストキハ株式ノ引受ケニ投機的素質ヲ加ヘ株金拂込ノ不確實ヲ招キ會社ノ基礎ヲシテ薄弱ナラシムル恐レアルカ故ナリ故ニ所謂權利株ノ讓渡ノ如キハ法律上無効トス〔一六五〕 株主ハ任意ニ其株式ノ讓渡ヲ爲シ得ヘキモ其株主タル責任ハ全然免除セラル、コトヲ得ス即チ株式讓渡人ハ其株式カ株金全額ノ

ル法律上ノ責任ヲ履行シタルモノナルモ讓受人又ハ轉得者カ株金ヲ拂込マサルニ胚胎スルヲ以テ其讓渡人カ讓受人ノ辨濟スヘキモノヲ代ツテ辨濟シタルコトニ歸ス故ニ其辨濟者ハ讓受人ニ對シ之レカ償還ヲ請求シ得ヘキハ當然ナリ

【判例】一〇三

會社ノ競賣不足額辨濟ノ請

求權(東京地方裁判所三、

一〇、二七)

株式讓渡人ノ株式競賣不足額辨濟ノ責任ハ各自獨立セル全部義務ナルヲ以テ特ニ順次週及スルヲ必要トスルノ明文ナキ以上ハ各讓渡人ノ一人ヲ選ヒ請求スルモ亦同時ニ

(判一〇三)

拂込濟ナラサル場合ハ其讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年ヲ經過スルマテハ株金ノ拂込ニ付キ一種ノ擔保的義務ヲ有シ株主失權ノ場合ハ株金滯納金額株式競賣不足額等ノ辨濟ノ責ヲ負フモノトス (一五〇、一五二、一五三)

第一 讓渡ノ手續

〔一六三〕 株式ノ讓渡ハ當事者間ニ於ケル讓受ノ意思表示ニ因リテ成立スルモノトス然レトモ記名株式ノ移轉ハ取得者ノ氏名住所ヲ株主名簿(一七二)ニ記載シ且ツ其氏名ヲ株券ニ記載スルニアラサレハ之レヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス但シ無記名株式ハ引渡ニ因リテ之レニ對抗スルコトヲ得ルモノトス (一五〇、民八六一七六、一七七)

〔一六四〕 記名株式ノ讓渡方法ハ讓渡人ノ名義書換ノ委任狀又ハ白紙委任狀ヲ添へ株券ヲ交付スルヲ以テ一般ノ慣例トス然レトモ理論上ハ名義書換ハ原則トシテ讓受人ニ於テ之レヲ爲スヘキモノニシテ讓渡證

ヲ附スレハ別ニ委任狀ノ必要ナキモノト信ス

其一 讓渡人ノ免責時期

〔一六五〕 株式讓渡人ノ株式上ニ於ケル擔保責任ハ第一五四條ニ其讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年ヲ經過シタルトキ消滅スル旨ヲ規定ス從ツテ此法定期間内ニ讓渡人カ第一五三條第二項ニ依リ滯納金額拂込ノ催告ヲ受ケサル限り其株主ノ義務ヲ免ル、モノトス

【書式】 六三、株式名義書替停止ノ公告

公告

當會社定款第何條ニ依リ大正何年何月何日ヨリ同何年何月何日ニ至ル決算中ニ付キ來ル何月何日ヨリ株主總會ヲ終ル迄株券ノ記名書換ヲ停止ス

年 月 日

何々株式會社

【書式】 六四、株式名義書替委任狀

三錢
收入
委任狀

第二章 株式會社・株式・株式ノ讓渡

二六五

(判一〇四、一〇五)

各讓渡人全部ニ對シテ請求スルモノニ會社ノ選定ニ任スヘキモノトス

【判例】一〇四

株金滯納ノ損害賠償ノ性質

(大審院四三、一二、一三)

定款ヲ以テ定メクル株金拂込ニ關スル豫定ノ損害賠償額ハ會社ニ生シタル損害ノ賠償ヲ看做スヘキモノニシテ商法第一五三條第四項ニ該當シ株金ノ拂込トハ其性質ヲ異ニスルモノトス

【判例】一〇五

會社解散後ノ株式讓渡(大

審院四四、一〇、一二)

株式ノ讓渡ハ會社ノ解散後ニ於テモ之レヲ爲シ得サルモノニアラス故ニ其讓渡アリタルトキ其名義ノ書替ニ付キ當事者ノ請求アリタルトキハ會社ハ當然之レヲ爲スコトヲ要ス而シテ其書替ヲ爲スハ即チ清算人ノ職務ニ屬ス

【判例】一〇六

株式讓渡人ノ免責時効中斷

其一(大審院四四、一一、四)

株主カ失權シタル場合ニ於テ株式讓渡人カ讓渡ノ後未タ二年ヲ經過セサル以前ヨリ株金拂込ノ催告ヲ受ケタルトキハ右讓渡人ノ責任ハ

(判一〇六)

- 一、拙者何某ヲ以テ代理人ト定メ左ノ權限ノ事ヲ委任候事
- 一、何々株式會社株式 何 株

讓渡候ニ付キ名義書換其他之レニ關スル一切ノ件

右代理委任狀仍而如件

年 月 日

何市何區何町何番地

何

某

【書式】 六五、株式名義書換ノ白紙委任狀

二錢 收入

委任狀

- 一、拙者 ヲ以テ代理人ト相定メ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候事
- 一、何々株式會社株式

候ニ付キ名義書換其他之レニ關スル一切ノ件

右代理委任狀仍而如件

年 月 日

何

某

【書式】 六六、株式名義書換ニ關スル委任狀

(判一〇七)

其後二年ヲ經過スルモ消滅スルモノニアラス

其二(大審院三九、三、三〇)

株式ノ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年以内ニ會社カ商法第一五三條第三項ニ從ヒ競賣不足辨濟ノ催告ヲ爲シタル以上ハ其訴訟ノ提起ハ縱令辨濟催告ノ日ヨリ六ヶ月以上ヲ經過シ又ハ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル日ヨリ二年以上ヲ經過シタル後ニ在ルモ讓渡人ハ免責ノ利益ヲ受クルコト能ハス

【判例】一〇七

株式讓渡人ノ責任期間

二錢 收入

委任狀

- 一、拙者義何某ヲ以テ代理人ト定メ左ノ事項ヲ委任ス
- 一、何々株式會社株式何株ヲ家督(又ハ遺産)相續ニ依リ繼承シタルニ付キ株式名義書換ヲ請求スルニ必要ナル一切ノ行爲

右委任狀仍而如件

年 月 日

何市何町區何何番地

何

某

【書式】 六七、讓渡ニ付キ株式名義書換請求書

名義書換請求書

- 一、何々株式會社株式何株 但シ一株ニ付キ何圓何錢

内 譯

何株券 何枚 自何號至何號

何株券 何枚 自何號至何號

右株式何某有之處何某へ讓渡候ニ付キ名義書換相成度

第二章 株式會社・株式・株式ノ讓渡

二六七

(判一〇七)

其二(大審院五、七、一三)
 商法第一五三條第一項ニ依リ株主カ失權シタル場合ニ於テ株式讓渡人カ讓渡後未タ二年ヲ經過セサル間ニ會社ヨリ株金拂込ノ催告ヲ受ケタルトキハ右讓渡人ノ責任ハ讓渡後二年ヲ經過スルモ消滅セサルモノトス

其一(大審院六、二、二)

株式讓渡人カ其讓渡ヲ株主名簿ニ記載シテヨリ二年ヲ經過シタル後競賣不足金辨濟ノ請求ヲ受ケタリトスルモ既ニ同期間内ニ拂込ノ催告ヲ受ケタルニ於テハ讓渡人ハ右辨濟ノ責任ヲ拒否スヘキ適當ノ理由ヲ有セサルモノトス

株式及ヒ讓受人印鑑二葉相添へ此段及請求候也

年月日 何市何區何町何番地 讓渡人 何 某 ㊦

年月日 何市何區何町何番地 讓受人 何 某 ㊦

何々株式會社御中

【書式】 六八、受贈ニ付キ株式名義書換請求書

名義書換請求書

一、何々株式會社株式但シ一株ニ付キ拂込額金何圓

内譯

何株券 何枚 自何號至何號

何株券 何枚 自何號至何號

右株式何某所有ノ處同人犬正何年何月何日死亡遺言ニ依リ拙者讓受候ニ付
 キ名義書替相成度株券及ヒ遺言書ノ認證謄本戸籍謄本並ニ印鑑二葉相添へ
 此段及請求候也

(判一〇八、一〇九)

【判例】一〇八

白紙委任狀ニ依ル中間讓渡人ノ不足額辨濟ト其求償權
 (大審院三、二、二五)

白紙委任狀付ノ讓渡ニ於テテ中會社ニ對シ滯納不足額ヲ辨濟シタル者アルトキハ名義書換ノ上株式ヲ讓渡シタル場合ト同シク直接ノ讓渡人ニ對シテノミ求償權ヲ有シ之レヲ踰越シテ其以後ノ讓渡人ニ對シ直接ニ求償ヲ爲シ得ヘキモノニアラス

【判例】一〇九

利害關係人ニ通知セサル株式競賣ノ效力 大審院四五、

一、二三)

競賣法第八條ニ違反シテ競賣ノ場所及ヒ日時ヲ利害關係人ニ通知セサル事由ハ競賣異議ノ原因タルニ過キササルヲ以テ株式競賣人ハ利害關係人ニ對シ之レカ通知ヲ爲サザリシトテ株式競賣不足額辨濟ヲ請求スル妨ケトナラス

〔競賣法第八條〕競賣ノ場所及ヒ日時ハ競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但シ通知ヲ受クヘキ者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ此限ニアラス

【判例】一一〇

株式ノ競賣手續 (大審院四

(判一一〇)

何々株式會社御中

【書式】 六九、家督相續ニ付キ株式名義書換請求書

名義書換請求書

一、何々株式會社株式何株 但シ一株ニ付キ拂込額金何圓何錢

内譯

何株券 何枚 自何號至何號

何株券 何枚 自何號至何號

右株式何某所有ノ處同人大正何年何月何日死亡(又ハ隱居、入夫婚姻)致候ニ付キ今後拙者ニ於テ家督相續致候間名義書換相成度株券及ヒ戸籍謄本

第二章 株式會社・株式ノ讓渡

會社 法實務篇(一六五、書六九、七〇)
並ニ印鑑二葉相添ヘ此段及請求候也

二七〇

年月日
何市何區何町何番地
被相續人 何 某 ㊦

何市何區何町何番地
相續人 何 某 ㊦

何々株式會社御中

【書式】 七〇、遺產相續ニ付キ株式名義書換請求書

名義書換請求書

一、何々株式會社株式何株 但シ一株ニ付キ拂込額金何圓何錢

内 譯

何株券 何枚 自何號至何號

何株券 何枚 自何號至何號

右株式何某所有ノ處同人大正何年何月何日死亡候ニ付キ拙者ニ於テ遺產相續致候間名義書換相成度株券及ヒ戶籍謄本並ニ印鑑相添ヘ保證人連署ヲ以テ此段及請求候也

何市何町何番地

(判一一一)

三、一二、一三)

商法第一五三條第三項ノ競賣トハ競賣法ノ規定ニ依ルヘキモシニシテ之レニ依ラサル競賣ハ當然無効ニシテ成立セサルモノナルヲ以テ其無効ハ何人ト雖モ之レヲ主張スルコトヲ妨ケス

【判例】一一一

株式競賣ト會社ノ利得(大

審院三六、四、一八)

商法第一五五條ノ規定ハ拂込ノ義務ヲ怠リタル株主ニ對スル制裁ナルヲ以テ其株式ハ當然會社ニ歸屬スルモノトス故ニ競賣ノ結果滯納金額ヲ控除シテ餘利ヲ生シタル場合ニ於テ會社ハ其金額ヲ利得スル

年月日

遺產相續人

何

某 ㊦

何縣何郡何村何番地

保證人

何

某 ㊦

何々株式會社御中

第五款 株式ノ質入

〔一六六〕 株式ハ其讓渡ニ付キ定款ニ於テ禁止セラレタル場合ノ外ハ質權ノ目的タルコトヲ得ヘキモノトス(一五一、民三四三、三六二)

第一 質入ノ方法

〔一六七〕 株式ノ質入ノ方法ニ付テハ商法ニ規定ナシ故ニ民法ノ原則ニ從フヲ要ス(民三四三、三六二)但シ讓渡ヲ制限セラレタル株式ノ上ニ設定シタル質權ノ無効ナルハ無論トス其株式力無記名式ノ場合ハ動産ノ質入ニ關スル規定ヲ適用スヘク記名式ノ場合ハタ、株券ノ交付ニ因リテ之レヲ爲スコトヲ得ルモノトス(民八六ノ三項、三六三)

第二章 株式會社・株式・株式ノ質入

二七一

ハ畢竟法律ノ規定ニ因ルモノナル

ハ不當利得ニアラス

【判例】一一二

競賣ノ讓渡人ハ會社ナリ

(大審院三六、五、二三)

株式會社カ商法第一五二條ノ手續ヲ踐ムモ株主ニ於テ尙ホ株金ノ拂込ヲ爲ササルトキハ當然株主タル右權利ヲ失ヒ其株式ハ一旦會社ノ有ニ歸スルモノトス從ツテ同法第一五二條ニ基ク競賣ノ讓渡人ハ會社ニシテ從前ノ株主ニアラス

【判例】一一三

競賣法ニ據ラサル不足額ノ請求(大審院三、九一一、二〇)

(判一一二、一一三)

【一六八】 然レトモ記名株式ノ質入ハ株式讓渡ノ場合ノ如ク白紙委任狀ヲ添ヘテ株券ヲ交付スルヲ以テ慣例トシ擔保ノ目的ニ依ル信託的讓渡アリタルモノトシテ質權者ハ債務ノ辨濟ナキトキハ其委任狀ヲ以テ株式名義ノ書換ヲ爲シ株式ヲ取得シ又ハ更ニ之レヲ他ニ讓渡スルコトヲ得ヘク又ハ民法第三六八條民事訴訟法第五八二條ノ規定ニ從ヒ競賣ニ附シ得ヘキモノトス

第二 會社合併ト質入株

【一六九】 會社ノ合併ニ因リテ解散スル株式上ニ設定セラレタル質權及ヒ株式併合ノ場合ニ於ケル從前ノ株式ヲ目的トスル質權ハ株式カ合併ニ因リテ受クヘキ株式若クハ金錢ノ上ニ存在スルモノナルヲ以テ該權利ノ消滅ヲ來スモノニアラス(二二〇ノ五、二二五ノ三項)

第三 失權手續ト質入株

【一七〇】 質權ノ設定セラレタル株式ニ付キ失權手續アリタルトキハ

(判一一四)

株式會社カ失權株主ノ株式ヲ賣却スルニ當リ競賣法ノ規定ニ依ラサルトキハ縱令賣却代金ノ滯納金ニ滿タサルコトアルモ株式讓渡人ニ對シテ其不足額ノ辨濟ヲ請ボスルコトヲ得ス

【判例】一一四

滯納不足金額ノ追償ト失權手續(東京控訴院四一、四、一六)

會社カ株金拂込未了ノ株主ニ對シ失權處分ヲ爲シ其失權株式ノ競賣ヨリ得タル代金ノ不足額ニ追償セシムルハ其義務懈怠ヨリ生シタル損害補償費ヲ負ハシムルニアリテ株金拂込ノ責任ヲ負ハシムルモノ

質權ノ物權的效力ノ追及力ニ基キ質權者ハ株主ニ代リ其拂込ヲ爲シ該權利ノ存續ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(民二九九、三五〇、三六一)

【書式】 七一、株式質入書

三錢 收入 擔保差入書

一、何々株式會社株式何株
右ハ拙者所有ノ處今般貴殿ニ質物トシテ提供致候然ル上ハ拙者ニ於テ債務不履行ノ場合ハ貴殿ノ御都合上債權者トノ約束ニヨリ右ヲ他人名義ニ書換ヘ相成候トモ異義無之候仍而別紙名義書換ニ關スル白紙委任狀相添ヘ一札加件

大年何年何月何日 何 某 〇
何 某 殿

【書式】 七二、質物提供承諾書

三錢 收入 承諾書

一、何々株式會社株式何株

第二章 株式會社・株式・自己・株式ノ取得

ニアラス追償ヲ求ムルニハ必ス其失權株式ヲ競賣セサルヘカラス此手續ヲ爲サスシテ補償金額ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

【判例】一一五

株式名義書換停止中ノ書換(大審院四、三、九)

株式名義書換ノ停止ハ株主ノ變更ニ依リ會社ニ生スヘキ事務ノ混雜ヲ避クル手段ニ外ナラサレハ其停止期間中ト雖モ會社ニ於テ任意ニ名義ノ書換ヲ爲スモ妨ケサルモノトス

【判例】一一六

名義書替ト株券真正ノ保證(大審院三五、二二八)

(判一一五、一一六)

右ハ拙者所有ノ處今般貴殿ニ處分ノ許シ候ニ付テハ貴殿ノ都合ニ依リ質物トシテ他ニ御提供ノ義承諾致候然ル上ハ貴殿ト質權者トノ約束ノ結果ニヨリ右何々株式會社株式何株ヲ他人名義ニ書換相成候トモ異議無之候仍而一札如件

年月日

何

某

第六款 自己株式ノ取得

〔一七一〕 株式會社ハ自己ノ株式ヲ取得スルコトヲ得サルヲ以テ原則トス從ツテ質權ノ目的トシテ之レヲ受クルコトモ亦得サルモノトス
〔一五一〕 蓋シ株式ハ株主カ會社ニ對シテ有スル權利義務ノ主體ナルヲ以テ會社カ自己ノ株式ヲ取得スルトキハ其株式ハ混同ニ因リテ消滅スヘク且ツ社團法人タル會社カ其組成分子タル株主即チ社員タル別箇ノ人格者タルコトヲ得サルカ故ナリ 民五二〇〇 加之會社カ自己ノ株式ヲ取得スルハ會社財産ヲ鞏固ナラシムル所以ニアラス寧ロ危險ナラシムル恐レアルヲヤ但シ會社カ株主ノ失權手續ヲ爲シタルトキ其失權株式

會社カ株券ノ名義ヲ書替フルモ株券ノ真正ナルコトヲ保證スルニアラシテ株主ノ變更ヲ承認スルニ過キスサレハ其書替ヲ爲シタル株券カ偽造ナリシトキハ書替ヲ爲スモ何等ノ效力ヲ生スルモノニアラス

【判例】一一七

株券ヲ交付セサル株式讓渡

ノ效力(大審院八、一〇、一

六)

株券ヲ交付スルコトナク單ニ讓渡證及ヒ名義書替ノ爲メ白紙委任狀ヲ交付シタルノミニテハ株式ノ有効ナル讓渡アリタルモノト認ムル

ヲ競賣スル爲メ一時會社ニ歸屬セシムル例外アリ (判例一一一、一一二、一二四、一二七) 此規定ニ反シ自己ノ株式ヲ取得シタルトキハ其取締役ハ重キ過料ニ處セラルヘキモノトス(二六二ノ四號)

第七款 株式ノ共有

〔一七二〕 株式ハ數人ニテ之レヲ共有スルコトヲ得ルモノトス此場合ニ於テ共有者ハ株主ノ權利ヲ行使スヘキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス
〔一四六〕 若シ此權利ヲ行フ代表者ヲ定メサルトキハ株主權ノ行使ヲ爲シ得サルモノトス但シ株主トシテノ權利中利益配當請求權、利息配當請求權、殘餘財産分配權、株券ニ關スル權利等其他ノ取得ハ此限りニアラス

〔一七三〕 株主ノ義務ニ付テハ共有者ハ會社ニ對シ連帶責任ヲ負擔スルモノトス故ニ會社ハ株金ノ拂込ニ付キ其一人ニ對シ又ハ同時若クハ順次ニ其總員ニ對シテ催告スルコトヲ得ヘキハ勿論ナルモ其一人ニ對スル履行ノ請求ハ他ノ連帶者ニ對シテ其效力ヲ生スルモノトス從ツテ

慣習ナシト雖モ其讓渡ヲ以テ當然無効ト看做スヘキモノニアラス

【判例】一一八

白紙委任狀ノ喪失其他ノ理

由ニ依ル株式名義書換(大

審院七、二、一四)

白紙委任狀記名株式ノ取得者カ其株式名義ヲ自己ニ書換ヲ爲スニ當リテハ必スシモ添付セラレタル白紙委任狀ニ依ルコトヲ要セサルヲ以テ白紙委任狀ノミカ喪失其他ノ事由ニ依リ無効ニ屬シタルカ如キ場合ニ於テハ株式取得者ハ白紙委任狀ニ依ラス他ノ方法ヲ以テ名義書換ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

【判例】一一九

(判一一八、一一九)

會社ハ催告シタル其一人カ拂込ヲ爲サ、ルトキハ直ニ共有者タル總員ニ對シ失權手續ヲ爲スモ妨ケサルモノトス(民四五二、四三四、判例一二八)

【書式】 七三、共有株式ニ關スル書式

共有株式代表者届 (其一)

何縣何 何村何番地

代表者 何 某

拙者等ノ共有スル何々株式會社株式ニ付キ前記ノ者ヲ代表者ト相定メ株主ニ關スル一切ノ件ヲ辨務爲致候間印鑑貳葉相添ヘ此段相届候也

何縣何郡何町何番地

共有者 何 某

何縣何郡何町何番地

共有者 何 某

何々株式會社御中

共有株式代表者變更届 (其二)

何縣何市何區何番地

(判一二〇、一二一)

委任狀記名者ノ死亡ト其流通(大審院四二、四、一三)

委任狀記名者ノ死亡ハ其輾轉流通ヲ妨クルノ事由トナラス

【判例】一二〇

白紙委任狀付株券ノ性質

(大審院五、五、一五)

白紙委任狀付ノ記名株券ハ民法第八六條第三項ノ規定ニ依リ之レヲ動産ト看做スヘキモノニアラス從ツテ右株券ニ關シテ合同法第一九四條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ルモノニアラス

【判例】一二一

白紙委任狀付株券ト其盜品

ノ流通效力(名古屋控訴院

新代表者 何 某

拙者等ノ共有スル何々株式會社株式ニ付キ從來何某ヲ以テ代表者ト致置候處今般前記ノ者ニ變更致シ候間爾後株主ニ關スル一切ノ件右代表者ニ於テ處辨爲致候間印鑑貳葉相添ヘ此段相届候也

何縣何市何町何番地

共有者 何 某

何縣何市何區何町何番地

共有者 何 某

何々株式會社御中

第八款 株式ノ消却

〔一七四〕 株式ノ消却トハ會社カ自己ノ株式ヲ取得シテ特定ノ株主權ヲ消滅セシムルコトヲ稱ス(一五一)故ニ失權手續中ニ於ケル株式ノ一時會社ニ歸屬スル場合(一五三)トハ全然其性質ヲ異ニス

〔一七五〕 株式ノ消却方法ニニアリ其一ハ資本減少ノ規定ニ從ヒテ爲

第二章 株式會社・株式・株式ノ消却

二七七

三年第二二八號)

記名株券ノ名義人カ白紙委任狀ヲ添付シテ株券ヲ他人ニ交付スルニ於テハ其株券ハ委任狀ト相待テ輾轉流通シ善意無過失ニテ其交付ヲ受ケタル者ハ該株券ノ上ニ權利ヲ取得スルノ慣習アリトスルモ其株券カ盜品ニシテ且ツ白紙委任狀モ亦偽造ニ係ルカ如キ場合ニハ右ノ慣習ヲ適用スルコトヲ得ス

【判例】一二二

株券ノ名義書換ハ雙方代理

ニアラス(大審院三八、九、

三〇)

記名株券ノ買賣ノ成立シタル場合ニ於テ買主カ賣主ヨリ交付ヲ受ケ

(判一二一)

ス場合ニシテ其二ハ株主ニ配當スヘキ利益ヲ以テスル場合はレトス

其一 資本減少ノ規定ニ依ル場合

〔一七六〕 資本減少ノ規定ニ依リ株式ヲ消却スルニハ株主總會ノ特別決議即チ總株主ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當タル株主出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ資本ノ減少ヲ決議シ同時ニ之レカ消却方法ヲ定メ且ツ合併ニ關スル規定ニ從ヒ之レヲ整理スルモノトス (二〇九、二二〇、七八乃至八〇)

其二 配當利益ヲ以テスル場合

〔一七七〕 定款ノ定ムル所ニ從ヒ會社ノ貸借對照表ニ現ハレタル利益ヨリ法定準備金及ヒ定款所定ノ諸支出ヲ控除シタル殘額ニシテ株主ニ配當スヘキ利益ヲ以テ之レヲ爲スモノトス (一五一) 此場合ニ於テ消却セラレタル株式ノ株主ハ其株主タル資格ニ於テ有シタル權利義務ノ一切ヲ喪失スルモノトス然レトモ資本減少ノ消却ニアラサルヲ以テ會社ノ資本ハ之レカ爲メ何等ノ減少ヲ來タサ、ルモノトス

〔判一三三、一三三〕

タル白紙委任狀ヲ利用シ株券ヲ自己ノ名義ニ書替フルカ如キハ賣買ヲ完了スル行爲ニシテ民法一〇八條但書ニ所謂債務ノ履行ニ外ナラサレハ同條ノ本文ヲ適用スヘキモノニアラス

〔民法一〇八條〕 何人ト雖モ同一ノ法律行爲ニ付キ其相手方ノ代理人ト爲リ又ハ當事者雙方ノ代理人ト爲ルコトヲ得ス但債務ノ履行ニ付テハ此限りニアラス

〔判例〕一三三

禁示事項付ノ株式讓渡ノ效力 (東京控訴院五、一一、一五)

定款ニ取締役會ノ承認ヲ得ルニア

第九款 株 券

〔一七八〕 株券トハ株式ヲ表示スル要式證券ニシテ所謂權利設定證券ニアラス從ツテ株券ハ株主權ノ要素ニアラス其利用處分ニ付キ必スシモ證券ノ占有ヲ必要トセス、株主權ノ移轉ニ株券ヲ必要トスルニ止マル株券ナキモ株式ハ存在スルモノトス然レトモ一般ニハ有價證券ヲ以テ取扱ハル (判例一二六、一二七、一二八、一三一、一三二、一三五參照)

〔一七九〕 株主ハ株券ニ關シ其交付及ヒ方式變更竝ヒニ株主名簿登錄及ヒ名義書替等其他ノ請求權ヲ有スルモノトス (一四九、一五〇一五五)

第一 株券ノ發行

〔一八〇〕 株券ハ會社カ其本店ノ所在地ニ於テ設立登記ヲ爲シタル後ニアラサレハ之レヲ發行スルコトヲ得サルモノトス (一四七) 若シ右ノ登記前ニ之レヲ發行シタルトキハ其株券ハ當然無効ニシテ之レヲ發行シタル發起人又ハ取締役ハ過料ニ處セラルヘキモノトス (一四七、二六

ラサレハ株主以外ノ者ニ賣買讓渡

スルコトヲ得ストノ規定ヲ存スル

トキハ其株式ハ取締役會ノ承認ア

ルマテハ之レヲ株主以外ノ者ニ株

渡スルコトヲ得ス從ツテ其質權實

行ニ因リ第三者カ之レニ競落シタ

リトスルモ正當ナル株式取得者ト

謂フコトヲ得ス

〔判例〕一二四

株式質權ノ實行 (東京控訴

院六、六、三〇)

記名株式ヲ目的トスル質權ノ實行ニ付テハ競賣法中何等規定スル所ナク且ツ記名株券ハ性質上有價證券ノ一種ニシテ而モ直接ニ取立ツルコトヲ得サル權利ナルカ故ニ民

(判一二三)

(二) 且ツ此無効ナル株券ヲ有效ナリト信シテ取得シタル者ハ其發行シタル發起人又ハ取締役ニ對シ之レカ爲メニ受ケタル損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(一四七ノ二項、判例一三六、一三七、一三八)

【書式】 七四、株券交付ノ通知書

拜啓陳者當會社株券發行致候間來ル何月何日迄ニ(午前何時ヨリ午後何時迄)第一回株金拂込領收證引換ニ御交付申上候間此段及御通知候 敬具

何府何縣何市何町何番地

年月日

何々株式會社

株主 何 某 殿

- 〔一八一〕 株券ハ商法ニ取締役ニ於テ之レヲ監査役ニ供託スヘキ旨
- 〔一六八〕及ヒ株式移轉ノ對抗條件トシテ株券ノ書替ヲ要スル旨(二〇)並ニ無記名式株券ノ株主ノ權利行使ニ付キ之レヲ會社ニ供託スヘキ旨
- 〔一五三ノ二〕 等ノ規定アルヲ以テ其發行ヲ強制セサルモ強要セルモノト見做スヘキモノトス

第二 株券ノ要式

(判一二四)

法三六八條ニ從ヒ民事訴訟法第五八一條以下有價證券ノ差押ニ關スル規定ノ準用アルモノトス從ツテ記名株式ノ競落人ハ同法第五八二條ニ依リ當該會社ニ對シ株式名義人ニ代ハリテ執達吏ノ名義書替ヲ請求シ得ルモノト謂ハサルヲ得ス

〔民法第三六八條〕 質權者ハ前條ノ規定ニ依ル外民事訴訟法ニ定ムル執行方法ニ依リテ質權ノ實行ヲ爲スヲ得(民事訴訟法第五八一條) 執達吏有價證券ヲ差押ヘタルトキハ相場アルモノハ賣却日ノ相場ヲ以テ適宜ニ之レヲ賣却シ其相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從ヒテ之レヲ競買ス

〔一八二〕 株券ニハ左ノ法定ノ事項及ヒ發行番號ヲ記載シ取締役ノ署名アルコトヲ要ス(一四八) 但シ法定以外ノ事項ヲ記載スルモ亦妨ケス

- (一) 會社ノ商號
- (二) 本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル年月日
- (三) 資本ノ總額
- (四) 一株ノ金額
- (五) 新株ノ場合ハ本店ノ所在地ニ於テ資本増加ノ登記ヲ爲シタル年月日(二一七)
- (六) 優先株ノ場合ハ其株主ノ權利(二一八)
- (七) 數回ニ株金ノ拂込ヲ爲サシムル場合ハ拂込アル毎ニ其金額(一四八ノ二項)

而シテ以上ノ事項ヲ記載セス又ハ不正事項ノ記載ヲ爲シタル取締役ハ過料ニ處セラルヘキモノトス(二六二ノ二ノ八號)

〔一八三〕 資本増加ニ伴フ新株券ニハ新株式ノ特殊規定ノ記載以外ハ商法第一四八條ノ規定ニ依ルハ勿論同條第三號ノ所謂資本ノ總額ニ就

〔民事訴訟法第五八二條〕 有價證券ノ記名ナルトキハ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ書換ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債權者ニ代リ爲ス權利ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

【判例】一二五

記名株式ノ權利質規定適用

(東京控訴院四三、三、一〇)

民法第三六四條第二項ノ規定ハ記名株式ニ對スル質權者ト會社トノ間ニ何等ノ法律的關係ヲ生セサルコトヲ規定シタルニアラスシテ記名株式ヲ質權ノ目的ト爲シタルトキ質權設定ヲ會社其他ノ第三者ニ對抗シ得ヘキコトヲ定メタルモノ

(判一二五)

キテハ新ニ増加シタル資本ヲ計上シタル總額ヲ記載スヘク内譯トシテ
新株式ノ發行ニ基ク増加資本ノ金額ヲ併記スルヲ可トス

【書式】 七五、株 券

表面

甲第何號	何々株式會社何株券	金何圓
印紙	株者 何	某
會社ノ商號	何々株式會社	
設立登記	何年何月何日	
資本總額	金何圓	
一株ノ金額	金何圓	

右記名者ハ本會社ノ定款ニ基キ株主タルコトヲ證ス依テ此株券ヲ交付ス

何々株式會社
取締役 社長 何 某

(注意) 右株券ニ署名スル取締役ハ會社ヲ代表スル取締役一名又ハ
總取締役ヲ以テスルモ亦不可ナラス

(判一二六)

ナリ從ツテ記名株式ヲ質權ノ目的
トシタルトキハ民法ノ權利質ニ關
スル規定ノ適用アルモノトス

【判例】一二六

株券ノ交付ト質入ノ許諾

(大阪地方裁判所三四、一

一、一)

株券ヲ交付シタル以上ハ一般ノ商
習慣ニ從ヒ其讓渡又ハ質入ヲ許諾
シタルモノト認メサルヘカラサル
ヲ以テ交付ヲ受ケタル銀行カ他人
ニ對スル債務ノ爲メ更ニ質入シタ
ル場合ニ於テハ從令同銀行ニ對シ
債務ノ擔保ノ爲メニ之レヲ交付シ
タリシニアラスト雖モ質權者トシ
テ現ニ其株券ヲ占有スルモノニ對
シ返還ヲ請求スルコト能ハサルヤ

當然ナリ

【判例】一二七

質權ノ目的物ノ消滅ト權利
行使 東京地方裁判所四二、

一〇、二七)

質權ノ目的タル債權ヲ直接ニ行使
シ得ルハ民法第三六七條ノ定ムル
所ニシテ質權ノ目的物カ消滅毀損
シタル場合ニ於テ債權者ノ受クヘ
キ金錢其他ノ物ニ對シテモ亦質權
ヲ行使シ得ヘキモノナルコトハ同
法條及ヒ民法第三〇四條ノ規定ニ
照シ明カナリ

【判例】一二八

質權ノ消滅 (大審院四、三、

八)

(判一二七)

裏面

回次	金拂額	年月日	取締役印	回次	金拂額	年月日	取締役印
第一回				第四回			
第二回				第五回			
第三回				第六回			
年 月 日		讓渡人記名印				讓受人記名印	
							取締役印

【備考】 一〇、株券裏面記載用例

記載用例

讓渡ノ例	何	某某	何	某某	何	某某
	讓渡人氏名印		讓受人氏名印		取締役氏名印	

同代理人ノ例	何某代理 何 某	何某代理 何 某	何 某
家督ノ例	亡(又ハ隱居) 何 某	家督相續人 何 某	何 某
遺贈ノ例	亡 何 某	遺贈相續人 何 某	何 某
親權者ノ例	亡 何 某	受遺贈者 何 某	何 某
後見人ノ例	親權者 (又ハ後見人)解除者	何某親權者(後見人) 何 某	何 某
同解除ノ例	舊氏名 何 某	改氏名 何 某	何 某
改氏名ノ例	何銀行頭取 (專務取締役)何某	何會社社長 (專務取締役)何某印	何 某
會社ノ例	何會會長 又ハ理事何 某	何組合 右代表者何 某	何 某
共有ノ例	何裁判所 又ハ理事何 某	何 某	何 某
強行ノ例	執達吏何 某	何 某	何 某

【備考】 一、株式取扱規程

株式取扱規程

第一章 總則

第一條 株式ノ名義書換其他株券ニ關スル事項ハ總テ本規程ニ依リ之ヲ取
扱フモノトス

(別一二九)

記名式株式ニ對シ質權ヲ設定シタル場合ニ於テハ其質權ノ目的タル權利ハ株主ノ權利ナルヲ以テ商法ノ規定ニ依リ失權ノ通知アリタル爲メ株主タル權利喪失シタル以上ハ質權ノ目的タル權利消滅シタルモノナルヲ以テ質權モ亦之レニ因リ當然消滅スヘキモノトス

【判例】一二九

自己株式ノ擔保保管(大阪控訴院五、一一、二)

株式會社タル銀行カ他人ニ金員ヲ貸與スルニ當リ其ノ返還ヲ確保スル爲メ自己會社ノ株券ニ其ノ名義書寫ニ要スル白紙委任狀ヲ添ヘテ差出サシメ之レヲ保管シ右貸金ヲ

第二條 本規程ニ依リ戶籍謄本ヲ要スル場合ニ於テ其株主ノ在籍地カ戶籍

法ヲ施行セサルトキハ戶籍謄本ニ代ヘ本會社カ相當ト認ムル他ノ證據書

類ヲ添付スルコトヲ要ス

第三條 本規程ニ依ル保證人ハ本會社カ相當ト認ムル資格アル成年ノ戶主

ニ限ルモノトス而シテ本會社ニ於テ必要ト認メタルトキハ戶籍ノ抄本其

他資格ヲ證明スヘキ書類ノ提供ヲ求ムルコトアルヘシ

第四條 本會社カ株式名義書換ヲ株主名簿ニ登錄シタルトキハ株券ノ裏面

ニ專務取締役記名捺印シテ之ヲ證明スルモノトス

第二章 名義書換

第五條 讓渡ニ依ル株式名義ノ書換ハ書式六七ニ依リ雙方連署ノ書面及ヒ

讓受人ノ印鑑ニ添付シ之ヲ請求スヘシ

第六條 家督相續ニ依ル株式名義ノ書換ハ書式六九ニ依リ戶籍謄本及ヒ印

鑑ニ添付シ之ヲ請求スヘシ

但シ隱居又ハ入夫婚姻ニ依ル相續ノ場合ニハ隱居又ハ前女戶主ノ連署

ヲ要ス

第七條 遺産相續ニ依ル株式名義ノ書換ハ書式七〇ニ依リ保證人二名以上

第二章 株式會社・株式・株券

期限ニ至ルモ返済セサルコトヲ條件トシテ該株式ヲ第三者ニ讓渡シ其代金ヲ受取ルコトハ質權ノ取得ヲ目的トスルニアラサルカ故ニ商法第一五一條ニ違反スル無効ノ行爲ト謂フコトヲ得サルモノトス

【判例】一三〇

株式共有者ニ對スル規定

(大審院四四、一一、一六)

共有者ハ會社ニ對シ連帶シ株金拂込ノ義務ヲ負フコト商法第一四六條第二項ニ規定スル所ナリト雖モ共有者カ同條第一項ノ規定ニ從ヒ株主ノ權利ヲ行使スヘキ者ヲ定メ

(判一六)

ノ連署セル書面ヲ以テ戸籍謄本及ヒ印鑑二葉ヲ添付シ之ヲ請求スヘシ
第八條 遺贈ニ依ル株式名義ノ書換ハ書式六八ニ依リ保證人二名以上ノ連署セル書面ヲ以テ戸籍謄本及ヒ印鑑二葉ヲ添付シ之ヲ請求スヘシ

第九條 競賣其他ノ公賣處分ニ依ル株式名義ノ書換ハ書式六一ニ依リ裁判所ノ命令書謄本及ヒ買得者ノ印鑑二葉ヲ添付シ之ヲ請求スヘシ

第十條 株式名義書換ニ付キ代理人ヲ立ツル場合ハ書式六四、六五、六六ニ依リ委任狀ヲ差出スヘシ

第三章 姓名住所變更及ヒ印鑑届

第十一條 株主カ其姓名ヲ變更シタルトキハ書式八一ニ依リ戸籍謄本及ヒ印鑑二葉ヲ添付シ株主名義ノ變更ヲ請求スヘシ

第十二條 株主カ其住所ヲ變更シタルトキハ書式八一ニ準シテ之ヲ届出スヘシ

第十三條 始メテ株式ヲ取得シタル者ハ本會社所定ノ用紙ニ依リ印鑑二葉ヲ差出スヘシ

外國人ハ連署ヲ以テ印鑑ニ代用スルコトヲ得

第十四條 株主カ改印シタルトキハ書式四八、四九ニ準シテ新印鑑二葉ヲ

添付シ之ヲ届出スヘシ

但シ舊印章カ存在スルトキハ新舊兩印ヲ届書ニ押捺シ若シ舊印章ナキトキハ市區町村長ノ證明書ヲ添付スルヲ要ス

第四章 株券併合分割及再發行

第十五條 株券ノ併合又ハ分割ヲ求ムルモノハ書式七七ニ依リ株券ヲ添付シ之ヲ請求スヘシ

第十六條 株券ヲ毀損シタルニ依リ新株券交付ヲ求ムルモノハ書式七九ニ依リ株券ヲ添付シ之ヲ請求スヘシ

第十七條 株券ヲ喪失シタルニ因リ新株券ノ交付ヲ求ムルモノハ書式七八ニ依リ保證人連署ヲ以テ之ヲ請求スヘシ

第十八條 前條ノ場合ニ於テハ請求者ノ費用ヲ以テ本會社定款第何條ニ依リ公告ヲ爲シタル後何日ヲ經過スルモ尙第三者ヨリ故障ノ申立ナキトキハ新株券ヲ交付スヘシ

第十九條 喪失又ハ毀損シタル株券ノ代券ヲ受取ル場合ハ書式八〇ニ依リ受取書ヲ差出スヘシ

第五章 代表者

第二章 株式會社・株式・株券

サル場合ニ於テハ商法ニ何等ノ規定ナク商習慣モ亦存セサルヲ以テ商法第一條ニ依リ民法ヲ適用セサルヘカラス民法第四三四條ニ連帶債務者ノ一人ニ對スル履行ノ請求ハ他ノ債務者ニ對シテモ其效力ヲ生ストアリ故ニ商法第一五二條第一項第二項ノ催告ハ連帶債務者ノ一人ニ對シテ之レヲ爲ストキハ他ノ共有者ニ對シテモ其效力ヲ生スルコト寔ニ明カナリ

〔民法第四三四條〕連帶債務者ノ一人ニ對スル履行ノ請求ハ他ノ債務者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

【判例】一三三

株券ノ性質ト第二八二條

（大阪控訴院七、六、二九）

株券ハ株主權ヲ表彰スル有價證券ニシテ株主權ハ金錢其ノ他ノ給付ヲ目的トスル權利ニアラサルヲ以テ株券ニハ第二八二條ノ適用ナシ

（注意） 同趣旨大審院五、三、六

【判例】一三二

株主權ノ發生ト株券ノ交付

（東京控訴院四二、一一、

三〇）

株主權ナルモノハ株券ノ交付ニ因リテ生スルモノニアラスシテ反ツテ株主權發生ノ後ニ株券ノ交付アルヘキモノトス

（判一三一、一三二）

（判一三三、一三四）

【判例】一三三

株券ノ有價證券性ト強制執行（大審院八、六、二八）

株式ノ移轉ニハ必ス株券ノ移轉ヲ伴フモノナルニ依リ株券ハ縱令記名式ノ場合ト雖モ之レヲ一箇ノ有價證券ト認ムルヲ相當トス從ツテ株式ニ對スル強制執行ハ民事訴訟法第五六六條以下ノ規定ニ從ヒ執達吏之レヲ占有スルニ依リ爲スコトヲ要シ同法第五九四條以下ノ規定ニ依リ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ爲スヘキモノニアラス

【判例】一三四

不實ノ理由ニ因ル株券ノ再

第二十條 株式カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ書式七三ニ依リ株主ノ權利義務ヲ行フヘキモノ一人ヲ定メ印鑑二葉ヲ添ヘ豫メ届置クヘシ若シ代表者ニ變更アリタルトキハ書式七三其ニ依リ其旨届出スヘシ
第二十一條 法人所有ノ株式ハ書式七三ニ準シテ代表者ヲ定メ印鑑二葉ヲ添ヘ届置クヘキモノトス若シ代表者ニ變更アリタルトキハ書式七三其ニ準シ登記抄本ヲ添付シ其旨届出スヘシ
第二十二條 親權者又ハ後見人カ無能力者ヲ代表シテ株券名義書換ヲ請求スル場合ハ請求書ニ其旨ヲ明記シ且戶籍謄本及ヒ印鑑二葉ヲ添付スヘシ
第二十三條 株主カ株式取得後禁治產者トナリタルトキハ其後見人ハ書式七三ニ準シテ戶籍謄本及ヒ印鑑二葉ヲ添付シ之ヲ届出スヘシ
第二十四條 無能力者タル株主ノ親權者又ハ後見人カ變更シタル場合ニ於テハ書式七三其ニ準シテ後任者ヨリ戶籍謄本及印鑑二葉ヲ添付シ之ヲ届出スヘシ
第二十五條 未成年者タル株主カ成年ニ達シ若クハ禁治產者タル株主カ能力ヲ回復シタル場合ニ於テハ能力者トナリタル株主ハ書式七三ニ準シテ戶籍謄本及ヒ印鑑二葉ヲ添ヘ親權又ハ後見ノ終了ヲ届出スヘシ

第二十六條 株主ニシテ外國ニ住居スルモノハ日本國內ニ通知ヲ受クヘキ場所ヲ定メ届出ルコトヲ要ス其變更アリタルトキハ同シ

第六章 株券裏書ノ認メ方

第二十七條 讓渡其他ノ事由ニ依リ株券ノ名義書換又ノ更正ヲ請求スル場合ニ於テハ同時ニ備考一〇ニ依リ株券ニ裏書ヲ爲シ本會社取締役ノ證明ヲ請求スヘシ

第七章 株式ノ異動ニスル費用

第二十八條 株券喪失毀損其他株主他株主ノ請求ニ依ル公告料ハ其株主ノ負擔トシ實費ヲ計算シ當會社ニ豫約スヘシ

第二十九條 名義書換其他ノ手数料ハ左ノ通り請求ノ際差出スヘシ

- 一、名義書換株券一枚毎ニ金何錢
- 一、併合分割再發行

株券一枚ヲ作成スル毎ニ一枚ニ付金何錢

第三十條 株券郵送料ハ請求者ノ負擔トシ其實費ヲ豫納スヘシ

第三 株券ノ種類

第二章 株式會社・株式・株券

交付ト舊株式取得者ノ權利

（東京控訴院五、九、二二）

舊株券カ紛失シタルニ非スシテ反ツテ其正當ナル權利者ヨリ處分セラレ轉シタルモノナルニ拘ラス之レヲ紛失シタルモノトシ再交付ヲ受クルモ之レニ依リ從前株券ノ權利者即チ正當ナル株式取得者ノ權利ヲ奪フコト能ハサルハ勿論其再交付セラレタル株券モ正ニ株主權ヲ表彰スル具タルコトヲ得サルハ毫モ疑ヲ容レズ

【判例】一三五

株券處分ノ要件（大阪地方裁判所一〇、五、二一）

（判一三四、一三五）

〔一八四〕 株券ニハ記名式、無記名式及ヒ單式、複式ノ種類アリ

其一 記名式ト無記名式トノ株券

〔一八五〕 記名式株券トハ記名株式ヲ表示スルモノニシテ株主ノ氏名ヲ記入シタル一般ノ株券ヲ謂ヒ無記名式株券トハ無記名株式ヲ表示スルモノニシテ其氏名ノ記載ナキモノヲ謂フ但シ此無記名式株券ハ株金全額ノ拂込後ニアラサレハ之レヲ發行スルコトヲ得サルモノトス(一五五)是レニ反シタル取締役ハ過料ニ處セラルヘキモノトス(二六二ノ五)

〔一八六〕 株主ハ其全額ノ拂込後ハ會社ニ對シ何時ニテモ記名式ヲ無記名式ニ無記名式ヲ記名式ニ爲スコトヲ請求シ得ヘキモノトス(一五五)此無記名株券ハ法律上動産ト同一ノ取扱ヲ受クルヲ以テ無記名式株券ノ株主權ヲ行ハントスルトキハ其行使ニ必要ナル員數ノ株券ヲ會社ニ供託スルコトヲ要ス(一五五ノ二)

其二 單式ト複式トノ株券

〔一八七〕 一個ノ株式ヲ表示スル株券ヲ單式株券ト謂ヒ二個以上ノ株

式ヲ表示スル株式ヲ複式株券ト稱ス蓋シ株券ハ株式ヲ表示スル證券ナルカ故ニ株式ハ之レヲ併合シ得サルモ株券ハ之レヲ爲スコトヲ妨ケザレハナリ

【書式】 七六、記名併式ヲ無記名券式ニ變更請求書

記名株式ヲ無記名株式ニ變更請求書

一、何々株式會社株式何株 但シ一株ニ付キ拂込金額何圓何錢

内 譯

何株券 何 枚

何株券 何 枚

右ノ記名株式拙者ノ所有ニ候處既ニ株金金額拂込後ニ付キ無記名式ニ變更相成度定款第何條(又ハ商法第百五十五條)ニ依リ此段請求候也

何府何縣何市何町何番地

株主 何 某 〇

何々株式會社御中

【書式】 七七、株券併合(分割)請求書

第二章 株式會社・株式・株券

二九一

(判一三五)

株主ノ株券交付請求權ハ株主權ノ一ニシテ株主全員ノ同意ヲ以テスルモノ之レヲ奪フヘカラサルモノト解セサルヘカラス然ルニ若シ會社カ事實上株券ヲ作成スルモ未ダ株主ニ交付セサル以前ニ之レヲ差押ヘ以テ其處分ヲ許スヘキモノトスルトキハ株主ハ故ナク第三者ノ爲メニ株券交付請求權ヲ喪失スルノ結果ヲ生スルニ至ルヘク斯クノ如キハ固ヨリ法律ノ許ササル處ナリト謂ハサルヘカラサルヲ以テ株券カ有效處分ノ目的タルハ一旦會社ヨリ之レヲ株主若クハ其受領ノ權限アル者ニ交付スルコトヲ要シ其以前ニ於テハ未ダ株主權ヲ表彰ス

ル有效ナル株券ト稱スルヲ得サルモノトス

【判例】一三六

新株券發行前ノ株式流通ノ

效力(大審院九、四、五)

新株券ノ引受人カ新株式ノ發行セラル、以前ニ於テ第一回ノ株金拂込領收證ニ白紙委任狀ヲ添付スル時ハ白紙委任狀付記名株式ト同様ニ看做サレ輾轉流通シ得ル慣習取引所市場ニ存在シ其慣習ハ公ノ秩序善良ノ風俗ニ反シタルモノニアラサレハ有效ナリト謂ハサルヲ得ス故ニ其慣習ニ依レハ第一回株金拂込領收證ニ白紙委任狀ヲ添付ス

(判一三六)

一、何々株式會社何株 但シ一株ニ付キ拂込額金何圓何錢

内譯

何株券 何 枚

何株券 何 枚

右株券都合有之候ニ付キ何株券何枚何株券何枚ニ併合(分割)相成度株券相添へ此段及請求候也

何市何區何町何番地

年月日

株主 何 某 ㊦

何々株式會社御中

【書式】七八、株券喪失ニ付キ新株券交付請求書

一、何々株式會社何株 但シ一株ニ付キ拂込額金何圓何錢

内譯

何株券 何 枚

何株券 何 枚

右ハ大正何年何月何日喪失候ニ付キ相當手續ノ上新株券交付相成度尤モ後

(判一三七)

ルトキハ民法第三六三條ニ依リ證書ノ交付ヲ以テ質權ヲ設定シ且ツ之レヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘク同法第三六四條第一項ノ規定ニ徒フコトヲ要セサルモノトス

〔民法第三六三條〕 債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲ス場合ニ於テ其債權ノ證書アルトキハ質權ノ設定ハ其證書ノ交付ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

【判例】一三七

株券發行前ノ株式讓受ノ對抗要仲(大審院四、六、一八)

株券發行前ノ株式ノ移轉ハ指名債權ニ關スル民法第四六七條ノ規定ニ適用スヘキモノニシテ同條所定

日發見ノ時ハ直ニ貴會社へ送還可致ハ勿論他ヨリ如何様ノ故障相起リ候共拙者及ヒ保證人ニ於テ引受ケ貴會社へ損害相掛ケ申問數候依而保證人連署此段及請求候

何市何區何町何番地

年月日

株主 何 某 ㊦

何市何町何番地

保證人 何 某 ㊦

何縣何郡何村何番地

保證人 何 某 ㊦

何々株式會社御中

【書式】七九、株券毀損ニ付キ新株券交付請求書

一、何々株式會社株式何株 但シ一株ニ付キ拂込額金何圓何錢

内譯

何株券 何 枚

何株券 何 枚

第二章 株式會社・株式・株券

ノ條件ヲ充スニアラサレハ之レヲ會社其他ノ第三者ニ對抗スルヲ得サルモノトス

〔民法第四六七條〕 指名債權ノ讓渡人カ之レヲ債務者ニ通知シ又ハ債務者カ之レヲ承諾スルニアラサレハ之レヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス前項ノ通信又ハ承諾ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニアラサレハ之レヲ以テ債務者以外ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

【參考】一五

株券發行前ノ株式ノ讓渡

(松本丞治著「商法判例批

(參一五)

右株券毀損致候間新株券ト引換相成度株券相添へ此段及請求候也

何市何區何町何丁目何番地

年月日

何 某 ㊦

何々株式會社御中

【書式】 八〇、株券再交付受取證

一、何々株式會社株式何株 但シ一株ニ付キ拂込額金何圓何錢

内 譯

何株券 何 枚

何株券 何 枚

右ハ大正何年何月何日附ヲ以テ請求致候喪失毀損株券ノ代券トシテ再交付相成正ニ受取候也

何市何區何町何番地

年月日

株主 何 某 ㊦

何々株式會社御中

【書式】 八一、改姓(名)ニ付キ株式名義變更請求書

名義變更請求書

一、何々株式會社株式何株 但シ一株ニ付キ拂込額金何圓何錢

内 譯

何株券 何 枚

何株券 何 枚

右株券何某名義ヲ以テ所有致來候處今般何某ト改姓(名)候ニ付キ名義變更相成度戸籍謄本及ヒ印鑑二葉相添へ此段及請求候也

何市何區何町何番地

年月日

何 某 ㊦

何々株式會社御中

【書式】 八二、株券紛失其他ニ關スル公告

株券遺失公告 (其一)

一、何々株式會社 何株券何枚第何號

何圓拂込 何 某 名 義

右株券遺失ノ旨届出有之候ニ付キ今後三十日間ニ發見セサル時ハ無効トス

年月日

何々株式會社

株券盜難公告 (其二)

第二章 株式會社・株式・株券

(判一三八)

評錄)

我商法カ株券ヲ發行セサル株式會社ヲ認メサルト同時ニ記名株式ノ讓渡ニ以テ第三者ニ對抗スル條件ヲ第一五〇條ニ定メ且株券ノ發行ヲ株主名簿作成ノ前提條件トスルニ依リテ之レ觀レハ株券發行前ノ株式ノ讓渡ハ先ツ株券ノ發行ヲ求メテ後第一五〇條所定ノ條件ヲ履踐スルニアラサレハ之レヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノト解釋スルヲ妥當トスヘシ

【判例】一三八

權利株ノ賣買ト代金ノ返

還請求(東京控訴院一三、

三、二四)

所謂權利株ノ賣買ハ商法第一四九號但書ニ違反シ交付シタ代金即チ無効原因ニ基キ給付シタル代金ハ返還ヲ請求シ得ヘキモノトス

【例】一三九

白紙委任狀附記名株券ト

動産(東京控訴院一三、

三、九)

記名株券ニ白紙委任狀ヲ附シテ之ヲ他人ニ交付シタル場合ト雖モ之レカ爲メ該株券カ民法ニ所謂動産ト看做サルル無記名債權ト爲ルモノニアラス從ツテ直ニ民法第一九〇二條ノ適用上其所有權ヲ取得スルコトヲ得ス然レトモ記名株式ノ

(判一三九)

一、當行第何新株券 何株何枚 何 某 名 義
右大正何年何月何日盜難ニ罹リタル旨届出タルニ付キ本公告ノ日ヨリ一ヶ月ヲ經テ發見セサルトキハ無効トス

年 月 日

株式會社 何々銀行

【備考】 一二、假處分手續ト株式失權停止假處分ノ實例

假處分ノ手續ニハ係争物ニ關スル假處分ト係争ノ權利關係ニ關スル假處分トノ二種アリ換言スレハ一ハ係争物ノ假處分ニシテ一ハ假ノ地位ヲ設定スル假處分トス(民訴七五五、七六〇)係争物ノ假處分トハ現狀ノ變更ヲ豫防スルヲ以テ目的トシ假ノ地位ヲ設定スル假處分トハ現狀ノ變更ヲ以テ目的トスルモノナリ係争物ノ假處分ニハ(1)金錢ノ支拂ニアラサル或ル給付ヲ目的トスル請求ニシテ係争物ニ關スル請求ナルコト(2)假處分ヲ必要トスル理由アルコト(3)直ニ強制執行ヲ爲シ得ヘキ債務名義ノ存セサルコトヲ要シ假ノ地位ヲ設定スル假處分ニハ(1)係争權利關係ニ關スルコト(2)假處分ヲ必要トスル理由アルコトヲ要ス株式失權停止假處分命令申請書式左ノ如シ

假處分命令申請

何市何區何町何番地

申請人 何

某

何市何區何町何番地

被申請人 何某株式會社

右法律上代理人取締役

何 某

株式失權手續停止假處分命令申請事件

申請ノ趣旨

被申請人カ申請人ニ對シ大正何年何月何日附ヲ以テ爲シタル株式拂込催告及ヒ失權豫告通知ノ效力ハ一時之レヲ停止ス尙ホ被申請人ハ申請人ニ對シ右拂込ミニ關スル本件判決確定ニ至ルマテ凡テノ法律手續ヲ爲スヘカラストノ御判決ヲ求ム

申請ノ理由

一、被申請人ハ資本金何百萬圓株金何圓總株式數何株ノ商事會社ニシテ申請人ハ同會社ノ株主ナル處被申請人ハ大正何年何月何日附ヲ以テ申請人ニ對シ第何回拂込金一株ニ付キ金何圓宛ヲ大正何年何月何日マテニ拂込ムヘク拂込マサルトキハ株主タル權利ヲ喪失スヘキ旨ノ催告並ニ豫告ヲ爲シタルヲ以テ申請人カ本日限リ拂込ヲ爲ササルトキハ株主タル權利ヲ失フコトトナルモノナリ

所有者カ株式名義書替ニ必要ナル白紙委任狀ヲ株券ニ添付シテ之ヲ他人ニ交付シタルトキハ爾後善意無過失ニテ斯ル株券ヲ取得シタル第三者ハ當初ノ交付行爲カ瑕疵アル法律行爲ニ基クモノナルト否トニ關セス完全ニ之レカ所有權ヲ取得スヘキ商習慣ノ存スルコトハ顯著ナル事實ナリトス

【參考】一六

支那ニ本店ヲ設クル會社ノ

資本ニ關スル件(大正一二

年三月法律第三七號)

支那ニ於テ營業ヲ爲スヲ主タル目的トスル會社カ本店ヲ支那ニ設クルトキハ支那ニ流通スル銀貨幣ヲ以テ資本ノ額ヲ定ムルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ資本金ノ額ヲ定ムル會社カ株式會社又ハ株式合資會社ナルトキハ株式ノ額ハ海關兩二十五兩ニ相當スル額ヲ下ルコトヲ得ス但シ一時ニ株式ノ全額ヲ拂込ムヘキ場合ニ限り海關兩十兩ニ相當スルマテニ之ヲ下スコトヲ得

一、然ルニ被申請人ハ大正何年何月何日創立以來第一期ニ於テ何割ノ配當ヲ爲シタルモ時局ノ關係ニヨリ休業シ爾後今日マテ休業セルモノナルカ大正何年何月何日何某ナル者(目下刑ノ執行猶豫中又ハ何々)同會社ノ悲境ニ乘シ過半数ノ株式ヲ買收シ其實權ヲ握リ自己ノ親族及ヒ一味ノ輩ヲ取締役ニ選任シテ會社ニ現存シタル金何圓ノ現金ヲ種々ノ名目ヲ以テ消費シ會社ヲシテ殆ント無資産ノ状態ニ陥ラシメ株主ノ非難起ラントスルヲ見テ目下財界不況ニシテ且ツ休業中ニシテ資金ノ必要ナキニ拘ハラズ右ノ拂込ヲ強要セルハ是レ實ニ自己及ヒ其一味以外ノ株主ヲ悉ク尖權セシメ引續キ會社ヲ解散シ以テ自己ノ非ヲ蔽ハントスル手段ニ外ナラス

一、依テ申請人ハ本日御廳へ被申請會社ノ検査役選任ノ申請ヲ爲シ以テ同會社ノ現狀ヲ闡明シ株金拂込ノ必要ナキ事實ヲ明カニセント欲スルモ前述ノ如ク本日ヲ過クルトキハ申請人ハ株主タル權利ヲ失ヒ検査役選任申請ハ其效ナキニ至ルヘキヲ以テ茲ニ本申請ニ及ヒタリ

右申請候也

年 月 日

右申請人

何

某

某地方裁判所長 判事 何 某 殿

(注意) 最モ急迫ナル場合ハ切手ヲ納付シ速達便ニ依リ郵便送達ヲ求ムルヲ便トス

第七節 株式會社ノ機關

〔一八八〕 株式會社ハ多數者ノ財的團體ナルヲ以テ其機關ハ少數者ノ人的團結タル合名、合資會社ノ如ク簡單タルコトヲ得ス即チ會社ノ意思ヲ決定スル機關トシテ株主總會アリ會社ノ業務ノ執行機關トシテ取締役アリ取締役ノ監督機關トシテ監査役アリ之レカ臨時的機關トシテ検査役アリ蓋シ株主總會ハ恰モ國家ニ於ケル立法機關ノ如ク取締役ハ行政機關ノ如ク監査役ハ會計検査院ニ似タリ而シテ此立法機關タル株主總會ハ社團タル會社ノ最高機關ニシテ取締役及ヒ監査役ヲ指揮監督スルモノタルハ勿論トス

第一款 株主總會

〔一八九〕 株式會社ハ社團ナルヲ以テ社員タル株主ノ意思ヲ尊重シ總株主ノ意思ノ一致タルニ近キ多數決ノ原則ニ從ヒ會社ノ意思ヲ決定スルコトヲ要ス株主總會ハ實ニ此意思ノ決定ヲ爲ス唯一ニシテ且ツ最高

第三節 會社ノ機關

第一款 株主總會

第一百五十六條 總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ二週間前ニ各株主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス(一五七、一五九、一六〇、一七四、一八二、一九八ノ二項、二〇九ノ二項、二一三、二三四、一七二ノ二、一六三)

前項ノ通知ニハ會議ノ目的タル事項ヲ記載スルコトヲ要ス(一一、一六四、一六七、一七五、一八七ノ一項、一九二、一九九、二〇八、二一四、二二〇、二二一ノ二號、二二二、一三一ノ三項、民六二)

會社カ無記名式ノ株券ヲ發行シタル場合ニ於テハ會日ヨリ三週間前ニ總會ヲ開クヘキ旨及ヒ前項ニ掲ケタル事項ヲ公告スルコ

ノ機關ニ外ナラス

第一 株主總會ノ意義

〔一九〇〕 株主總會トハ總株主ノ一致の意思ヲ直接ニ表示シ以テ會社ノ意思ヲ決定スル唯一ニシテ且ツ最高ナル會社ノ機關ヲ稱ス蓋シ取締役及ヒ監査役モ亦會社ノ意思ヲ決定シ之レヲ表示スルコトアリト雖モ株主ノ直接ナル意思表示ニアラス加之取締役又ハ監査役ノ選任及ヒ解任ハ勿論其他重要ナル事項ハ一トシテ株主總會ノ決定ニ俟タサルモノナシ（一二二、一六四、一六七、一七五、一八七、一九九、一九九、二〇八、二〇九、二一四、二二〇、二二一、二二二）但シ其決議事項ハ法令又ハ定款ノ規定ニ違反スルヲ得サルハ勿論會社ノ目的ノ範圍内タルコトヲ要ス而シテ株主カ會社ノ事業ニ參與シ其意思ヲ表示スルニハ株主總會ヲ以テ唯一ノ方法ト爲スモノニシテ縱令總株主ノ同意書ヲ蒐集スルト雖モ其意思表示ハ法律上何等ノ效力アルモノニアラス

第二 株主總會ノ種類

〔一九一〕 株主總會ハ其招集ノ時期ノ如何ニ因リテ之レヲ定時及ヒ臨時總會ノ二種ニ區分スルモノトス但シ例外トシテ優先株式ヲ發行セル場合ニ限り優先株主ノ意思ヲ表示スル機關タル優先株主總會ナルモノアリ（一一二）

其一 定時總會

〔一九二〕 定時總會ハ取締役ニ於テ法律及ヒ定款ノ規定ニ從ヒ一定ノ時期ニ之レヲ招集スルモノニシテ少ナクモ毎年一回一定ノ時期ニ招集スルコトヲ要スルモノトス而シテ年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ハ毎配當期ニ之レヲ招集セサルヘカラス（一五七、二七、一九〇乃至一九三、二三四）定時總會ハ會社ノ計算ノ審議及ヒ其承認竝ニ其利益配當ヲ決議スルヲ以テ主要目的トスルト雖モ其他ノ事項ヲ決議スルモ亦不可ナラス但シ取締役ハ會社ノ計算書類ニ關スル監査役ノ調査報告書ヲ提出スルコトヲ要スルモノトス

其二 臨時總會

〔一九三〕 臨時總會ハ臨時ノ必要アル場合ニ於テ取締役監査役又ハ清

第二章 株式會社・株主總會・總會ノ種類 三〇一

（一五七、一九〇、一九三）

トヲ要ス（一五五、一六一ノ二項
一二〇ノ七號、二六二ノ二ノ三號）
第五百七條 定時總會ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ取締役之ヲ招集スルコトヲ要ス（一九〇乃至一九三）

年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ毎配當期ニ總會ヲ招集スルコトヲ要ス（二七）

第五百五十八條 削除

第五百十九條 臨時總會ハ必要アル毎ニ取締役之ヲ招集ス（一七四ノ一項、二三〇、二三四）

第六十條 資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ハ會議ノ目的タル事項及ヒ其招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得
取締役カ前項ノ請求アリタル後二週間内ニ總會招集ノ手續ヲ爲

ササルトキハ其請求ヲ爲シタル株主ハ裁判所ノ許可ヲ得テ其招集ヲ爲スコトヲ得（非訟一二六ノ一項、一三一、一三二）

第六十條ノ二 總會ハ取締役ノ提出シタル書類及ヒ監査役ノ報告書ヲ調査セシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得（一五七、一五九、二三四、一九八ノ一項、二六二ノ三號）

第六十一條 總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外出席シタル株主ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス（一二一ノ二項、一九九、二〇九、二二二、一六二、一四六、一六三）

無記名式ノ株券ヲ有スル者ハ會日ヨリ一週間前ニ其株券ヲ會社ニ供託スルコトヲ要ス（一五五、一五五ノ二、一七二ノ五號、二〇一六）

算人及ヒ裁判所ノ許可ヲ得タル株主カ之レヲ招集スルモノニシテ取締
役及ヒ監査役ニ於テ之レヲ爲スヲ以テ通例トス(一四七、一五九、一六〇、
一七四ノ一項、一九八、二一三、二二七、二三〇、二八二)

〔一九四〕 株主カ臨時總會ヲ招集スルニハ所謂少數株主權者タル資本
ノ十分ノ一以上ニ當ル株主カ總會ノ目的及ヒ其招集ノ理由ヲ記載シタ
ル書面ヲ取締役ニ提出シテ之レヲ請求スルモ其取締役カ二週間内ニ之
レヲ爲ササルトキニ於テ其株主カ裁判所ノ許可ヲ得テ之レヲ爲ス場合
ヲ謂フ(一六〇、二三四) 此少數株主權者カ裁判所ノ許可ヲ受クヘキ手續
ハ非訴事件手續法ニ據リ會社本店ノ所在地タル地方裁判所ニ申請スヘ
キモノトス(非訴一二六、一三一、一三二)

【書式】 八三、株主總會招集請求書

株主總會招集請求

一、總會ノ目的

當會社ノ定款第何條ヲ改正シ資本金ヲ何圓ニ増加スルコトヲ決議スルコ
ト(又ハ何々)

二、總會招集ノ理由

當會社ノ資本總額ハ定款第何條ニ依リ金何圓ナル處現時事業ノ狀況ヲ見
ルニ何々ニ依リ資本ヲ金何圓ニ増加シ以テ一層事業ヲ擴張スルノ必要ア
リト信スルヲ以テ右定款第何條ヲ改正シテ資本ヲ増加スルノ決議ヲ爲シ
株主總會ヲ招集スルノ必要アリトス

前記ノ目的及ヒ招集ノ理由ニ因リ總會招集ノ必要有之定款第何條(又ハ商
法第六十條)ニ依リ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主タル下名等ニ於テ
及請求候條速ニ總會招集相成度此段請求候也

年 月 日

何府何縣何市何町何番地

何々株式會社何株何々主

何府何縣何市何町何番地

同 何株々主

何 何

(以下列記)

何々株式會社 取締役 何 某 殿

第二章 株式會社・株主總會・總會ノ種類

(一六二、一六三)

九ノ一項但書)

株主ハ代理人ヲ以テ其議決權ヲ
行フコトヲ得但其代理人ハ代理
權ヲ證スル書面ヲ會社ニ差出タ
スコトヲ要ス(勸銀法一二、朝
銀法一五、台銀法一七、民六五ノ
二項)

總會ノ決議ニ付キ特別ノ利害關
係ヲ有スル者ハ其議決權ヲ行フ
コトヲ得ス(一五一ノ三項、民六
六)

第六十二條 各株主ハ一株ニ付
キ一箇ノ議決權ヲ有ス但十一株
以上ヲ有スル株主ノ議決權ハ定
款ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得
(商施六一、二三一ノ三項)

第六十三條 總會招集ノ手續又
ハ其決議ノ方法カ法令又ハ定款
ニ反スルトキハ株主、取締役又
ハ監査役ハ訴ヲ以テノミ其決議

ノ無効ヲ主張スルコトヲ得

株主ハ總會ニ於テ決議ニ對シ異
議ヲ述ヘタルトキ又ハ正當ノ理
由ナクシテ總會ニ出席スルコト
ヲ拒マレタルトキニ限リ又株主
カ總會ニ出席セサル場合ニ於テ
ハ自己ニ對スル總會招集ノ手續
カ法令又ハ定款ニ反スルコトヲ
理由トスルトキニ限リ前項ノ訴
ヲ提起スルコトヲ得第九十九條
ノ三及ヒ第九十九條ノ四ノ規定
ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス一
三一ノ三項、二三四、一五六、一
六一、一六三ノ二乃至一六三ノ
四、商施六二)

第六十三條ノ二 決議無効ノ訴
ハ決議ノ日ヨリ一ヶ月内ニ之ヲ
提起スルコトヲ要ス

口頭辯論ハ前項ノ期間ヲ經過シ
タル後ニ非サレハ之ヲ開始スル

【書式】 八四、株主總會招集許可申請書

株主總會招集許可申請書

何府縣何市何町何番地

何々株式會社何株所有株主

何府縣何市何町何番地族稱職業

申請人 何 某

(以下申請株主列記)

何府縣何市何區何町何番地 某

右申請代理人 何 某

何府縣何市何區何町何番地

事件本人 何々株式會社

何府縣何市何區何町何番地

右法定理人取締役 何 某

申請ノ原因タル事實

右何々株式會社ノ資本總額ハ定款第何條ニ依リ金何萬圓其一株ノ金額何圓株數何株ナル處現時事業ノ狀況ヲ見ルニ何々ニ因リ資本何萬圓ヲ増加シ以

(一六四)

コトヲ得ス訴ノ提起及ヒ口頭辯論ノ期日ハ取締役遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス(一三一ノ三項、二三四、二三二ノ二項)

第百六十三條ノ三 株主カ決議無効ノ訴ヲ提起シタルトキハ會社ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス但其株主カ取締役又ハ監査役ナルトキハ此限ニ在ラス(一三一ノ三項、二三四、民訴九〇ノ二項)

第百六十三條ノ四 決議シタル事項ノ登記アリタル場合ニ於テ其決議ニ無効トスル判決カ確定シタルトキハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス(一三一ノ三項、二三四、商登扱四五ノ五)

第二款 取締役

第百六十四條 取締役ハ株主總會

テ一層事業ヲ擴張スルノ必要アリト信スルヲ以テ右定款第何條ヲ改正シ以テ資本ヲ増加スルノ決議ヲ爲ス爲メ(又ハ何々)資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主タル申請人等ハ何年何月何日商法第百六十條第一項ノ規定ニ依リ總會ノ目的及ヒ其招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ同會社取締役何某、何某ニ提出シ總會ノ招集ヲ請求シタルニ爾後二週間(又ハ二週間以上タル何日)ヲ經過スルモ右取締役ハ總會招集ノ手續ヲ爲サス而モ右總會招集ノ請求書ハ別紙證據ノ如ク取締役ノ手ニ領收セラレ而シテ取締役ハ旅行其他總會ノ招集ヲ爲スコトヲ得サル己ムヲ得サル正當ノ事由アルニ非ラス全ク其招集ヲ怠リシモノニシテ其實明白ナルヲ以テ商法第百六十條第二項非訟事件手續法第百二十六條及ヒ第三百三十一條ニ依リ茲ニ申請ヲ爲ス次第ニ有之候

申請ノ趣旨

別紙總會ノ目的及ヒ總會招集ノ理由ノ爲メ申請人等ニ於テ株主總會ヲ招集スルノ許可相度候也

附屬書類

一、何々株式會社登記簿謄本

一通

一、取締役ニ對シ總會ノ招集ヲ請求シタル書面一通

第二章 株式會社・株主總會ノ種類

三〇五

ニ於テ株主中ヨリ之ヲ選任ス(一二〇ノ五號、一二三、一三三、一八四、一八九、民一〇二、商施六四)會社ト取締役トノ間ノ關係ハ委任ニ關スル規定ニ從フ(二三四、民六四以下)

第百六十五條 取締役ハ三人以上タルコトヲ要ス(一六七ノ二、一八四ノ一項但書)

第百六十六條 取締役ノ任期ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス但定款ヲ以テ任期中ノ最終ノ配當期ニ關スル定時總會ノ終決ニ至ルマテ其任期ヲ伸長スルコトヲ妨ケス(一六七但書、一八〇、一八九)

第百六十七條 取締役ハ何時ニデモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得但任期ノ定アル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其任期中ニ之ヲ解任シタルトキ(一六五、一六六、一六七)

一、株主名簿抄本

一通

一、何々

一、委任狀

一通

年月日

右申請代理人 何 某

何地方裁判所長判事 何 某 殿

第三 株主總會ノ招集

〔一九五〕 株主總會ハ取締役之レヲ招集スルヲ以テ原則トシ一定ノ形式ニ因リ之レヲ爲スヘキモノトス即チ株主總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ二週間前ニ各株主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス(一五六、一五七、一五九、一六〇、一七二ノ二、一七四、一八二、一九八ノ二項、二〇九ノ二項、二一三、二三四)而シテ此通知書ニハ會議ノ目的タル事項即チ總會ニ於テ決議スヘキ事項ノ何タルヤヲ知ルニ足ル程度ノ記載ヲ爲スコトヲ要シ且ツ其通知ハ株主名簿ニ記載シタル株主ノ住所又ハ其者カ

(一六八、一六九)

ハ其取締役ハ會社ニ對シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得(一八九、民六五一ノ一項)

第六十七條ノ二 取締役ノ任務カ終了シタル場合ニ於テ法律又ハ定款ニ定メタル員數ノ取締役ナキニ至リタルトキハ退任シタル取締役ハ破産及ヒ禁治産ノ場合ヲ除ク外新ニ選任セラレタル取締役カ就職スルマテ仍ホ取締役ノ權利義務ヲ有ス(一六五、一八九、二三四)

第六十八條 取締役ハ定款ニ定メタル員數ノ株券ヲ監査ニ供託スルコトヲ要ス(一二〇ノ五號、商施六五)

第六十九條 會社ノ業務執行ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ取締役ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス支配

會社ニ通知シタル住所ニ宛ツヘキモノトス(一二一、一三一ノ三項、一六三、一六四、一六七、一七二ノ二、一七五、一八七ノ一項、一九二、一九九、二〇八、二一四、二二〇、二二一ノ二號、二二二、二六二ノ二項)

〔一九六〕 又會社カ無記名式ノ株券ヲ發行シタル場合ニ於テハ會日ヨリ三週間前ニ株主總會ヲ開クヘキ旨及ヒ會議ノ目的タル事項ヲ公告スルコトヲ要ス(一五六ノ三項、一五五、一六一ノ二項、二二〇ノ七號、二六二ノ二ノ二號)但シ此公告ハ定款ニ於テ規定シタル方法ニ據ルヘキモノトス〔一九七〕 株主總會招集ノ此手續ニ違法アル場合ハ其決議力無効トナルヘキ原因ヲ生スルモノトス(一六三)

〔一九八〕 會議ノ時日及ヒ場所ニ就テハ法律ニ規定ナシ定時總會ト雖モ毎年同月同日ニ招集スルコトヲ要セス略ホ同一時期ナレハ可トス而シテ場所ハ定款ニ別段ノ規定ナキ限り何處ニ開クトモ亦妨ケスト雖モ本店ノ所在地ニ於テ之レヲ開クヲ以テ妥當トス然レトモ株主議決權ノ行使ヲ妨クル目的ヲ以テ特ニ不便ナル時刻又ハ場所ヲ選ムカ如キハ決議無効ノ原因タルヘキモノトス

人ノ選任及ヒ解任亦同シ(一七〇ノ一項、一六四ノ一項、一六七、一八四ノ一項、民五四、五七)

第七十條 定款又ハ株主總會ノ決議ヲ以テ取締役中會社ヲ代表スヘキ者ヲ定メス又ハ數人ノ取締役カ共同シ若クハ取締役カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メサルトキハ取締役ハ各自會社ヲ代表ス(一四一ノ一項八號、九六一ノ二、一〇五)第三十條ノ二第二項及ヒ第六十二條ノ規定ハ取締役ニ之ヲ準用ス

第七十一條 取締役ハ定款及ヒ總會ノ決議録ヲ本店及ヒ支店ニ備ヘ置キ且株主名簿及ヒ社債原簿ヲ本店ニ備ヘ置クコトヲ要ス(一二〇、一二二、一三一、一五七一五九、一七二、一七三、二三四、一七〇、一七一)

【書式】 八五、株主總會通知書

拜啓陳者來ル何月何日午前（後）何時ヨリ何市何區何町何番地某所ニ於テ本社第何回定時（又ハ臨時）株主總會開會候間御出席被下度此段御通知申上候
 追テ代理人ハ株主ニ限リ候間御承知被成下度別紙委任狀ニ豫テ御提出ノ
 印鑑ト同一ノ印章ヲ以テ記名捺印ノ上前日迄ニ本社へ御送附願上候尙ホ
 代理人氏名御記入無之候ハ、當方ニ於テ便宜取計ヒ可申ニ付キ此段申添
 へ候

年月日

何々株式會社取締役

社長 何

某

株主 何某 殿

株主總會々議目的事項

- 一、營業報告書承認ノ件
- 二、貸借對照表承認ノ件
- 三、財産目錄承認ノ件
- 四、損益計算書并ニ利益處分案承認ノ件

五、何々ノ件

以上

第四 株主總會ノ議事

〔一九九〕 株主總會ニ於テ決議スルコトヲ得ヘキ議事ノ範圍ハ招集ノ通知又ハ公告中ニ記載セラレタル事項ニ限ルモノニシテ其法定事項タルト任意事項タルトヲ問ハサルモノトス但シ既定ノ決議事項ノ範圍内ニ於テ其内容ヲ變更スルハ妨ケス

〔二〇〇〕 議事ノ方式ニ關シテハ法律ニ於テ何等ノ規定ナキヲ以テ定款又ハ總會決議ノ定ル所ニ依リ行フノ外ナクタ、其議事決議録ヲ作成シ之レヲ本店及ヒ支店ノ所在地ニ備ヘ付ケ株主及ヒ會社債權者ノ閱覽ニ供スルコトヲ要スルニ過キササルモノトス（一七一）其取締役力正當ノ理由ナクシテ之レカ閱覽ヲ妨ケ又ハ之レヲ備ヘ置カス記載スヘキ事項ヲ記載セス若クハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ過料ニ處セラルヘキモノトス（二六二ノ二ノ三號九號）

（一七二）

二六二ノ二ノ九號）
 株主及ヒ會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテモ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得ニ（二六二ノ二ノ三號）

第七十二條 株主名簿ニハ左ノ

- 事項ヲ記載スルコトヲ要ス（一五〇、一五四、二六二ノ二ノ九號）
 - 一 株主ノ氏名、住所
 - 二 各株主ノ株式ノ數及ヒ株券ノ番號
 - 三 各株ニ付キ拂込ミタル株金額及ヒ拂込ノ年月日（商施六六）
 - 四 各株式ノ取得ノ年月日
 - 五 無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其數番號及ヒ發行ノ年月日（一五五）
- 第七十二條ノ二 會社ノ株主ニ對スル通知又ハ催告ハ株主名簿ニ記載シタル株主ノ住所又ハ其

者カ會社ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル（二六二ノ二、二〇七ノ二、一五二、一五三、一五六、二〇九、二二〇ノ二、二二二）

前項ノ通知又ハ催告ハ通常其到達スヘカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス（民九七）

第七十三條 社債原簿ニハ左ノ

- 事項ヲ記載スルコトヲ要ス（一九九以下、二六二ノ二ノ九號、商施六七、六九、七九乃至八一）擔保附社債信託法四〇）
- 一 社債權者ノ氏名、住所
- 二 債券ノ番號（二〇三ノ二項二號、二〇五ノ二項）
- 三 社債ノ總額（二〇三ノ二項二號、二〇四ノ三ノ一項二號、二〇五ノ二項）
- 四 各社債ノ金額（二〇三ノ二項二號）

【書式】 八六、株主總會決議錄 (書式四三)

第五 株主ノ議決權

【二〇一】 株主カ株主總會ニ出席シ決議ニ參與シ表決ヲ爲シ議案其他ニ關シテ意見ヲ述ヘ提案ヲ爲シ不法ノ決議ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ル權利ヲ議決權ト稱ス而シテ株主ハ總會ニ於テ一株ニ付キ一箇ノ議決權ヲ有スルヲ以テ原則トス(一六二) 故ニ百株ヲ有スル株主ハ百箇ノ議決權ヲ有スルモノトス然レトモ法律ハ大株主專横ノ弊ヲ防ク目的ヲ以テ特ニ十一株以上ヲ有スル株主ノ議決權ニ對シ定款ヲ以テ之レヲ制限スルコトヲ許セリ(一六二但書、一三一ノ三項、商施六一) 但シ議決權ハ奪フヘカラサル株主ノ權利ナルヲ以テ十一株以上株主ノ議決權ハ之レヲ制限シ得ルモ議決權ナキ株式アルコトヲ認メサルモノトス

【二〇二】 議決權ノ行使ハ株主ノ任意ニシテ之レヲ代理人ニ因リテ行フモ亦妨ケサルモノトス代理人カ代理權ヲ行フニハ其代理權ヲ證スル書面ヲ會社ニ差出スコトヲ要ス(一六一ノ三項)

其一 議決權行使ノ制限

【二〇三】 議決權ハ株主ノ權利ナリト雖モ其行使ニ就キテハ左ノ制限アリ

(一) 無記名式ノ株券ヲ有スル株主ハ會日ヨリ一週間前ニ其株券ヲ會社ニ供託スルニアラサレハ其議決權ヲ行使スルコトヲ得サルモノトス(一六一ノ二項)

(二) 總會ノ決議ニ就キ特別ノ利害關係ヲ有スル株主ハ其議決權ヲ行使スルコトヲ得サルモノトス(一六一ノ四項) 其利害關係トハ事實上ノ問題ニシテ或ル特殊ノ株主ノ權利義務ニ影響ヲ及ホスヘキ決議ヲ爲スニ當リ其特殊ノ株主ハ其所謂利害關係者ニ外ナラス例ヘハ貸借照表ヲ承認スルヤ否ヤヲ決議スルニ當リテハ取締役又ハ監査役ハ其所謂特別ノ利害關係ヲ有スル株主タルヤ勿論トス

【書式】 八七、株主總會代理出席委任狀 (書式三九)

第六 株主總會ノ決議

第二章 株式會社・株主總會・總會ノ決議

(一七四)

- 項二號、二〇四ノ三ノ一項二號、二〇五ノ二項)
 - 五 社債ノ利率(二〇三ノ二項二號、二〇四ノ三ノ一項二號、二〇五ノ二項)
 - 六 社債償還ノ方法及ヒ期限(二〇二、二〇三ノ二項二號、二〇五ノ二項)
 - 七 數回ニ分チテ社債ノ拂込ヲ爲サシムルトキハ其拂込ノ金額及ヒ時期(二〇三ノ二項二號)
 - 八 各社債ニ付キ拂込ミタル金額及ヒ拂込ノ年月日
 - 九 債券發行ノ年月日
 - 十 各社債ノ取得ノ年月日
 - 十一 無記名式ノ債券ヲ發行シタルトキハ其數番號及ヒ發行ノ年月日(二〇七)
- 第七十四條 會社カ其資本ノ半

額ヲ失ヒタルトキハ取締役ハ選帶ナク株主總會ヲ招集シテ之ヲ報告スルコトヲ要ス(二六二ノ一號、二六二ノ二ノ一〇號、商施六八、六九)

會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ取締役ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス(六三二六二ノ六號)

第七十五條 取締役ハ株主總會ノ認許アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス(一八四ノ一項但書、三二、三八、六〇、一〇五、商施七)

取締役カ前項ノ規定ニ反シテ自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタルト

(一七五)

〔二〇四〕 株主總會ノ決議ハ其方法ノ如何ニ依リテ普通決議及ヒ特別決議ノ二種ニ區別ス而シテ株主總會ハ一般ニ通常決議ニ依ルモノトス

其一 普通決議

〔二〇五〕 普通決議ハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之レヲ爲スモノニシテ其出席者ノ員數ニ付テハ何等ノ制限ナキモノトス但シ定款ニ於テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ妨ケス(一六一、一六二、一四六)

其二 特別決議

〔二〇六〕 特別決議ハ總株主ノ半数以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其議決權ノ過半数ヲ以テ之レヲ決スルモノニシテ定款ノ變更(一一一ノ二項、二〇九)社債ノ募集(一九九)解散及ヒ合併(二二二)ノ決議ヲ爲ス場合ニ限り之レニ據ルモノトス但シ此場合ニ於テ無記名式ノ株券ヲ定日ニ供託セサル株主ハ之レヲ其員數ニ算入セス

〔二七〇〕 株主ノ出席カ法定ノ人數ニ達セサルトキハ出席シタル株主ノ過半数ヲ以テ假決議ヲ爲シ各株主ニ對シテ其假決議ノ趣旨ヲ通知シ無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其趣旨ヲ公告シ而シテ更ニ一ヶ月

内ニ第二回ノ株主總會ヲ召集シ第二回ノ總會ニ於テ出席株主ノ議決權ノ過半数ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決スルモノトス(二〇九ノ三項)但シ會社ノ目的タル事業ノ變更ハ重大ナル事項ナルヲ以テ假決議ノ方法ニ依ルコトヲ得サルモノトス(二〇九ノ四項)加之右假決議ノ内容ハ第二回總會ニ於テ之レヲ修正スルコトヲ得サルモノトス

【書式】 八八、株主總會假決議及ヒ第二回總會通知書

株主總會假決議及ヒ第二回株主總會召集通知書

何年何月何日當會社定款變更ノ爲メ(又ハ何々ノ爲メ)何所ニ召集シタル第何回臨時株主總會ニ於テハ出席株主何名其資本ニ對スル金額何圓ニ過キス依テ總株主ノ半数以下ニシテ資本ノ半額ニ滿タサルヲ以テ出席株主ノ議決權何個中何個ニ對スル何個即チ過半数ニ因リ左ノ通り決議ヲ爲シタリ
何々

依テ更ニ右假決議ノ認否ヲ決スル爲メ何年何月何日午前何時何所ニ第二回ノ株主總會ヲ召集致候即チ茲ニ第何條(又ハ商法第二百九條)ニ依リ右假決議ノ趣旨及ヒ第二回總會召集ノ及通知候也

(一七六、一七七)

キハ株主總會ハ之ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ニ定メタル權利ハ監査役ノ一人カ其行爲ヲ知リタル時ヨリ二ヶ月間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第七十六條 取締役ハ監査役ノ承認ヲ得タルトキニ限り自己又

ハ第三者ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ民法第百八條ノ規定ヲ適用ス

第七十七條 取締役カ其任務ヲ怠リタルトキハ其取締役ハ會社

ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス(一八六、一八九、一九三、一八九、二三四、一三三、一三四、一四二ノ四、一九三)
取締役カ法令又ハ定款ニ反スル

行爲ヲ爲シタルトキハ株主總會

ノ決議ニ依リタル場合ト雖モ第三者ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス(民四四)

第七十八條 株主總會ニ於テ取

締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ之ヲ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一ヶ月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス(一八五、一八七、二三四、一六〇、一八七、一九八、二二八)

前項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ監査役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス(民九〇)會社カ敗訴シタルトキハ右ノ株主ハ會社ニ對シテノ損害賠償ノ責ニ任ス

何府縣何市何町何番地

何々株式會社取締役

社長 何

某

株主 何某 殿

第七 株主總會ノ決議事項

〔二〇八〕 株主總會ノ決議事項ハ法令及ヒ定款ノ規定ニ反セサル以上ハ如何ナル事項ヲ決議スルモ不可ナラス然レトモ定款又ハ強行的規定ニ反スルコトヲ得ス例ヘハ株金拂込義務ヲ免除シ取締役ヲ株主以外ニ選任シ又ハ貸借對照表ヲ公告セサルカ如キ決議ハ無効ナリ加之株主ノ固有的權利ヲ奪フコトヲ得ス或株主ノ或種類ノ優先權ヲ侵スコトヲ得スマタ第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス(一五六)

其一 普通決議

〔二〇九〕 普通決議ヲ以テ爲スコトヲ得ヘキ法定事項ハ左ノ如シ

- (一) 利益配當ニ關スル件(一五八)
- (二) 利息ノ配當ニ關スル件(一五八)

(一七九、一八〇、一八一、一八二)

第七十九條 取締役カ受クヘキ報酬ハ定款ニ其額ヲ定メサリシトキハ株主ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム(一八九、二三四)

第三款 監査役

第八十條 監査役ノ任期ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ス(一六六、一八九、一六六但書、一六七ノ二、商施七三)

第八十一條 監査役ハ何時ニテモ取締役ニ對シテ事業ノ報告ヲ求メ又ハ會社ノ業務及ヒ會社財產ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得(一八三、二一四、二六二ノ二ノ四號、二三四)

第八十二條 監査役ハ株主總會ヲ召集スル必要アリト認メタルトキハ其召集ヲ爲スコトヲ得此總會ニ於テハ會社ノ業務及ヒ會社財產ノ狀況ヲ調査セシムル爲

- (三) 取締役ノ選任及ヒ解任ノ件(一六四、一六七)
- (四) 監査役ノ選任及ヒ解任ノ件(一八九、一六七)

(五) 取締役ニ對スル競業禁止ノ解除及ヒ取締役カ競業禁止ニ違反シタル場合ニ於ケル奪取權行使ノ權(一七五)

(六) 計算ノ承認ノ件(一九〇、一九二)

(七) 新株募集手續ノ件(二二三)

(八) 清算承認ノ件(二二七、二三〇)

(九) 取締役又ハ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スル件(一七八、一八七)

其二 特別事項

〔二一〇〕 特別決議ヲ以テ爲スヘキ法定事項ハ左ノ如シ

- (一) 定款變更ノ件(二二一ノ二項、二〇八)
- (二) 任意解散ノ件(二二一ノ二項、二二二)
- (三) 會社ノ合併(二二三、二二三)
- (四) 社債ノ募集(一九九)

メ特ニ檢査役ヲ選任スルコトヲ得(一六〇ノ二、一九八ノ一項、二一四ノ二項、二六二ノ三號)

第八十三條 監査役ハ取締役カ株主總會ニ提出セントスル書類ヲ調査シ株主總會ニ其意見ヲ報告スルコトヲ要ス(一九〇、一九一、二六二ノ二ノ四號、二六二ノ一號、二三四)

第八十四條 監査役ハ取締役又ハ支配人ヲ兼ヌルコトヲ得ス但取締役中ニ缺員アルトキハ取締役及ヒ監査役ノ協議ヲ以テ監査役中ヨリ一時取締役ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ定ムルコトヲ得(二三四)

前項ノ規定ニ依リテ取締役ノ職務ヲ行フ監査役ハ第九十二條第一項ノ規定ニ從ヒ株主總會ノ承認ヲ得ルマテハ監査役ノ職務(一八三、一八四)

第八 株主總會ノ決議無効

〔二一一〕 株主總會ハ會社最高ノ機關ナリト雖モ法令及ヒ定款ノ規定ニ違反スルコトヲ得サルモノトス故ニ之レニ反セル總會ノ效力ナキハ勿論其決議ノ無効タルヘキハ當然トス然レトモ之レニ反セル故ヲ以テ其決議ヲ絕對ニ無効ナラシムルハ理ニ偏シ實ニ適セサル事情ナキニアラス依ツテ特ニ法定ノ事由及ヒ手續ニ因リ裁判ノ確定ヲ俟タサレハ全然無効ナリトセス(判例六九參照)

〔二一二〕 總會招集ノ手續又ハ其決議ノ方法法令又ハ定款ニ反スルトキハ株主及ヒ取締役又ハ監査役ハ訴ヲ以テノミ之レカ無効ヲ主張スルコトヲ得ルニ過キサレモノトス(一六三)

〔二一三〕 加之此訴ハ決議ノ日ヨリ一ヶ月内ニ之レヲ提起スルコトヲ要シ其裁判ハ本店所在地ノ地方裁判所ノ管轄ニ屬シ數箇ノ訴カ同時ニ繫續スルトキハ其辯論及ヒ裁判ハ之レヲ併合シテ爲スモノトス(一六三、九九ノ三、四)而シテ口頭辯論ハ右ノ訴ノ期間ヲ經過シタル後ニアラサレハ之レヲ開始セス此訴ノ提起及ヒ口頭辯論ノ期日ハ取締役ニ

(一八五、一八六、一八七)

ヲ行フコトヲ得ス

第百八十五條 會社カ取締役ニ對シ又ハ取締役カ會社ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ於テハ其訴ニ付テハ監査役會社ヲ代表ス但株主總會ハ他人ヲシテ之ヲ代表セシムルコトヲ得(一七〇、一七八、一八七ノ一項)

資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ請求シタルトキハ特ニ代表者ヲ指定スルコトヲ得

第百八十六條 監査役カ會社又ハ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責任スヘキ場合ニ於テ取締役モ亦其責ニ任スヘキトハ其監査役及ヒ取締役ハ之ヲ連帶債務者トス(一七七、一八九、一九三、一四二ノ四、二三四)

第百八十七條 株主總會ニ於テ監

於テ遲滯ナク之レヲ公告スルコトヲ要スルモノトス(一六三ノ二)取締役カ此公告ヲ怠リタルトキハ過料ニ處セラルヘキモノトス(二六二ノ二)此訴ニ於テ會社ヲ代表スル者ハ取締役トス取締役カ訴ヲ提起シタルトキ又ハ取締役ニ對シテ之レヲ爲ストキハ監査役トス加之株主總會ハ別ニ他人ヲシテ之レヲ代表セシメルコトモ爲シ得ルモノトス(八五)

【書式】 八九、株主總會決議無効宣告請求ノ訴 (書式四〇)

其一 決議無効ノ訴ノ條件

〔二一四〕 決議無効ノ訴ノ條件ハ必ス株主總會招集ノ手續又ハ其決議方法法令又ハ定款ノ規定ニ違反スルヲ理由トスルコトヲ要ス而シテ其訴ハ民事訴訟法ノ規定ニ因リ總會ニ於ケル決議ノ日ヨリ一ヶ月ノ期間内ニ提起スルコトヲ要シ且ツ其提起者ハ株主及ヒ取締役又ハ監査役タルコトヲ要ス(一六三、一六三ノ二)加之取締役又ハ監査役ニアラサル株主カ爲ス場合ハ其株主カ總會ニ於テ決議ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ總會ニ出席スルコトヲ拒マレタルトキニ限り又株主カ總會ニ出席セサリシ場合ニ於テハ自己ニ對スル總會招集ノ手

査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ之ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ノ決議又ハ請求ノ日ヨリ一ヶ月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第百八十五條第一項但書及ヒ第二項ノ規定ヲ準用ス(一七八、一八五、二三四)

前項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ取締役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

會社カ敗訴シタルトキハ右ノ株主ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス

第百八十八條 削除

(一八八)

續カ法令又ハ定款ニ反スルコトヲ理由トスルトキニ限り之レヲ爲シ得ルモノトス(一六三ノ二項)

〔二一五〕 而シテ其株主ハ會社ノ要求ニ因リテハ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス(一六三ノ三) 之レヲ供セサルトキハ民事訴訟法第九〇條ノ適用ヲ受ケ訴ヲ取下ケタルモノト看做サル

(注意) 民事訴訟法第九〇條 裁判所ハ保證ヲ立ツ可キ期間ヲ定ム可シ此期間ノ經過後裁判所アルマテニ保證ヲ立テサル場合ニ於テハ被告ノ申立ニ因リ判決ヲ以テ訴ヲ取下ケタリト宣言シ又原告カ上訴ヲ爲シタルトキハ其上訴ヲ取下ケタリト宣言ス可シ

其二 決議無効ノ訴ノ效果

〔二一六〕 決議無効ノ訴カ成立シ無効ノ判決確定シタルトキハ之レニ因リテ其決議ハ當然無効ニ歸シ何人ニ對シテモ其效力ヲ生シ訴訟當事者ニ止マラス一般ノ株主ニ及フヘキモノトス但シ右決議ニ基キ爲シタル會社ノ行爲ニ就キ善意ノ第三者ノ利益ヲ害スルコトヲ得サルハ勿論トス(一六三ノ二項、九九ノ四)

(一八九、判一四〇、一四一)

第九條 第六十四條、第六十六條但書、第六十七條、第六十七條ノ二、第六十七條及ヒ第七十九條ノ規定ハ監査役ニ之ヲ準用ス

【判例】一四〇

總會ノ決議ハ會社ノ意思 (東京控訴院四五、四、一九)

株主總會ハ株式會社ノ最高機關ニシテ其決議ハ會社ノ意思ノ發現ナルカ故ニ株主總會ノ爲シタル計算書承認決議並ヒニ利益配當決議カ株主ヲ拘束シ之レニ服從セシムル效力ヲ生スヘキハ言ヲ俟タス

【判例】一四一

總會決議ノ拘束力 (東京控訴院二、二、一四)

〔二一七〕 此場合ニ於テ既ニ決議事項カ登記アリタルトキハ裁判所ハ其本店及ヒ支店ノ所在地ノ登記所ニ其登記ノ囑託ヲ爲スヘク登記所ハ職權ヲ以テ會社ノ決議事項ノ無効ナルコトヲ登記スルモノトス(一六三ノ四、非訴一九五ノ二、一三五ノ四)

〔二一八〕 而シテ右ノ決議カ無効ニアラストノ判決確定シタル場合ハ其提起者ニ於テ故意又ハ重大ナル過失アリタルトキニ限り會社ニ對シ損害賠償ノ責任アルモノトス(一六三ノ三項、九九ノ三、九九ノ四)

第二款 取締役

〔二一九〕 株式會社ハ法人ナルヲ以テ外部ニ對シテ會社ヲ代表シ且ツ内部ニ於テ業務ヲ執行スル機關ナカラサルヘカラス取締役是レトス故ニ取締役ヲ代表機關又ハ執行機關ト稱ス

第一 取締役ノ意義

〔二二〇〕 取締役トハ會社ヲ代表シ且ツ其業務ヲ執行スル會社ノ常設

第二章 株式會社・決議ノ無効・取締役・取締役ノ選任 三一九

株式會社ノ株主總會ニ於テ法律上有效ナル決議ヲ爲シタル以上ハ會社モ株主モ總ヘテ其決議ニ拘束セラレヘキ法律關係ヲ生ス

【判例】一四二

定時及ヒ臨時總會ノ區別 (東京地方裁判所三五、四、二九)

株式會社ニ於テ定時總會ト臨時總會ト區別スル標準ハ決議事項ノ如何ニ依ルヘキモノニアラスシテ其召集時期ノ豫メ一定スルト否トニ在ルモノトス

【判例】一四三

第一五六條第一項ノ株主 (大審院四〇、五、二〇同四、五、四、二四)

(判一四二、一四三)

機關ヲ稱ス然レトモ例外トシテ株主總會又ハ監査役ト雖モ亦會社ヲ代表スルコトナキニアラス

〔二二二〕 取締役ハ常設機關トシテ會社ヲ代表シ會社ノ意思ヲ表示シ且ツ會社ノ業務ヲ執行スル者ニシテ法令及ヒ定款ノ規定ニ準據シ株主總會ノ決議ニ基キ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其職ニ從フヘキモノトス(一六四ノ二、民六四四) 取締役對會社間ノ關係ハ委任關係ナルヲ以テ民法ノ委任規定ヲ適スルモノトス

第二 取締役ノ選任

〔二二三〕 取締役ハ發起設立ノ場合ニ於ケル例外ヲ除キテハ株主總會ニ於テ株主中ヨリ之レヲ選任スルモノニシテ其員數ハ三人以上ナルコトヲ要ス(一六四、一六五、一六六)

〔二二四〕 取締役選任ノ決議ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ通常決議ノ方法ニ依リ爲スコトヲ得ルモノニシテ選任者ハ必ス株主總會タルヘク被選任者ハ必ス株主タルヘク苟クモ意思能力者タル以上ハ性ノ男女ヲ

(判一三九、一四四)

所謂株主トハ記名式ノ株券ヲ有スル株主ヲ指稱セルモノトス而シテ記名式ノ株券ヲ有スル株主トハ同法第一七一條及ヒ第一七二條ノ規定ニ從ヒ株主名簿ニ其氏名住所ヲ記載シ且ツ自己ノ氏名ヲ株券ニ記載シタル者ノ謂ヒナリ

【判例】一四四

株主總會招集ノ期間(東京地方裁判所一〇、九、一三)

商法第一五六條ノ規定ニ依レハ株主總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ二週間前各株主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要シ而シテ期間ノ計算ニ付テハ週ヲ以テ定ムル期間ノ初日ハ午前零時ヨリ始マル場合ノ外ハ之レヲ算入セラレス且ツ期間ノ

間ハサルモノトス但シ定款ニ於テ規定セル取締役ノ有スヘキ株式ヲ有スル株主タルコトヲ要スルハ勿論トス(二二〇)

〔二二四〕 而シテ選任セラレタル取締役ハ定款ニ規定セラレタル一定ノ株式ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス(一六八) 然レトモ取締役ニ選任セラレタル株主ハ必スシモ就任スルヲ要セス辭任スルモ妨ケサルモノトス(一六四ノ二項、民六一一六) 但シ改正商法前ニ於テハ取締役ノ選任ハ單獨行爲ニシテ被選任者ノ承諾ヲ俟タスシテ效力アリト爲シ大審院ノ如キモ亦此說ヲ採用セリト雖トモ今ヤ然ラス

其一 取締役ノ任期

〔二二五〕 取締役ノ任期ハ必ス三年以上ヲ超ユルコトヲ得サルモノトス但シ豫メ定款ヲ以テ定メタルトキハ任期中ノ最終ノ配當期ニ關スル定時總會ノ終結ニ至ルマテ其任期ヲ伸張スルコトヲ妨ケス(一六六) 之レニ反シテ定款ヲ以テ其任期ヲ縮少スルハ妨ケサルモノトス而シテ任期滿了後ハ當然其資格ヲ失フモノトス之レヲ再選スルハ妨ケス

【判例】一四五

總會通知期間ノ計算法(東京)

(判一四四)

末日ノ終了ヲ以テ期間滿了トスルヲ通例トスルカ故ニ本件ノ會日タル大正十年一月十三日ヨリ選リテ二週間ノ期間ヲ存センニハ大正九年十二月二十九日前選クモ同三十日午前零時ニ於テ其通知ヲ發セサルヘカラス然ルニ前記招集ノ通知ハ大正九年十二月三十日中ニ發セラレタル者ナレハ右株主總會ノ招集ハ其通知ト會日トノ間ニ法定期間ヲ存セサル違法アリト謂ハサルヘカラス

第三 取締役ノ職務

〔二二六〕 取締役ハ會社ノ業務執行ニ關シ定款ニ別段ノ定メナキトキハ其過半數ヲ以テ之レヲ爲スヘキモノトス支配人ノ選任及ヒ解任モ亦同シ(一六九)

〔二二七〕 定款ニ於テ規定スルトキハ其業務ヲ各取締役ニ於テ分擔シ又ハ特定ノ取締役ヲシテ專行セシムルモ妨ケス故ニ一般ニ社長又ハ專務若クハ常務ノ名ニ於テ業務ノ執行ヲ爲スヲ以テ慣例トス然レトモ定款ニ別段ノ規定ナキニ拘ハラズ會社ヲ代表スル取締役ノ故ヲ以テ單獨ニ内部關係ニ屬スル株主總會ヲ招集スルカ如キ行爲ヲ爲ス權限ナキハ商法第一六九條ニ明定セラル(例判一五二參照)

〔二二八〕 取締役ノ職務中重大ナルハ會社ノ會計ニ關スル事務及ヒ書類保存、株主總會招集其他ノ法定事項トス(二章七節第一款、同八節參照)

其一 書類保存

〔二二九〕 取締役ハ定款及ヒ株主總會ノ決議録ヲ本店及ヒ支店ニ備ヘ

且ツ株主名簿及ヒ社債原簿ヲ本店ニ備ヘ置クコトヲ要ス(一七一)而シテ營業時間内ハ何時ニテモ之レヲ株主及ヒ會社債權者ノ閱覽ニ供スヘキモノニシテ取締役カ正當ノ理由ナクシテ之レニ反スルトキハ過料ニ處セラルヘキモノトス(一九一、二六二ノ二)

(甲) 株主名簿

〔三〇〇〕 株主名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要シ取締役カ之レニ反スルトキハ過料ニ處セラルヘキモノトス(一七二、二六二ノ二ノ九項)

(一) 株主ノ氏名住所(一五〇、一五四)

(二) 各株主ノ株式ノ數及ヒ株券番號

(三) 各株ニ付キ拂込ミタル株金額及ヒ拂込ノ年月日

(四) 各株式ノ取得ノ年月日

(五) 無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其數及ヒ番號、發行ノ年月日(一五五)

(乙) 社債原簿

〔三三二〕 社債原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要シ取締役カ之レ

第二章 株式會社・取役・取締役ノ職務

(判一四五)

京地方裁判所三七、一一、三)

株式會社ニ於テ株主總會ヲ招集スルニハ定時總會タルト臨時總會タルトヲ問ハス會日ヨリ二週間前ニ各株主ニ對シ其通知ヲ發スルコトヲ要ス而シテ其期間ノ計算方法ニ付キテハ商法中特別ノ規定ナキヲ以テ民法第一四三條ニ從ヒ週ヲ以テ定メタル期間ノ計算ニ從フモノニシテ初日ハ之レヲ算入セス其週ノ始メヨリ起算セサルトキハ其期間ハ最後ノ週ニ於テハ其起算日ニ相當スル日ノ前日ヲ以テ滿了スヘキモノトス

〔民法第一四〇條〕 期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ初日ハ之レヲ算入セス但其期間カ午前零時ヨリ始マルトキハ此限リニアラス

〔第一四一條〕 前條ノ場合ニ於テハ期間ノ末日ノ終了ヲ以テ期間ノ滿了トス(第一四二條) 期間ノ末日カ大祭日、日曜日其他ノ休日ニ當タルトキハ其日ニ取引ヲ爲サザル慣習アル場合ニ限リ期間ハ其翌日ヲ以テ滿了ス

〔第一四三條〕 期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタルトキ

ニ反スルトキハ過料ニ處セラルヘキモノトス(一七三、二六二ノ二ノ九號)

(一)社債權者ノ氏名住所(一九九以下)

(二)債權ノ番號(二〇三ノ二項二號、二〇五ノ二項)

(三)社債ノ總額

(四)各社債ノ金額

(五)社債ノ利率

(六)社債償還ノ方法及ヒ期限

(七)數回ニ分チテ社債ノ拂込ヲ爲サシムルトキハ其拂込ノ金額及ヒ拂込ノ年月日

(八)各社債ニ付キ拂込ミタル金額及ヒ拂込年月日

(九)債券發行ノ年月日

(一〇)各社債ノ取得ノ年月日

(一一)無記名式債券ヲ發行シタルトキハ其數及ヒ番號、發行年月日

其二 資本半減ト株主總會ノ招集

【二三三】 取締役ハ會社カ其資本ノ半額ヲ失ヒタルトキハ遲滯ナク株

主總會ヲ招集シ之レヲ報告スルコトヲ要ス(一七四)取締役カ此招集ヲ怠リタルトキハ過料ニ處セラルヘキモノトス(二六二ノ六號、二六二ノ二ノ十號)蓋シ資本ノ半額ヲ失ヒタルトキトハ貸借對照表ニ於テ貸方ノ總額即チ缺損カ資本ノ半額ニ達シタル場合ヲ稱スルモノトス

其三 破産宣告ノ請求

【二三三】 取締役ハ會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要スルモノナリ然レトモ破産豫防ノ和議開始ノ申立ヲ爲スモ亦不可ナラス(一七四、破産三八九)此請求ヲ怠リタル取締役ハ過料ニ處セラルヘキモノトス(二六二ノ六號)蓋シ會社債權者ヲ保護スル規定ニ外ナラス

【二三四】 而シテ破産及ヒ破産宣告ノ請求ノ手續ニ付テハ商法及ヒ商法施行條例ニ於テ特ニ民事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキ旨ノ記載アル以外ハ破産法ニ依ルモノトス(破産一三四、一三六ノ三項)破産宣告ノ請求ハ會社本店ノ所在地タル地方裁判所ニ申立ツヘキモノトス

其四 株主ニ對スル通知又ハ催告

第二章 株式會社・取締役・取締役ノ職務

(判一四六)

ハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス週、月又ハ年始ヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其期間ハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ其起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ應當スルトキナキトキハ其月ノ末日ヲ於テ滿期日トス

【判例】一四六

會議ノ目的及ヒ決議事項ノ

豫知(大審院三七、五、二)

商法第一五六條 第二項ノ規定ハ

株主ヲシテ總會ノ目的及ヒ其總會

ニ於テ評決セラルヘキ事項如何ヲ豫知スルコトヲ得セシメ其決議權ヲ行フニ付キ十分ノ準備ヲ爲サシムル法意ナリトス故ニ會社カ株主ニ爲ス總會ノ通知ニハ其議事日程事項ノ如何ヲ了解スルヲ得セシムルニ足ル記載アルコトヲ要ス

【判例】一四七

總會ノ通知事項(東北地方

裁判所六、六、三一)

株主總會招集ノ通知ニハ其議事日程タルヘキ事項ノ何タルヤヲ知ルコトヲ得ルニ足ル記載アルコトヲ要スルヲ以テ單ニ將來ニ關スル善

(判一四七)

〔二二五〕 取締役ハ株主ニ對シ法令又ハ定款ノ規定ニ基キ諸般ノ通知又ハ催告ヲ爲スコトヲ要ス(一五二、一五三、一五六、二〇九、二二四)

其五 其他ノ職務

〔二二七〕 會社ノ設立及ヒ其他ノ登記(一四一、五一、五二、五三、二〇四ノ三、二一七) 株券ノ發行及ヒ之レニ關スル件(一四七、二一九) 株金拂込ノ催告及ヒ強制ニ關スル件(一五二、一五三) 株主總會招集ノ件(一五七、一五九、二一三) 募集設立ノ場合ニ於ケル創立事務ノ調査報告ノ件(一三四) 財産目錄貸借對照表營業報告書損益計算書等ニ關スル件(一九〇) 訴ノ提起ニ關スル件(一八七) 及ヒ其他會社ノ目的タル事業ノ經營ニ關スル一切ノ職務等殆ント枚擧ニ暇ナシ

【書式】 九〇、取締役會(重役會)ノ通知書

拜啓陳來ル何月何日(第何曜日)午前(後)何時ヨリ取締役會(又ハ重役會)相

(判一四八)

後策トノミ記載シタル通知ノ如キハ商法第一五六條第二項ニ違反シタル通知ナリトス

【判例】一四八

總會ノ不適法ナル通知ト其

效力(大審院四四、三、二三)

株主總會ヲ招集スルニハ總會目的及ヒ決議スヘキ事項ヲ記載セル通知ヲ會日ヨリ二週間前ニ各株主ニ對シテ發スルコトヲ要スルハ第一五六條ニ明記スル處ナリ而シテ招集手續ノ欠缺ハ通知ノ發送ナカリシニ拘ハラズ株主カ總會ニ出席シタルニ因リ適法ノモノト爲ルト

開候間御出席被成下度此段得貴意候

敬具

年月日

何々株式會社

專務取締役

何

某

何某殿

【書式】 九一、株主名簿

壹株金 圓		取月日得	株主氏名	取月日得	株主氏名
第一回	拂込ミタル株金額				
第二回					
第三回					
第四回					
第五回					
第六回					

見做ス如キコトヲ許容セサル嚴格ナル規定ナリ

【判例】一四九

總會ノ場所(廣島地方裁判

所一一、六、二)

株主總會招集ノ場所ニ付テハ商法中別ニ規定スルコトナシト雖モ之レカ爲メニ法律ハ其招集場所ヲ全然會社ノ業務執行機關タル取締役ニ一任シタルモノト謂フヘカラス寧ロ特殊ノ事情ナキ限り原則トシテ會社ノ本店所在地ニ之レヲ招集スヘキ法意ナリ

【參考】一七

(判一四四)

一、重要ナル職員進退ノ件

第十一條 前條ニ掲タル事項ニシテ特ニ急施ヲ要スルモノ若クハ輕易ノ議案ハ專務取締役(社長)ニ於テ專行ノ上之ヲ次同ノ取締役會ニ報告シ其追認ヲ受クヘシ

第十二條 重要ナル會社ノ狀況ハ專務取締役(社長)ヨリ之ヲ取締役會ニ報告スルモノトス

第十三條 取締役會ニ於テ議決シタル事項ハ次回ノ初メニ於テ會長ヨリ之ヲ報告スルモノトス

第十四條 取締役及ヒ監査役事故アリテ取締役會ニ出席シ能ハサルトキハ開會前會長ニ其旨ヲ届出スルモノトス

第十五條 取締役會ニ提出スヘキ議案ハ書式九三ノ様式ニ依ル但議案種類ニヨリ之ニ準シ難キモノハ適宜ノ方法ヲ以テ其決議ヲ表示スルモノトス

第十六條 取締役ハ議案相當欄ニ捺印シテ可否ヲ表示スルモノトス 監査役ハ議案欄外ニ捺印シテ其議事ニ與リタルコトヲ表示スルモノトス

第十七條 取締役會ノ決議事項ハ毎會決議録ニ記載シ會長記名調印ノ上之ヲ保管スルモノトス

株主總會ノ散會ニ付テハ取締役ニ其權限アルコトヲ明示セル規定ナシト雖モ取締役カ總會ノ議長トシテ出席株主ノ資格ニ付キ調査ノ必要アリテ之レカ爲メ散會ヲ宣告シタルカ如キハ當然ノコトニ屬ス

【判例】一五四

總會ノ決議無効ノ趣旨(大審院一〇、七、一八)

株主總會ノ決議無効ニ關スル規定ハ其決議ヲ以テ無効ノ判決アル迄有效ナリトシ判決ヲシテ決議力將來ニ向ツテ無効ナルコトヲ宣告セ

【書式】 九三、何々株式會社取締役會決議書

(第 同) 大正 年 月 日 於			
提案者	相談役 印	可	取締役 印
	監査役 印	否	
第一號	議案(議案ノ例) ノ件		
右ハ	ト決定ス		
第一號	報告(報告ノ例)		
右ハ	トシテ處理セリ		

【書式】 九四、破産宣告ノ請求書

株式會社破産宣告ノ立

何市何區何町何番地

何々株式會社取締役

申立人 何

某

シムル趣旨ニアラス決議カ當初ヨリ無効ナルコトヲ確定スルモノニシテ若シ法定ノ期間内ニ決議無効ノ訴ヲ提起スル者ナカリセハ法律上有效ト爲ル結果ヲ生スルニ過キサル趣旨ナリト解スヘシ

【判例】一五五

總會ノ通知ヲ受ケサル株主ノ議決權行使後ニ於ケル無効ノ訴訟(大審院四三、六、二七)

株主カ適法ニ總會招集ノ通知ヲ受ケサリシトキト雖モ其株主カ株主總會ニ出席シ何等ノ異議ヲ留メス

(判一五五)

申立人 何

某

申立人 何

某

申立ノ一定ノ原因

右何々株式會社ハ大正何年何月何日ヨリ漸次事業ノ不振ヲ來シ殊ニ何々ニ因リ多大ノ缺損ヲ爲シ大正何年何月何日ノ調査ニ依レハ別紙貸借對照表ノ如ク會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ立至リ候ニ付キ茲ニ商法第百七十四條ニ依リ破産ノ宣告ノ申立ヲ爲ス次第ニ有之候

一定ノ申立

何々株式會社ニ破産宣告相成度候也

附屬書類ノ表示

一、貸借對照表

一通

右

年月日

何

某

何

某

何

某

(判一五六)

シテ議決權ヲ行使シタル以上ハ決議ノ目的及ヒ事項ヲ熟知セルト同時ニ暗黙ニ招集手續ノ違法ニ對スル救濟權ヲ拋棄シタルモノト認ムヘキヲ以テ其後ニ至リ決議無効ノ宣告ヲ求ムルハ失當ナリ

【判例】一五六

非株主及ヒ非代理人ノ爲シ

タル決議 (大審院四〇、

四、一九)

株主總會ニ於テ株主ニアラサル者及ヒ其代理人ニアレサル者カ決議ノ數ニ加ハリタルトキハ商法第一六三條ニ所謂決議ノ方法カ法令ニ

何地方裁判所長 判事何 某 殿

【書式】 九五、和議開始ノ申立書(書式九四、和議法第一二條參照)

【書式】 九六、財産目録、貸借對照表其他 (備考一五、一七、一八

參照)

第四 取締役ノ權限

【二三八】 取締役ノ權限ハ合名會社ノ社員ノ如ク各自會社ヲ代表スルヲ以テ原則トス然レトモ定款又ハ株主總會ノ決議ヲ以テ取締役中特ニ會社ヲ代表スヘキモノヲ定メ又ハ數人ノ取締役カ共同シ若クハ取締役カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其規定又ハ決議ニ因リ其取締役カ會社ヲ代表スルモノトス(一七〇) 此場合ニ於テハ其代表權ニ付キ之レヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗シ得ヘキモノトス但シ會社ニ對スル第三者ノ意思表示ハ必スシモ其代表者ニ爲スコトヲ要セス

【二三九】 而シテ右ノ代表權ヲ定款又ハ總會ノ決議ヲ以テ制限スルコトヲ得ルモ之レヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

第二章 株式會社・取締役・取締役ノ權限

三三五

【判例】一五七

決議内容ノ無効確認ノ訴

(大審院二、六、二八)

商法第一六三條ハ株主總會ノ決議カ總會招集ノ手續又ハ決議ノ方法ニ於テ法令又ハ定款ニ反スル場合之レカ無効宣告ヲ請求スルコトヲ許シタル規定ナレハ總會ノ決議カ其内容ニ於テ法令又ハ定款ニ違反シ當然無効ナル場合ニ適用スヘキ

(判一五七)

(民五四) 右代表者タル取締役ハ會社ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ其他ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルモノタルハ勿論トス(六二)

第五 取締役ニ對スル制裁

〔二四〇〕 取締役ハ會社ノ業務ヲ主宰スル重大ナル權限ヲ有スルモノナルヲ以テ會社ノ興廢ハ一ニ取締役カ行爲ノ如何ニ因リテ決セラル故ニ商法ハ取締役ノ行爲ニ付キ特ニ以下記載ノ制限ヲ設ケタリ

其一 競業禁止

〔二四一〕 取締役ハ株主總會ノ認許アルニアラサレハ自己又ハ第三者ノ爲メ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種類ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員トナルコトヲ得サルモノトス

〔二四二〕 取締役カ之レニ反シテ自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタルトキハ株主總會ハ之レヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得ヘキモノトス但シ此權利ハ監査役ノ一人カ其行爲ヲ知りタルトキヨリ二ヶ月間内ニ之レヲ行ハサルトキ又ハ行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタル

トキハ消滅スルモノトス(一七五)

其二 取締役對會社ノ取引

〔二四三〕 取締役ハ自己又ハ第三者ノ爲メ會社ト取引スルコトヲ得サルヲ以テ原則トス然レトモ監査役ノ承認ヲ得タルトキニ限り之レヲ爲シ得ルモノトス(一七六) 但シ監査役カ爲スヘキ右ノ承認ハ取締役ノ權限濫用ノ弊ヲ防クニアルヲ以テ概括的ニ承認スルコトヲ得サルモノニシテ箇々ノ場合ニ付キ一々承認ヲ與フルニアラサレハ有效トセス

〔二四四〕 取締役對會社間ノ取引ハ特ニ民法第一〇八條ノ所謂同人代理ノ原則ヲ適用セサルモノナルヲ以テ監査役ノ承認アルトキハ取締役ハ自ら會社ヲ代表シテ自己ト取引ヲ爲スモ亦妨ケス(一一七)

【書式】 九七、取締役カ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲スコトノ認許決議書

認許書

今設當會社取締役何某カ自己(又ハ何某)ノ爲メニ當會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲スコト(又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル何々會社ノ無限責任

(判一五八)

モノニアラス

【判例】一五八

決議無効ノ訴ト無効確認ノ

訴(東京地方裁判所五、五、

三〇)

商法第一六二條ニ所謂總會招集手續カ法令ニ反スル場合トハ各株主ニ對シ商法第一五六條ノ規定ニ從ヒ形式上總會招集ノ通知アリタルコトヲ前提トシ從ツテ株主ニ對シ全然通知ナカリシ場合ノ如キハ所謂招集手續ノ違反ニアラス故ニ株主任意ノ會合ニ依リ爲サレタル決議ハ之ヲ以テ株主總會ノ決

議ナリト謂フヲ得ス此ノ如キ無効

ナル決議ハ民事訴訟法ノ規定ニ從

ヒ其無効確認ノ訴ヲ提起シ得ヘシ

ト雖モ商法第一六三條ニ所謂決議

無効ノ訴トシテハ其理由ナシ

【判例】一五九

無權限者ノ招集ニ係ル株主

總會ノ效力(東京地方裁判

所一一、一二、一一)

取締役ノ職務ノ執行停止ノ假處分

ヲ受ケル者ノ招集ニ係ル株主總會

ノ決議ハ無効トス從ツテ其決議ニ

ヨリ選任セラレタル取締役及ヒ監

査役ハ執レモ其資格ヲ取得スルニ

(一五九)

社員タルコト)ヲ何年何月何日何所ニ於テ開會セル第何回定(臨)時株主總會ニ於テ決議ノ結果茲ニ認許スルモノナリ

年 月 日 何々株式會社株主總會

議 長 何 某
出席株主 何 某

【書式】 九八、取締役ノ商行爲ヲ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做ス決議書

決議書

當會社取締役何某カ大正何年何月何日ニ於テ自己(又ハ何某)ノ爲ニ爲シタル何々ノ行爲ハ當會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ナルヲ以テ何年何月何日何所ニ於テ開會セル第何回定(臨)時株主總會ニ於テ商法第七十五條第二項ノ規定ニ依リ該行爲ハ當會社ノタメ爲シタルモノト看做シ茲ニ此決議ヲ爲スモノトス

年 月 日 何々株式會社株主總會

議 長 何 某
出席株主 何 某

【書式】 九九、取締役ノ會社ト取引ヲ爲スニ付キテノ承認書

承認書

何々株式會社取締役何某カ自己(又ハ第三者何某)ノ爲メ當會社ト左ノ取引ヲ爲スコトヲ承認ス

一、何々

年 月 日

何々株式會社
監査役 何 某

第六 取締役ノ責任

【二四五】 取締役ハ法令又ハ定款ノ規定及ヒ株主總會ノ決議ノ範圍内ニ於テ會社ノ業務ヲ執行スルモノナルヲ以テ此任務ヲ怠リタルトキハ會社及ヒ第三者ニ對シ左ノ責任及ヒ特定ノ場合ニ於テ刑罰又ハ過料ノ制裁ヲ受ケヘキモノトス(二六一乃至二六二ノ二)

第二章 株式會社・取締役ニ對スル制限・取締役ノ責任 三三九

(一六〇)

由ナキモノトス

【判例】一六〇

解散會社ニ對スル決議無效
請求(大審院四二、三、二五)

商法第一六三條ニ規定セル株主總會ノ決議ハ裁判所ノ宣告ヲ俟チテ始メテ無効ト爲ルモノナレハ現ニ解散ノ狀態ニ在ル會社ニ對シテハ清算人ヲ會社ノ代表者トシテ其決議無効ノ請求ヲ爲スヘキモノトス

【判例】一六一

登記官吏ト株主總會ノ無效
判定(大審院七、一一、一五)

登記官吏ハ登記申請書及ヒ添付書

類ヲ審査シ形式上適法ナルコトヲ判斷シタル以上ハ縱令決議録ニ記載セラレタル決議カ招集ノ權限ヲ有セサル者ノ招集シタル株主總會ノ決議ナルヲ以テ法律上當然無効ニシテ商法第一六三條ノ規定ニ依リ訴ヲ俟ツコト要セサル場合ト雖モ其無効ヲ判斷スルコトヲ得サルモノトス

【判例】一六一

株主ノ總會決議ノ取消權
(大審院三六、四、六)

總會ノ決議無効ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スル事ヲ株主ニ許シタル規定

(判一六一、一六二)

其一 會社ニ對スル責任

〔二四六〕 取締役ハ會社ノ業務ヲ報行スルニ當リ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠リ會社ニ對シ損害ヲ加ヘタルトキハ其取締役ハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス(一七七) 然レトモ定時總會ニ於テ取締役カ提出シタル書類ノ承認ヲ爲シタルトキハ其責任ヲ解除セラレタルモノトス但シ取締役ニ於テ不正ノ行爲アリタルトキハ此限りニアラス(一九三)

其二 第三者ニ對スル責任

〔二四七〕 取締役カ法令又ハ定款ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ株主總會ノ決議ニ因リタル場合ト雖モ第三者ニ對シテ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス(一七七ノ二) 而シテ會社モ亦之レヲ賠償スル責ニ任セサルヘカラス
〔二四八〕 加之取締役ノ使用人カ他人ニ加ヘタル業務上ノ損害ニ付キテモ其選任監督ニ付キ相當ノ注意ヲ怠リタルトキハ其取締役ハ當然責任ヲ負フヘキモノトス(六二、一四二ノ四、一七〇)

(判一六三)

ハ株主ノ取消權ヲ認メ之レニ基キテ決議ノ取消ヲ爲サシムルモノナルコトハ取消ヲ請求スル期間ヲ限定シタルニ依リ明瞭ナリ

【判例】一六三

小數株主ノ自ラ爲ス總會招

集ノ手續(大阪地方裁判所

四二、一二、三)

資本ノ十分ノ一以上ノ株主カ裁判所ノ許可ヲ得テ自ラ總會招集ノ手續ヲ爲スニハ取締役カ株主總會招集ノ請求ニ受ケタル時ヨリ起算シ二週間ヲ經過シタルコト並ニ其期間内ニ於テ取締役カ總會招集ノ手

〔二四九〕 又創立總會ニ於テ選任セラレタル取締役ハ監査役ト共ニ設立ニ關スル重要事項ヲ調査報告スル任務アルヲ以テ之レヲ怠リタルトキハ損害賠償ノ責任アルハ勿論尙ホ過料ニ處セラルヘキモノトス(一三四、二六二ノ一號、二六二ノ二ノ四號)

第七 取締役ノ權利

〔二五〇〕 取締役對會社間ノ法律關係ハ委任ノ規定ニ據ルモノナルヲ以テ會社ハ委任者ニシテ取締役ハ受任者トス(一六四) 故ニ民法上ノ委任ノ原則ニ據レハ無償ナルモ取締役ハ商法ノ規定ニ依リ報酬ヲ受クル權利ヲ有ス

〔二五一〕 然レトモ取締役カ受クヘキ報酬ハ定款ニ於テ其額ヲ規定セザリシトキハ株主總會ニ於テ之レヲ定メサルヘカラス(一七九) 此決議ヲ爲サ、ルトキハ報酬ナキモノトス而シテ其報酬ハ一定ノ金額ヲ以テ之レヲ定メ若クハ他ノ利益ヲ以テ之レヲ定ムル事ヲ得ルモノトス加之會社ノ爲メニ支出シタル費用又ハ立替金等アルトキハ其償還ヲ請求シ

續ノ爲サマルコトノ必要條件トス

【判例】一六四

第一六三條ノ三ノ擔保物件

其一(仙臺地方裁判所四一、

三、二〇)

總會招集ノ手續又ハ其決議ノ無効宣告ヲ求ムル株主カ提供スル擔保物件ニ付テハ法律上別ニ制限ナキヲ以テ現金ニテモ有價證券ニテモ差支ナシ又其擔保ノ提供ニ付テハ法律上期間ノ定メナキカ故ニ縱令裁判所ノ指定セル期間經過後ト雖モ本案ノ辯論開始マテニ供託スルトキハ商法ノ規定ニ適合スルモノ

第八 取締役ノ退任、解任及ヒ辭任

〔二五二〕 取締役ハ其死亡、任期ノ滿了、破産、禁治産及ヒ會社ノ解散等ノ事由ニ因リ當然退任スルモノトス(民六五三)
〔二五三〕 會社ハ株主總會ノ決議ニ據ルトキハ何時ニテモ取締役ノ解任ヲ爲スコトヲ得ルモノトス但シ任期ノ規定アル場合ニ於テ正當ノ理由ナク其任期前ニ之レヲ解任シタルトキハ其取締役ハ會社ニ對シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス(一六七)從ツテ取締役モ亦何時ニテモ其辭任ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス(民六五一)

〔二五四〕 取締役カ其任務ヲ終了シテ退任スル場合ニ於テ法律又ハ定款ニ規定セル員數ノ取締役ナキニ至リタルトキハ新ニ選任セラレタル取締役カ就職スルマテハ取締役ノ權利義務ヲ有スルモノトス(一六七ノ二)但シ其取締役ノ退任ノ事由カ破産又ハ禁治産ノ場合ハ此限り

(判一六五)
ニシテ有效ナリ
其二(大阪地方裁判所三、八、三)

株主カ總會決議無効ノ訴ヲ提起シタル場合ニ擔保ヲ供スヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ該擔保物提供ノ一事ハ即チ當該訴訟存続ノ條件ニ外ナラサルヲ以テ若シ指定ノ擔保ヲ供セサルニ於テハ結局訴訟條件ヲ具備セサルコトニ歸着スルニ依リ訴訟ハ却下スヘキモノトス

【判例】一六五
第一六三條ノ四ノ登記效力
(東京地方裁判所八、三、二七)

ニアラス

【書式】 一〇〇、取締役解任ノ爲メニ生シタル損害

賠償請求ノ訴

取締役解任ノ爲メ生シタル損害賠償請求ノ訴

何府縣何市何町何番地
元何々株式會社取締役
原告 何 某
被告 何々株式會社
何府縣何市何町何番地
右法定代理人 何 某

請求ノ一定ノ目的

被告カ原告ノ何々株式會社取締役タルヲ解任シタルニ因リテ生シタル損害金何圓ノ賠償

商法第一六三條ノ四ノ規定セル登記ノ效力ハ商業登記ニ關スル一般規定タル商法第一二條ニ依リテ定ムヘク其登記及ヒ公告ノ有無又ハ

第三者ノ善意惡意ヲ決定スルニハ第三者カ法律上ノ利害關係ヲ有スルニ至リタル當時ヲ標準ト爲スヘキモノトス
【參考】一八
取締役監査役ノ豫選效力
(法曹會決議八、二、八)

取締役監査役ノ豫選ノ效力ニ關シテハ株主總會ノ決議ニハ條件又ハ期限ヲ附スルコトヲ得ヘキヲ以テ現正ノ取締役又ハ監査役ノ任期滿了ニ至リテ效力ヲ生セシムヘキ選(參一八)

請求ノ一定ノ原因

原告ハ曩ニ何年何月何日被告何々株式會社ノ何々總會ニテ其取締役ニ選任セラレタリ當時原告ハ何々ノ事業ニ從事シ之レカ爲メ毎月何圓ノ收入アリシモ被告會社ノ取締役タルニ於テハ定款ニ依リ報酬月額金額ヲ得ラレ且ツ其任期ハ三年ナルヲ以テ三年間ハ此報酬ヲ得ラルヘキヲ以テ曩ノ事業ハ之レヲ拋棄シ以テ被告會社ノ取締役タルコトヲ承諾就任セリ然ルニ被告會社ハ株主總會ノ決議ヲ以テ何等正當ノ理由ナキニ拘ハラス右ノ任期タル何年何月何日前ナル何年何月何日ニ於テ突然原告ノ取締役タルコトヲ解任セリ此解任手續ハ商法ノ定ムル處ナルカ故ニ原告モ是レヲ甘諾スト雖モ解任ニ因リテ任期マテ得ヘカリシ報酬ヲ失ハシメタルハ一方ニ於テ曩ノ事業ヲ抛チ就任シタル原告ニ對シ損害ヲ與フルモノナリ依ツテ原告ハ右報酬一ヶ月金何圓宛解任ノ日ヨリ任期マテ積算シタル金何圓ヲ損害額トシ被告會社ニ對シ其賠償ヲ請求スル爲メ商法第六十七條ニ依リ茲ニ本訴ヲ提起シタル次第ナリ

一定ノ申立

被告ハ原告ニ對シ損害賠償金何圓ヲ支拂フヘシトノ御判決相成度候也

證據方法及附屬書類ノ表示

一、被告會社ノ株主總會決議錄

憑通

一、同定款

登通

年月日

右

原告 何 某

何地方裁判長 判事何 某 殿

第九 取締役ノ登記

〔二五五〕 取締役ノ選任又ハ解任、辭任アリタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スルコトヲ要シ且ツ登記事項ニ變動ヲ生シタルトキモ亦同シ(一四一、一五、五三、二章三節第五其三參照)

第三款 監査役

〔二五六〕 株式會社ニ業務執行ノ機關アル以上之レカ監督機關アル

第二章 株式會社・取締役ノ登記・監査役

三四五

〔判一六六〕

任ノ決議ヲ爲スハ有效ナリ商法第一六五條第一八〇條ニ於テ任期ヲ三年又ハ二年ト定メタルハ同一者ヲシテ長ク取締役又ハ監査役ノ職ニ在ラシムルトキハ或ハ不適任者ヲシテ重要ナル事務ヲ取扱ハシメ或ハ會社又ハ株主トノ間ニ種々ノ情弊ヲ生センコトヲ慮リタルカ爲メノ公益的法規ナレハ豫選力此規定ノ適用ヲ脱スルカ爲メニ爲サレタルトキハ無効トス

〔判例〕一六六

會社對取締役ノ關係(東京控訴院三八、一二、二三)

會社ト取締役トノ關係ハ委任關係ナルヲ以テ取締役タル資格ハ株主總會ニ於ケル取締役選任ノ決議ニ

對シ被選任者カ承諾ノ意思ヲ表示スルニ因リテ始メテ發生スルモノトス

〔判例〕一六七

取締役以外ノ名稱ノ效力

(大阪控訴院三五、四、二五)

株式會社ノ取締役ノ筆頭ヲ頭取又ハ社長ト稱スルハ顯著ナル慣習ナリ而シテ取締役ハ取締役以外ノ名稱ヲ用ヒテ代表權ヲ行使スヘカラストノ法則ナキヲ以テ事實會社ノ取締役タル以上ハ頭取又ハ社長ノ名稱カ法律語ニアラサルカ爲メ其者ノ爲シタル代表行爲カ無効トナルノ理由ナシ

〔判例〕一六八

取締役中會社代表者ノ選定

(判一六七)

コトヲ要スヘシ株式會社ノ業務ヲ執行スル取締役ノ行爲カ法令及ヒ定款又ハ株主總會ノ決議ニ反セサルヤ否ヤ若クハ其行爲カ能ク會社ノ利益ニ適當スルヤ否ヤヲ監督スル機關ナカラサルヘカラス之レ監査役ノ規定アル所以トス

第一 監査役ノ意義

〔二五七〕 監査役トハ會社ノ業務ヲ執行スル者ヲ監査スル常設機關ヲ稱ス蓋シ株主總會ハ會社ノ最高機關ナルヲ以テ取締役ヲ監査スルハ勿論ナルモ常設ノ機關タルコトヲ得ス又検査役モ會社ノ業務ヲ監査スルモノナリト雖モ固ヨリ常設機關ニアラス然ルニ監査役ハ常設機關ナルヲ以テ常時繼續シテ之レカ監査ニ任スルモノトス

第二 監査役ノ選任

〔二五八〕 監査役ハ創立總會又ハ株主總會ニ於テ株主中ヨリ選任スルモノナルハ取締役ト同シ(二六四、一八九、判例一六六、參考一六)而シテ監査役ハ取締役ノ如ク定款ニ特ニ別段ノ規定ヲ爲ササル限り一定ノ株式

(判一六八)

(東京地方裁判所五、五、二五)

商法第一七〇條ハ單ニ定款ヲ以テ會社ヲ代表スヘキ者ヲ定メ云々ト規定スル外斯カル取締役ノ確定方法ニ關シテハ何等制限ヲ爲スコトナキヲ以テ苟クモ會社代表權ノ授與カ直接ニ定款ニ基因スル以上ハ其代表取締役ノ選任方法ニ付テハ直接ニ其指定スルト將タマ定款ニ適當ノ標準若クハ機關ニ依リ確定シタル取締役ヲ捉ヘテ以テ代表者ト爲スニ論ナク共ニ商法ニ所謂定款ヲ以テ取締役中會社ヲ代表スヘキ者ヲ定メタル場合ニ該當スルモノト解スルヲ穩當トス

(注意) 右ニ付キ東京區裁判所

ヲ有スルコトヲ要件トセス從ツテ取締役ノ如ク其株券ヲ供託スル必要ナシ加之其員數ニ制限ナキヲ以テ一人ニテモ亦不可ナキモノトス

其一 監査役ノ任期

〔二五九〕 監査役ノ任期ハ二年ヲ超ユルコトヲ得サルモノトス(一八〇)但シ豫メ定款ヲ以テ任期中ノ最終ノ配當期ニ關スル定時總會ノ終結ニ至ルマテノ任期ヲ伸張スルヲ妨ケサルハ取締役ト同シ(一八九、一六六)且ツ又監査役ノ任務カ終了シタル場合ニ於テ定款ニ定メタル員數ノ監査役ヲ缺クニ至リタルトキハ退任シタル監査役ハ破産及ヒ禁治産ノ場合ヲ除ク外新ニ選任セラレタル監査役カ就職スルマテ其權利義務ヲ有スルコトモ亦取締役ト同シ(一八九、一六七ノ二)然レトモ二ヶ年ノ任期ハ定款ニ於テ之レヲ短縮スルコトヲ得ルモノトス而シテ任期滿了後ニ於テ再選ノ妨ケナキコトモ亦取締役ト同シ

第二 監査役ノ職務及ヒ權限

〔二六〇〕 監査役ハ二人以上アル場合ト雖モ各自其職務ヲ執行スルコト

第二章 株式會社・監査役ノ意義・選任・職務及ヒ權限 三四七

監督判事ノ問合ニ對シ法務局長

ヨリ民第一〇三五號ヲ以テ右判

旨ノ相當ナル旨ノ回答アリ(五、

八、四)

〔判例〕一六九

社長ハ會社ノ代表者(大審

院四一、一〇、八)

社長ナル名稱ハ民法商法其他ノ法律ニ於テ特ニ認メラレタル稱號ニハアラサルモ我國ノ取引上ニ於テ慣用セラル、一種ノ熟語ニシテ會社ノ首席取締役ヲ意味スルモノナレハ單ニ社長ト稱スルモ會社ノ代表者ナルコト明確ナリ

〔判例〕一七〇

代表者ノ行爲ト會社ノ責任

(東京地方裁判所二、一一、

(判一六九、一七〇)

トヲ得ルモノニシテ取締役ノ如ク過半数ノ決議ニ依ルコトヲ要セサルモノトス(二六五) 監査役カ會社ノ業務執行ノ監査機關トシテ爲スヘキ法定ノ職務及ヒ權限ハ左ノ如シ

其一 調査及ヒ報告

〔二六一〕 監査役ハ取締役カ株主總會ニ提出セントスル書類ヲ調査シ株主總會ニ於テ其意見ヲ報告スルコトヲ要シ(一八三、一九〇)且ツ定時總會ニ提出スヘキ計算書類ハ之レヲ調査シ其意見報告書ヲ作成スルコトヲ要スルモノトス(一九〇、一九一)又新株式發行ノ場合ハ之レニ關スル事項ヲ調査シ總會ニ於テ報告スルコトヲ要シ(二一四)加之會社設立ノ場合ニ於テハ取締役ト共ニ商法第一三四條ニ規定スル事項ヲ調査シ創立總會ニ之レヲ報告スルコトヲ要スルモノトス

其二 調査ノ權利

〔二六二〕 監査役ハ取締役ニ對シ何時ニテモ營業ノ報告ヲ求メ又ハ會社ノ業務及ヒ會社ノ財産ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得ルモノトス(一八一)即チ會社ノ帳簿其他ノ書類ヲ閱覽シ金庫ヲ開キ之レヲ檢査スルモ

妨ケサルモノトス然ルニ之レヲ爲スコトヲ拒ミ又ハ妨ケタルトキハ其取締役ハ過料ニ處セラルヘキモノトス(二六二ノ二ノ三號、四號)

其三 株主總會ノ招集權

〔二六三〕 監査役ハ株主總會ヲ招集スル必要ヲ認メタルトキハ何時ニテモ其招集ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

〔二六四〕 監査役ノ招集スル株主總會ニ於テハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ特ニ檢査役ノ選任ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(一八二)

〔二六五〕 而シテ又裁判所ノ命令アルトキハ之レヲ爲スコトヲ要スルモノトス(一九八)

其四 訴訟提起ニ對スル擔保請求

〔二六六〕 監査役ハ株主總會ニ於テ取締役ニ對シ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之レヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル所謂小數株主權者カ之レヲ監査役ニ請求シタルトキハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一ヶ月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要スルモノトス而シテ其株主ニ對シ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ要スルモノトス(一七八)

(判一七一)

一(二)

會社ノ專務取締役カ其權限内ニ於テ會社ノ代理資格ヲ表示シテ手形ヲ振出シタル場合ニ於テハ其眞意カ會社ノ爲メニスルニアラスシテ自己ノ金融ヲ計ルニアリトスルモ相手方カ其眞意ヲ知り又ハ知ルコトヲ得ヘカリシ場合ニアラサレハ其振出行爲ヲ無効トスルコト能ハサルモノトス

【判例】一七一

會社ヲ代表スヘキ取締役ヲ

定ムル方法(大法院五、一

二、二六)

商法第一七〇條第一項ニ依リ株式會社カ取締役中會社ヲ代表スヘキ者ヲ定ムルニハ定款又ハ株主總會

ニ於テ代表者ヲ選定スルコトヲ要スルモノト解スルヲ相當トス

【判例】一七二

代表取締役ノ業務執行權

(東京地方裁判所一〇、二、四)

代表取締役ハ外部ニ對シテハ會社ノ代表機關トシテ會社ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲スノ權限ヲ有スルモ會社ノ業務執行ニ付キテハ定款ニ別段ノ定メナキトキハ取締役ノ過半数ヲ以テ之レヲ決スヘキコトハ特ニ商法第一六九條ノ明定スル所ナレハ會社ヲ代表スル取締役ノ業務執行ニ付キテハ單獨ニテ決定スルノ權限ヲ有セサルモノトス

(判一七二)

其五 會社ノ代表

〔二六七〕 監査役ハ會社カ取締役ニ對シ又ハ取締役カ會社ニ對シ訴訟ヲ提起スルトキハ會社ヲ代表スルモノトス但シ株主總會及ヒ資本ノ十分ノ一以上ノ株主カ訴訟ヲ請求セル場合ニ於テ其請求者カ別ニ代表者ヲ定メタルトキハ此限りニアラス(一八五)而シテ監査役カ會社ヲ代表スル場合ニ於テ監査役カ數人アルトキト雖モ其一人カ之レヲ爲スコトヲ得ヘク又其數人カ共同シテ之レヲ爲スモ亦妨ケサルモノトス

其六 取締役對會社ノ取引承認

〔二六八〕 監査役ハ取締役カ自己又ハ第三者ノ爲メ會社ト取引ヲ爲ス場合ニ於テ其行爲カ會社ノ利益ニ反セサル場合ハ之レヲ承認スルコトヲ得ルモノトス(一七、ハ本節第二款第五參照)加之取締役カ株主總會ノ認許ナクシテ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シタルトキハ會社ノ爲メニ之レヲ爲シタルモノト見做シ得キヘ監督權ヲ有スルモノトス

其七 取締役ノ職務行使

〔二六九〕 監査役ハ會社業務ノ監督者ナルヲ以テ取締役又ハ支配人ヲ

(判一七三)

【判例】一七三

法定ノ員數ヲ缺ケル取締役ノ決議(東京控訴院四五、五、二七)

取締役會ノ席上ニ於テ決議ニ先テ取締役ヲ辭シ直チニ退席シタリトスルモ商法第一六七條ノ二ノ規定ニヨリ右決議當時ハ尙ホ取締役ノ權利義務ヲ有シタルモノト爲サイルヘカラス故ニ其人カ退席シテ決議ニ加ハラサリシトスルモ其決議カ他ノ取締役ノ一致ヲ以テ爲サレタル以上ハ取締役ノ過半數ニヨリテ爲サレタル決議ニ外ナラサルヲ以テ其決議ノ有效ナルヤ勿論ニレテ之レヲ以テ法定ノ員數ヲ缺キタル取締役ニヨリテ爲サレタル無效

兼任スルコトヲ得サルモノトス況ンヤ會社ノ使用人ヲヤ但シ取締役中

ニ缺員ヲ生シタルトキハ取締役及ヒ監査役ノ協議ヲ以テ監査役中ヨリ一時取締役ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ定ムルコトヲ得ルモノトス(一八四)此場合ニ於ケル監査役ハ第一九二條ノ規定ニ從ヒ其取締役ノ職務ヲ行使セル年度ノ計算書類カ株主總會ノ承認ヲ得ルニ至ルマテノ期間ハ監査役ノ職務ヲ行フコトヲ得サルモノトス(一八四ノ二項)

〔二七〇〕 其監査役ハ業務ノ執行ニ關シ取締役ト同一ナル責任ヲ有スルト雖モ株券ノ供託其他取締役ニ專屬的ノ義務ハ之レヲ負擔スルコトヲ要セス(一六八、一七五、一七六)

第四 監査役ノ責任

〔二七一〕 監査役ハ取締役カ會社及ヒ第三者ニ對シ其責ヲ負フト同一ノ事由ニ基キ其任務ヲ怠リタルトキハ當然其責ニ任スヘキモノトス(一七七、一八九)蓋シ監査役對會社ノ法律關係モ亦委任關係ナルヲ以テ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ會社ノ事務ヲ處理スル義務ヲ負フヘキモ

ノモノト謂フコトヲ得ス

【參考】一九

取締役全部ノ辭任(法曹會決議八、一一、八)

取締役ノ全部ノ辭任ヲ爲スニハ株主總會ニ對シ辭任ノ意思表示ヲ爲スコトヲ要ス其株主總會ハ辭任セントスル取締役ニ於テ豫メ招集レ置クコトヲ要ス右辭任ノ登記ハ新ニ選任セラレタル取締役之レヲ爲スヘキモノトス

【判例】一七四

取締役ノ再選ト其登記(大審院六、六、二二)

同一ノ者カ任期滿了ノ際取締役ニ再選セラレタルトキハ會社ヲ代表スヘキ取締役ノ定メナキ場合ト雖(參一九)

ヲナレハナリ(一六四、一八九、民六四四)且ツ監査役力會社又ハ第三者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘキ場合ニ於テ取締役モ亦其責ニ任スヘキトキハ監査役及ヒ取締役ハ其連帶債務者タルモノトス(一八六)而シテ法定ノ規定ニ反スル場合ハ刑罰又ハ過料ノ制裁ヲ受クヘキモノトス(二六一乃至二六二ノ二)

【二七二】 監査役ノ責任ハ株主總會ニ於ケル計算書類ノ承認ニ因リテ特ニ不正ノ行爲ナキ限り解除セラル、ハ取締役ノ場合ト同シ (一九三)

第五 監査役ノ解任及ヒ辭任、退任

【二七三】 監査役ハ株主總會ニ於テ何時ニテモ之レヲ解任スルコトヲ得ルハ取締役ト同シ(一六七、一八九)其他辭任退任並ニ任期滿了前ノ解任ニ對スル損害賠償ノ請求權及ヒ定款規定ノ員數不足ノ場合ニ於ケル權利義務關係等モ亦同一ノ規定ニ從フモノトス(一八九、一六四、一六七、一六七ノ二)

第六 監査役ノ權利及ヒ登記

(判一七四、一七五、一七六)

モ法律上取締役ノ變更アリタルモノト云フヘク從クテ登記事項中ニ變更ヲ生レタルモノトス

【判例】一七五

取締役變更登記ト期間計算 法(大審院一〇、九、二九)

選任ノ決議アリタル日ヲ二週間ニ算入セス又二週間ノ末日カ日曜日ニ當タルトキハ日曜日ハ登記所ノ休日ナレハ其翌日ヲ以テ期間ノ滿了スルモノト解スルヲ相當トス從ツテ同日マテニ登記ヲ爲スニ於テハ之レヲ爲スコトヲ怠リタルモノト謂フコトヲ得ス

【判例】一七六

取締役ト登記義務 (東京地方裁判所三、一二、一〇)

【二七四】 監査役ノ權利關係及ヒ登記事項モ亦取締役ト同シ(一七九、一八九、二章七節第二款參照)

第四款 會社對取締役及ヒ監査役ノ

訴訟

【二七五】 株主ハ取締役又ハ監査役ノ業務上ノ行爲ニ付キ不服ヲ生シ爲メニ會社ノ内部ニ於テ衝突ヲ來スモ取締役又ハ監査役ニ對シ直接ニ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス以下ノ規定及ヒ手續ニ從フヘキモノトス

第一 取締役ニ對スル會社ノ訴訟

【二七六】 會社ヨリ取締役ニ對シテ爲ス訴訟ハ株主總會ノ決議ニ基クモノト所謂少數株主權者ノ請求ニ基クモノトノ二種ノ場合トス

其一 株主總會ノ決議ニ基ク訴訟

【二七七】 株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴訟ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキハ此訴訟ノ提起ニ付キ監査役ヲシテ會社ヲ代表セシムルモ

第二章 株式會社・會社對取締役及ヒ監査役ノ訴訟 三五三

會社ノ登記ハ國家ニ對スル義務ニ外ナラサルヲ以テ辭任シタル取締役ハ會社ニ對シ其辭任ノ登記手續ヲ爲スコトヲ請求スルコトヲ得ス

【判例】一七七

會社目的ノ範圍外ナル取締

役ノ行爲 (大審院三七、五、

二三)

株式會社ノ取締役カ定款ニ於テ定マリタル目的ノ範圍内ニアラサル他人ノ債務保證ヲ爲シタル行爲ハ會社ノ行爲トナラスシテ取締役一個ノ行爲トス故ニ其行爲ニ付キ會社ハ責任ヲ負フコトナシ

【判例】一七八

會社ノ總括的代理權ノ授與

(大審院七、五、四)

(判一七七、七七八)

ノトス(一八五)然レトモ株主總會ニ於テ特ニ他人ヲシテ之レヲ代表セ
シムルコトヲ得ルモノトス(一八五)

【二七八】 其代表者ハ右ノ決議ノ日ヨリ一ヶ月内ニ訴ヲ提起スルコト
ヲ要スルモノトス(一七八)會社カ敗訴トナリタルトキハ會社ニ於テ當
然其損害ヲ負擔スヘキモノトス(一七八、二七八)

其二 小數株主權者ノ請求ニ基ク訴訟

【二七九】 株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴訟ヲ提起スルコトヲ否決
シタル場合ハ所謂小數株主權者即チ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主ハ
其訴訟ノ提起ヲ監査役ニ請求スルコトヲ得ルモノトス但シ右ノ請求ヲ
爲シタル株主ハ監査役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
(一七八)此場合ニ於テ監査役ヲ會社ノ代表者ト爲スコトヲ好マサルト
キハ特ニ他人ヲ指定スルコトヲ得ルモノトス(一八五)

【二八〇】 會社ハ請求ノ日ヨリ一ヶ月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要スル
モノトス(一七八)會社カ敗訴トナリタルトキハ右ノ株主ハ會社ニ對シ
テ損害賠償ノ責ニ任スルモノトス(一七八)

(判一七九、一八〇)

取締役ハ他人ニ同會社ノ事務ノ一
切ヲ經營處理セシムルノ代理權ヲ
授與スルコトヲ得サル旨ノ法則ナ
キモノトス

【判例】一七九

取締役ト會社財産ノ保管

(大審院(刑)二、一一、四)

取締役社長又ハ專務取締役ハ
必スシモ常ニ其業務トシテ當然
會社財産ヲ保管シ之レヲ占有ス
ルモノニアラサレハ取締役カ會社
ノ財産ヲ横領シタル場合ニ於テ刑
法第二五三條ヲ適用センニハ先ツ
其業務上占有ノ事實ヲ確定セサル
ヘカラス

【判例】一八〇

株主名簿ニ記載スル時期

【書式】一〇一、取締役ニ對スル會社ノ訴狀

訴 狀

何府縣何市何町何番地

原 告 何々株式會社

右何々株式會社監査役

右法定代理人 何 某

何府縣何市何町何番地族稱職業

何々株式會社取締役

被 告 何 某

何府縣何市何町何番地族稱職業

同

被 告 何 某

何府縣何市何町何番地族稱職業

同

被 告 何 某

請求ノ一定ノ目的

第二章 株式會社・取締役ニ對スル會社ノ訴訟

三五五

(大審院三九、一一、一七)

商法第一七二條ニハ株主カ拂込ミ
タル株金額等ヲ株主名簿ニ記載ス
ルニ付キ其時期ノ定メナキハ事實
遲滯ナク之レヲ爲スコトヲ要スル
ノ趣旨ナリトス從ツテ此等ノ記載
ニ付キ遲滯アル以上ハ其原因ノ如
何ヲ問ハス商法罰則ノ制裁ヲ免レ
サルモノトス

【判例】一八一

株主ト株主名簿ノ記載(大

審院四四、二、九)

株主トハ株式ヲ引受ケ若クハ之レ
ヲ讓受ケタル者ノ謂ヒニシテ記名
株式ニ付テハ其引受ケ若クハ讓渡
人ノ氏名ヲ株主名簿及ヒ株券ニ記
載スヘキモノナレハ會社ハ之レニ

(判一八一)

被告カ原告會社ノ取締役トシテ何々行爲ヲ爲シタルニ因リ原告ニ生セシメタル損害金何圓ノ賠償

請求ノ一定ノ原因

被告等ハ原告會社ノ取締役ニシテ何年何月何日ヲ以テ原告會社ノ名簿ヲ以テ何々ノ行爲ヲ爲シタルニ因リ原告會社ハ何々ノ損害ヲ生スルニ至レリ然レトモ右被告等ノ行爲ハ原告會社定款第何條ニ反スル行爲ニシテ從ツテ原告會社ニ生セシメタル右損害ハ被告等ニ於テ原告ニ賠償スヘキ責アリ依ツテ原告會社ノ何年何月何日何所ニ召集セラレタル株主總會ハ右ノ事實ヲ認メ被告等ニ對シ右ノ賠償ノ訴ヲ提起スヘキコトヲ決議シタルヲ以テ茲ニ原告ハ被告ニ對シテ右損害金何圓ノ賠償ヲ請求スル爲メ定款第何條(又ハ商法第百八十七條)ニ依リ本訴ヲ提起シタル次第ナリ

一定ノ申立

被告等ハ其何々ノ行爲ニ因リ原告ニ生セシメタル損害金何圓ヲ連帶シテ原告ニ賠償スヘシトノ判決相成度候

證據方法及ヒ附屬書類ノ表示

一、原告會社定款

壹通

一、被告等カ何々ノ行爲ヲ爲シタル證書

壹通

一、原告會社株主總會ノ決議書

壹通

右原告法定代理人

何

某

何々地方裁判所長 判事 何 某 殿

【書式】 一〇一、取締役ニ對スル訴訟提起請求書

本會社取締役カ會社ノ代表者トシテ何々ノ行爲ヲ爲シタルハ定款第何條ニ反スル行爲ニシテ爲メニ會社ニ何々ノ損害ヲ生セシメタルヲ以テ其賠償ヲ爲サシムル爲メ會社ハ右取締役ニ對シ訴ヲ提起スヘシトノ提議ニ對シ何年何月何日何所ニ召集セラレタル株主總會ハ之レヲ否決シタルモ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主タル下名等ハ取締役ニ對シ速ニ右提議ノ訴ヲ提起スルヲ相當ト認メ候ニ付下名等ノ株券ヲ供託シ猶ホ御請求ニ因リテハ相當ノ擔保ヲ供スヘク候條商法第百七十八條及ヒ第百八十五條ニ依リ監査役タル貴下ニ於テ會社ヲ代表シ速ニ右訴訟提起相成度商法第百七十八條ニ依リ此段及請求候也

何府縣何市何町何番地族稱職業

第二章 株式會社・取締役ニ對スル會社ノ訴訟

三五七

(判一八二、一八三)

記載セラレタル者ヲ以テ株主ト爲ササルヘカラス故ニ内容ノ關係ニ於テハ株主タル事情アル者ト雖モ其氏名ヲ株主名簿又ハ株券ニ記載セラレサル以上ハ之レヲ株主ト認ムヘキニアラス

【判例】一八二

不正記載ノ原因ハ問ハス

(大審院三五、五、一四)

商法第二六二條ノ二ノ九號(改正前第二六一條)ニ所謂不正ノ記載トハ其記載ノ正シカラサルヲ云フモノニシテ詐欺又ハ故意ニ出タルトキハ勿論過失ニ基クトキト雖モ此規定中ニ包含スルモノトス

【判例】一八三

商法第一七二條ノ二ノ二項

ノ趣旨(大審院八、一一、一八)

會社ノ株主ニ對スル通知又ハ催告カ商法第一七二條ノ二ノ第二項ニ依リ通常其到達スヘカリシ時ニ到達シタルモノト看做サル、ハ獨リ通知又ハ催告ノ延著ノ場合ノミナラス其不著カ書面ノ返戻等ニ依リテ會社ニ明カナルト否トフ間ハサルモノトス

【判例】一八四

取締役カ第三者ニ對スル貴

任(東京控訴院四五、三、

三〇)

取締役カ法令又ハ定款ニ反スル行爲ヲ爲シタルニ因リ第三者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ故意又ハ過失ノ

(判一八四)

何々株式會社何株々主

何 某 〇

何府縣何市何町何番地

同何株々主

何 某 〇

何府縣何市何町何番地

同何株々主

何 某 〇

何々株式會社 監査役 何 某 殿

(注意) 右請求者タル株主カ右ノ訴ニ付キ特ニ代表者ヲ指定スルトキハ右

請求書末文ノ(監査役タル貴下ニ於テ會社ヲ代表シ)ノ文字ヲ削リ猶ホ別

ニ但書ヲ以テ(但シ右訴ニ付テハ何府縣何市何町何番地族稱職業何某ヲ

會社ノ代表者ニ指定致候)ト附記スヘシ

【書式】一〇三、取締役ニ對スル訴訟提起ノ決議書

何年何月何日何所ニ召集シタル何々株式會社ノ何々株主總會ニテ出席株主

(判一八五、一八六)

有無ヲ問ハス賠償ノ責任アルモノトス

【判例】一八五

取締役ノ會社名義冒用(大

審院(案)四二、一、一三)

取締役カ自己ノ利益ノ爲メ若クハ他人ニ利益ヲ得セシムル爲メ擅ニ會社ノ名義ヲ冒用シ定期預金證書ヲ作成シタルトキハ何等ノ權限ナキ者ニ於テ取締役ノ名義ヲ冒用シ該證書ヲ作成シタル場合ト同シク文書ノ實質ノ外其作成資格ヲモ偽リタルモノトス從ツテ其行爲ハ文書偽造罪ヲ構成ス

【判例】一八六

取締役カ會社ノ利益ノ爲メ作成シタル虚偽ノ内容文書

何名其決議權何個ニシテ何個ニ對スル何個ノ多數ヲ以テ左ノ事項ヲ決議ス

本會社取締役何某カ會社ノ代表者トシテ何々ノ行爲ヲ爲シタルハ定款

(又ハ商法)第何條ニ反スル行爲ニシテ爲ニ會社ニ何々ノ損害ヲ生セシメ

タルヲ以テ其賠償ヲ爲サシムル爲メ會社ハ右取締役ニ對シ訴ヲ起スコト

ヲ要ス

前項ノ訴ニ付テハ何府縣何市何町何番地族稱職業何某ヲシテ會社ヲ代表

セシム

右決議ヲ明確ニスル爲メ此決議書ヲ作り(又ハ決議録ニ記録シ)定款第何條

ニ依リ署名ス

何々株式會社何々株主總會出席株主

議長 何 某 〇

株主 何 某 〇

(注意) 本件ノ訴ハ商法第一八五條ニ依リ監査役カ代表スヘキモノナルモ

假ニ他人ヲシテ代表セシムル決議アリタル場合ヲ示ス故ニ監査役ヲシテ

代表セシムルトキハ第二項ノ記載ヲ要セサルモノトス

第二章 株式會社・取締役ニ對スル會社ノ訴訟

(大審院(刑)八、七、九)

取締役カ自己若クハ第三者ノ爲メニスルニアラスシテ専ラ會社ノ利益ヲ計ル爲メ會社ノ名義ノ文書ヲ作成スルハ取締役ノ權限ニ屬スルヲ以テ假令其内容カ虚偽ナリトスルモ個人カ自己ノ資格ニ於テ内容カ虚偽ノ文書ヲ作成シタルト等シク文書ノ作成名義ヲ偽リタルモノニアラサレハ右文書作成ノ所爲ハ犯罪ヲ構成セサルモノトス

【判例】一八七

銀行ノ取締役ノ損害賠償ノ

責任(東京控訴院六、一〇、

二四)

銀行ノ取締役カ缺損及ヒ横領ノ事實ヲ陰蔽シ銀行資産ノ堅實營業

(判一八七)

第二 監査役ニ對スル會社ノ訴訟

〔二八一〕 會社ヨリ監査役ニ對シテ爲ス訴訟ハ取締役ニ對スル場合ノ如ク株主總會ノ決議ニ基クモノト所謂小數株主權者ノ請求ニ基クモノトノ二種ニシテ監査役ト取締役トノ地位ヲ轉倒スルニ過キザルモノトス(一八七)

【書式】 一〇四、監査役ニ對スル訴訟提起ノ請求書(書式一〇

三參照)

第五款 小數株主權

〔二八二〕 株式會社ハ社團ニシテ多數者ノ團體ナルヲ以テ株主總會ノ決議モ取締役ノ業務執行モ一ニ多數決ニ因ルカ故ニ多數壓制ノ弊ヲ生シ且ツ取締役及ヒ監査役ノ專横ヲ免レス故ニ此弊ヲ避ケ專横ヲ制セサルヘカラス是レ實ニ商法カ多數決ニ對シ小數ノ意思ヲ對立セシムル爲メ所謂小數株主權ナルモノヲ認メタル所以ナリ

〔二八三〕 小數株主權トハ其一人タルト數人タルトヲ問ハス資本ノ十

(判一八七)

ノ健全ヲ裝假シテ會社債權者ヲ害スル意思ヲ以テ當座預金貸越割引手形ニ依ル貸出等ノ形式ノ下ニ日記帳其他ノ營業帳簿ヲ偽造シ虛偽ノ利息及ヒ割引料ノ收入ヲ算出シ存在セサル利益ヲ之レアルモノノ如ク詐ハリ貸借對照表財産目錄其他損益計算書等ヲ作成シテ毎計算期ニ會社財産ヨリ不法ニ利益ノ配當ヲ爲シ來リシ爲メ第三者カ同銀行ニ對シ預金ヲ爲シ之レヲ繼續シ敢テ事前ニ其回收ヲ爲サバリシハ右虛偽ノ貸借對照表ノ公告ニ依リ同行ノ資産信用ヲ誤信シタルノ結果ナリト認定スヘキヲ以テ右取締役ノ行爲ハ何レモ其故意ニ出テタルモノニシテ第三者ノ預金ノ回收

分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スルトキハ其株主ハ左ノ權利ヲ有スルモノ

トス然レトモ此權利ハ定款ヲ以テ擴張スルコトヲ得ルモ制限スルコトヲ得サルモノトス

(一) 株主總會招集ノ請求權(一六〇、非訴二二六ノ一項、一三一)

(二) 株主總會ノ招集權(一六〇)

(三) 取締役及ヒ監査役ニ對シ訴訟提起ノ請求權並ヒニ代表者ノ指定

權(一七八、一八五、一八七)

(四) 検査役選任請求權(一九八)

(五) 清算人解任請求權(二二八)

〔二八四〕 而シテ所謂小數株主權者タルニ違セサル株主ト雖モ株主總會ノ決議無効ノ請求ニ關スル訴權ハ之レヲ有スルモノトス(一六三)

【書式】 一〇五、取締役監査役ニ對スル訴訟提起ノ請求書(書

式一〇二、一〇三參照)

【書式】 一〇六、検査役選任請求申請書(書式一〇七參照)

ヲ不可能ニ陥ラシメタル原因ヲ爲スモノトス

【例】 一八八

取締役、監査役ト虛偽ノ貸

借對照表(大審院四五、五、

六)

虛偽ノ財財目錄貸借對照表ヲ公告シタルニヨリ他人ニ損害ヲ及ボシタル會社ノ取締役及ヒ監査役ハ不法行爲ノ責任ヲ免レサルモノトス

【判例】 一八九

商法第一七六條ノ違反ト損

害賠償責任者(大審院七、

七、一二)

商法第一七六條ニ依リ監査役ノ承認ヲ得ルハ會社ト取引ヲ爲ス取締役ノ法律上ノ義務ニ屬シ相手方

第六款 検査役

〔二八五〕 株式會社ノ常設的監査機關タル監査役以外ニ臨時的機關トシテ検査役ナルモノアリ即チ検査役ハ會社ノ發起設立並ニ募集設立ノ場合及ヒ所謂小數株主權者ノ要求ニ依ル場合竝ニ一般ノ株主總會及ヒ監査役ノ招集スル株主總會ノ場合ニ於テ選任セラルルモノトス(一四二一三四、一六〇ノ二項、一八二、一九八、二三四、二一四ノ二項) 蓋シ検査役ハ會社ノ計算ノ是非正否ヲ調査スル爲メニ設置スル臨時機關ニシテ必スシモ其株主タルコトヲ要セサルモノトス而シテ株主總會ニ於テ選任セラル、者ハ會社ト契約上ノ關係ニアリ裁判所ニ於テ選任セラル、者ハ半ハ公職ニ類スルモ亦會社ノ機關ニ外ナラス

第一 會社設立ノ場合ニ於ケル 検査役

〔二八六〕 株式會社ノ設立ノ場合ニ於ケル検査役ノ選任ハ發起設立及ヒ募集設立ノ場合ニ依リ其手續ニ相違アルモ其職務ハ同一ナリトス

(判一九〇)

ル會社ヲ代表スル他ノ取締役又ハ支配人ノ義務ニ屬セサルモノトス

【判例】一九〇

商法第一七六條適用ノ範圍

(大審院四、一〇、二二)

商法第一七六條ニ於ケル第三者ノ爲メニスル場合中ニハ當ニ取締役カ私法上ノ代理人トシテ會社ハ取引ヲ爲ス場合ノミナラス又公法上ノ市町村長トシテ市町村ヲ代表シテ會社ト取引ヲ爲ス場合ヲモ包有スルモノト解セサルヘカラス所謂取引トハ汎ク財産權ニ關スル法律行爲ヲ爲スコトヲ指稱シ必スシモ有償行爲ノミニ限定セラレタルモノニアラス同條ニハ取引ノ種類又ハ性質ニ付キ何等ノ制限ナキヲ以

〔二八七〕 其選任方法ハ起發設立ノ場合ハ會社成立ノ後選任セラレタル取締役ヨリ検査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求シ募集設立ノ場合ハ發起人中ヨリ取締役及ヒ監査役ノ選任アリタルトキニ限り創立總會ニ於テ發起人以外ノ株式引受人ヨリ之レヲ選任スルノ差異ニ過キサルモノトス(一二四、一三四)

第二 監査役ノ招集スル株主總會 ノ検査役

〔二八八〕 監査役カ株主總會ヲ招集スル必要アリト認め其招集ヲ爲シタル場合及ヒ裁判所ノ命令ニ依リ之レヲ爲シタル場合ノ總會ハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得ルモノトス(一八二、一九八、非訴一三〇)

第三 小數株主權者ノ請求ニ基ク 検査役

〔二八九〕 所謂小數株主權者ハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査

テ苟モ取締役ト會社トノ間ニ於テ爲スモノナル以上如何ナル取引ニ付テモ監査役ノ承認ヲ要スル趣旨ト解セサルヘカラスレハ債權者ノ交替ニ因ル更改ノ場合ニ於テモ同條ノ適用アルヘキモノト爲スヲ當トス

【判例】一九一

取締役ノ職責ト株金拂込ノ義務(東京地方裁判所三四、

一〇、一五)

商法第一七四條ニ依リ會社カ資本ノ半額以上ヲ失ヒタル場合ニハ取締役ハ株主總會ヲ招集スル職責アルモ株主ハ取締役カ此職責ヲ盡サストノ理由ヲ以テ自己ノ義務タル株金ノ拂込ヲ拒ムコトヲ得ス

【判例】一九二

監査役ノ承認ナキ會社對取

締取引ノ手形效力(大審

(判一九一、一九二)

スル爲メ裁判所ニ検査役ノ選任ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス(一九八)此調査ハ現在ノコトニ止マラス既往ニ遡及シテ之レヲ爲サシムルコトヲ得ルモノトス

【二九〇】右ノ手續ハ非訟事件手續法第一二七條第一二八條第一二九條ノ二及ヒ三、四ノ規定ニ從フモノニシテ會社ノ本店所在地ノ地方裁判所ニ申請ノ事由検査ノ目的年月日裁判所ノ表示ヲ爲シ申請スルモノトス(非訴一二六、一二七)此場合ニ於テ裁判所ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽キ選任ニ關スル裁判ヲ爲スモノトス(非訴一二九ノ二)

【書式】一〇七、検査役選任ノ申請書

株式會社ノ業務及ヒ財産調査ノ爲メ検査役選任申請

何府縣何市何町何番地

何々株式會社何株所有株主

何府縣何市何町何番地族稱職業

申請人 何

某

(以下申請株主ノ氏名住所列記)

何府縣何市何町何番地

申請代理人 何

某

申請ノ理由

右何々株式會社ハ資本總額金何圓其一株ノ金額何圓株數何株ニシテ申請人等ハ其資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主ナル處右會社ハ何年何月設立以來何回定期計算ニ於テ毎回何割ノ割合ノ配當ヲ爲シ來リ有利ノ會社ナルニ拘ハラズ本年何月ニ至リ俄ニ何々銀行ニ對シ會社財産ヲ擔保トシテ金何圓ノ借入ヲ爲シタリ而モ他ニ於テ營業ヲ擴張スルノ計畫及ヒ形跡ヲ認メヌ又タ社會ノ狀況ニ於テ俄ニ營業上損失ヲ來スヘキ事情ノ變動ナキニ拘ハラズ一時ニ斯ル借入金ヲ爲シ且ツ會社財産ヲ擔保ト爲スカ如キハ會社財産シテ危カラシムルノミナラス若シ果シテ斯カル必要アルニ於テハ會社ノ業務ニ關シ相當ノ處分若クハ警戒ヲ爲ササル可ラス是レ實ニ株主タル申請人等ニ大ニ利害關係ヲ有スル所ニ有之依ツテ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ如何ナル狀況ニ存スルカヲ調査スル必要アリ即チ茲ニ之レカ調査ノ爲メ商法第九十八條非訟事件手續法第二百二十六條及ヒ第三百三十一條ニ依リ検査役ノ選任ヲ申請スル次第ニ有之候

(判一九三)

院(聯)四二、一二、二)

會社カ其取締役ノ一人ニ對レ約束手形ヲ振出スニ當リ該取締役ニ於テ監査役ノ承認ヲ得サマリシトキハ其所待人ノ取締役タルト被裏書人タルトヲ問ハス又被裏書人ノ善意ナルト否トヲ分タス會社ハ常ニ手形ノ無效ヲ主張シテ支拂ノ請求ヲ拒ムコトヲ得ルモノトス

【判例】一九三

取締役對會社間ノ取引ト監査役ノ承認(大阪控訴院五、一一、二)

株式會社ノ取締役カ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲スニハ豫メ其取引ニ付キ特定のニ監査役ノ承認ヲ得ルコトヲ要シ其承認ヲ得スシテ爲シタル取引ハ絕對ニ無効トス商法第一七六條ニ所謂監査役ノ承認トハ特定ノ取引ニ付キ

特ニ與ヘラレタル承認ヲ云フモノニシテ概括的ノ承認ヲ云フモノニアラズ

【判例】一九四

取締役支配人對會社間ノ取引ト背任罪ノ成立(大審院刑一、五、九、二一)

立法者ハ民事商事ニ關シ原則トシテハ同法律行爲ニ付キ其相手方ノ代理人ト爲ルコトヲ禁止シ唯取締役カ監査役ノ承認ヲ得テ自己ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲ス場合ニ限り其除外例ヲ認メタリ仍テ會社ノ支配人カ自己ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲スニ際シ自ラ會社ノ相手方ト爲リ又ハ會社ノ支配人カ監査役ノ承認ヲ得スシテ自己ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲シ且ツ其取引ニ關シ自ラ會社ノ相手方ト爲リタル行爲ハ立法ノ趣旨ニ鑑ミ會社ノ利益ニ重大

(判一九四)

検査ノ目的

- 一、何々株式會社ノ業務ノ狀況如何殊ニ他ヨリ金錢ノ借入ヲ爲スノ必要ノ有無
 - 二、何々株式會社ノ會社財産ノ狀況如何
- 申請ノ趣旨

前記検査ノ目的ノ事項ヲ調査セシムル爲メ検査役選任相成度此段申請候也

附屬書類

- 一、何某株式會社登記簿本 一通
- 一、定款及ヒ株主名簿抄本 一通
- 一、委任狀 何通

年月日

右申請人

代理人 何 某

何地方裁判所長判事 何 某 殿

第四 株主總會ニ於ケル検査役

【二九一】 株主總會ハ取締役ノ提出シタル書類及ヒ監査役ノ報告書ヲ調査セシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得ルモノトス(一六〇ノ二)

【二九二】 而シテ又新株發行ノ場合ニ於テ其經過調査ノ爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得ルモノトス(二二四ノ二項) 清算ノ場合モ亦同シ

第五 検査役ノ責任及ヒ報酬

【二九三】 裁判所ヨリ選任セラレタル検査役ハ選任申請ノ趣旨(二二四、一九八)ニ依リ商法所定ノ事項(二二二、一九八)ヲ調査シ検査ノ結果ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要スルモノトス而シテ其報告ハ書面ヲ以テ之レヲ爲スヘキモノトス(非訴一二八ノ一項)此任務ヲ怠リタルトキハ刑罰ヲ受クヘキモノトス(三六一)

【二九四】 裁判所ハ前項ノ検査役ノ報告ニ付キ其説明ヲ必要トスルトキハ検査役ヲ審訊スルコトヲ得ルモノトス 非訴一二八ノ二項)

【二九五】 裁判所ハ其選任シタル検査役ニ對シ會社ヨリ報酬ヲ與ヘシ

(判一九五、一九六)

ナル影響ヲ及ホスモノナルコト論ヲ俟タス從ツテ其支配人又ハ取締役ハ其任務ヲ誠實ニ遂行シタルモノト謂フヘカラス之レヲ背任行爲ト認ムヘキハ勿論ナリ

【判例】一九五

監査役ノ承認ヲ得サル引取

(大審院四二、一二二、一二)

商法第一七六條ニ於テ取締役ハ監査役ノ承認ヲ得タルトキニ限り自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得ト規定シアルハ株式會社ノ取締役カ監査役ノ承認ヲ得スレテ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ禁止シタル法意ナルコト明カナルヲ以テ本條ノ規定ニ違反シタル取引ハ取消シ得ヘキ行爲ニアラスシテ全然無効ナリ

【判例】一九六

監査役承認ノ方法(大審院

三七、六、二一)

商法第一七六條ニ所謂監査役ノ承認トハ一切ノ取引ヲ爲スコトヲ豫メ承認スト云フカ如キ概括的ノ承認ノ指示スルモノニアラスシテ特定ノ取引ニ付キ殊ニ與ヘラレタル承認ヲ指スモノト解釋セサルヘカラス

【判例】一九七

商法第一九二條但書(大審院

院一一、三、一一)

商法第一九二條但書ノ規定ハ取締役又ハ監査役カ計算書類ノ承認ヲ求ムルニ付キ不正ノ行爲ヲ爲シタル場合ハ勿論此等ノ者カ其任務ニ背キテ不正ノ行爲ヲ爲シ株式會社ニ對シテ損害ヲ加ヘタル場合ヲ包含スルモノトス

【判例】一九八

(判一九七、一九八)

ムルコトヲ得ルモノトス但シ其報酬額ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽キ之レヲ定メルモノトス(非訴一二九ノ三)右ノ報酬支拂命令ノ裁判ニ對シテ會社ニ於テ異議アルトキハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(非訴一二九ノ三)

(判一九九)

監査役ノ承認(大審院五、一〇、二五)

商法第一七六條ノ承認ハ監査役カ數人アル場合ト雖モ其一人ニ於テ之レヲ爲スヲ以テ足ルモノトス

【判例】一九九

會社ノ支配人及ヒ取締役ノ自己ノ爲メニスル會社取引ト犯罪構成(大審院刑五、九、一)

會社ノ支配人カ自己ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲スニ際シ自ラ會社ノ相手方ト爲リ又ハ取締役カ監査役ノ承認ヲ經スシテ自己ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲シ且ツ其取引ニ關シ自ラ會社ノ相手方ト爲リタル行爲ハ之レヲ立法ノ趣意ニ鑑ミ會社ノ利益ニ重大ナル影響ヲ及ホスヲ以テ誠實ニ其任務ヲ遂行シタルモノト云フコトヲ得ス故ニ刑法上背任罪

ヲ構成スヘキモノトス

【判例】二〇〇

取締役ノ使用人カ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキノ責任(大審院三六、三、一四)

民法第四四條第二項ノ規定ハ商法第一七〇條ニ依リ株式會社ノ取締役ニ準用スヘキモノナルカ故ニ取締役カ被用者ノ選任又ハ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ怠リ因ツテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ法人タル會社ニ於テ責ニ任スヘキモノトス

【判例】二〇一

支配人ノ行爲ニ關スル會社責任(大審院六、四、七)

商法第六二條第二項ニ於テ民法第四四條第一項ノ規定ヲ合名會社ニ準用シ商法第一七〇條第二項ニ於テ同法第六二條ノ規定ヲ取締役ニ準用シアリ依ツテ株式會社ハ取

締役カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニカヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任スヘキモノトス

【判例】二〇二
會社ノ支配人カ職務ヲ行フニ付キ他人ニカヘタル損害ヲ賠償スヘキ責ニ任スヘキモノニアラサルコト明ナリ蓋シ支配人ハ商業使用人ノ一種ニシテ會社ト委任關係並ニ雇傭關係ニ立ツモノニシテ會社ノ機關ニアラサレハナリ故ニ會社カ支配人ノ選任及ヒ監査ニ付キ注意ヲ怠リタルトキハ民法第七一五條ニ依リ其他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任スヘキモ民法第四四條第一項ノ準用ニ依リテ責ニ任スヘキモノニアラス

【判例】二〇三

監査役ノ調査ノ代理行爲(東京地方裁判所三四、三〇、二一)

監査役カ會社ノ帳簿ヲ検査スル權

ハ會社ノ内部ニ於ケル機關ト機關トノ間ノ關係ニシテ監査役ヲ信任シ之レニ附與シタル職權ナレハ性質上其人ニ專屬シ他人ニ代理セシメ得ヘキモノニアラス故ニ監査役カ代理人ニ委任シ之レカ調査ヲ求メタル場合ニ於テ取締役カ之レヲ拒絕シタルハ違法ニアラス

【判例】二〇三

取締役ノ報酬ト創立總會ノ決議(大審院二、五、一三)

創立總會ニ於テ取締役及ヒ監査役ノ受クヘキ報酬ノ額ヲ定ムルコトヲ得ヘキ法規ナク又創立總會ニ對シテ株主總會ニ關スル規定ヲ準用スヘキ旨ノ法律ナキヲ以テ創立總會ニハ其選任ニ係ル取締役及ヒ監査役ノ受クヘキ報酬ノ額ト雖モ尙ホ之レヲ定ムルノ權限ナキモノト云サルヲ得ス